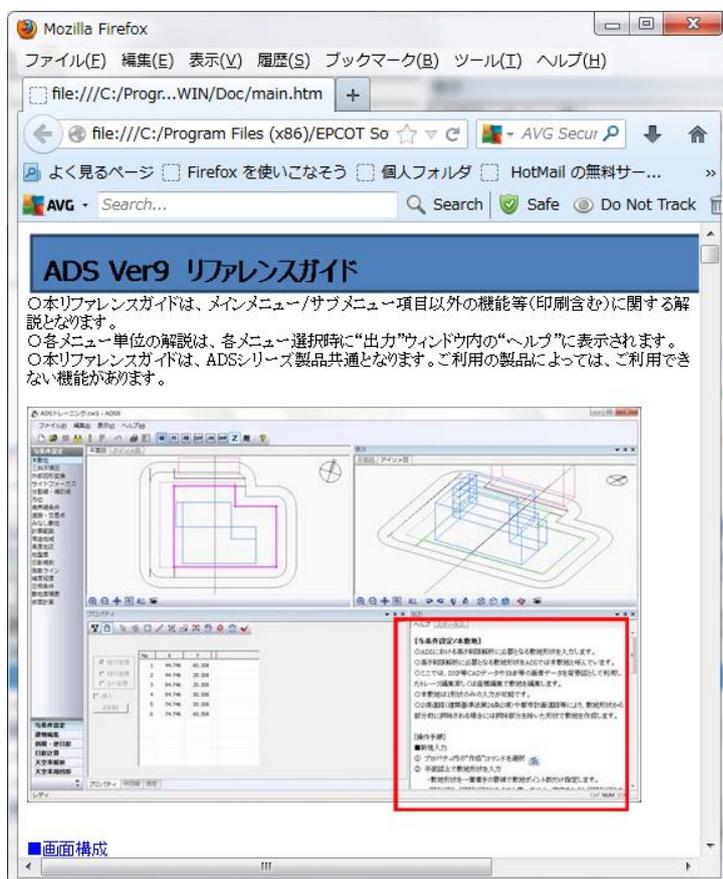
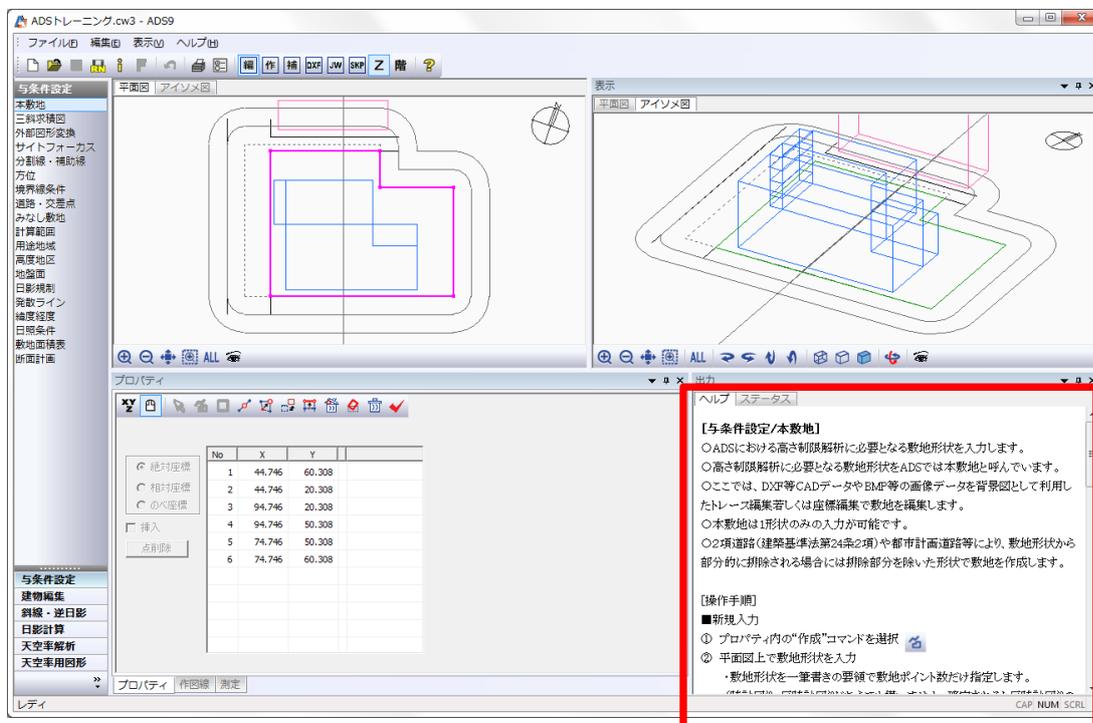

ADS Ver9 リファレンスガイド

第3版 (1603)
生活産業研究所株式会社

■ご利用にあたって

- 本リファレンスガイドは、システムから起動させるヘルプと同一内容となります。
- 各メニュー単位の解説は、各メニュー選択時に“出力”ウィンドウ内の“ヘルプ”に表示されます。
- 本リファレンスガイドは、ADS シリーズ製品共通となります。ご利用の製品によっては、ご利用できない機能があります。



<目次>

ADS Ver9 リファレンスガイド	1
■ 画面構成	11
① メインメニュー及びサブメニュー	11
② 図形表示ウィンドウ（固定）	11
③ 図形表示ウィンドウ（可変）	12
④ プロパティ.....	12
⑤ メッセージバー	12
⑥ 出力.....	12
⑦ ツールアイコンバー.....	12
■ ドッキングウィンドウについて	13
○プロパティ WINDOW に関して.....	13
○WINDOW の独立及びドッキング.....	15
■ 図形表示ウィンドウ	16
○タブの種類.....	16
○画面表示設定コマンド.....	16
■ ツールアイコン	17
■ システムの起動/終了	19
■ データの新規作成	19
■ 既存データを開く	19
■ データの保存	19
■ データの削除	19
■ データの追加	20
■ データインポート	20
■ データエクスポート	20
■ 環境設定	21
○方位マーク設定	21
○日照計算条件設定	21
○線設定	22
○建物形状	22
○フォルダの指定.....	23
○天空率	24
○その他.....	24
■ バージョン情報	25
■ 作図線	26
○平行線	26
○垂直線	27
○傾斜線 1	28
○傾斜線 2.....	29
○テーブルについて	29
○テーブルの追加	30

○テーブル名の変更	30
○テーブルの削除	30
○テーブルの複写	30
■測定	31
○単一距離の測定	31
○連続距離の測定	31
○面積の測定	32
○角度の測定(線分タイプ)	32
○角度の測定(3点指定タイプ)	32
■印刷プレビュー	33
■印刷の流れ	35
■印刷環境設定	36
■画面表示設定	36
■画面表示設定 (アイソメ図用)	36
■出力設定	37
■図形の設定	37
■文字列設定	37
■図形/表の位置設定	38
■フォントの設定	39
■ペン設定	40
■余白設定	41
■線幅設定	41
■印刷設定	42
■作業手順	43
■レイアウト後の変更	44
○レイアウト (位置・サイズ) を変更	44
○表示内容及び縮尺の変更	44
○文字列の更新	45
■シートの編集	45
○シートの追加及びシート名の変更等	45
■その他	45
○レイアウトされたオブジェクト (図形・表) を削除する	45
○複数のオブジェクト (図形・表) を揃える	45
○複数のオブジェクト (図形・表) をまとめて移動する	45
■シートの編集	46
○新規シート追加	46
○シート名編集	46
○シート削除	46
○シートをリストから選択	46
○レイアウト情報の読込	47
○レイアウト名の編集	47
○レイアウト名の編集	47

○レイアウト名の編集.....	47
■文字列編集.....	48
○新規作成	48
○道路幅・敷地境界文字列の作成	48
○みなし敷地・規制ライン文字列の作成.....	49
○文字列の再計算.....	49
○自動・手動配置	50
○既存文字列の編集.....	51
■出力	52
○プリンタ出力	52
○DXF 出力.....	52
与条件設定	
[与条件設定/本敷地]	53
■新規入力	53
■既存本敷地の編集.....	54
[与条件設定/三斜求積図]	55
■新規作成の場合.....	55
■複数の求積図を合成する場合	57
■予め入力された本敷地に対して行う場合	57
[与条件設定/外部図形変換]	58
■本敷地登録.....	58
■線登録	59
■建物登録	60
■建物の登録に関して.....	61
[与条件設定/サイトフォーカス]	62
[与条件設定/みなし敷地]	63
[与条件設定/分割線・補助線]	64
■新規入力の場合.....	64
■既存の線分を編集する場合	64
■用途地域・高度地区・地盤面の分割線を入力する場合の注意事項.....	65
■日影規制の分割線を入力する場合の注意事項	66
[与条件設定/方位]	67
■平面図内でトレースする場合	67
■境界線から角度入力する場合.....	67
[与条件設定/境界線条件]	68
[与条件設定/道路・交差点]	69
[与条件設定/計算範囲]	70
[与条件設定/用途地域]	71
[与条件設定/高度地区]	72
[与条件設定/地盤面]	73
[与条件設定/日影規制]	74
[与条件設定/発散ライン]	75

[与条件設定/緯度経度]	76
■リストからの選択の場合	76
■目的の緯度経度がリストにない場合	76
[与条件設定/日照条件]	77
[与条件設定/敷地面積表]	78
[与条件設定/断面計画]	79
建物編集	
[建物編集/ブロック編集]	80
■システム内における建物（建物ブロックと中空ブロック）	81
■建物形状の制限について	82
■建物形状の高さについて	83
■建物形状（ブロック）の選択について	83
★単一ブロックの選択	83
★複数ブロックの選択	84
■新規入力（任意形状）	84
■新規入力（矩形）	85
■新規入力（円作成-3点）	85
■新規入力（円作成-中心）	85
■ブロック編集（点挿入）	86
■ブロック編集（点移動）	86
■ブロック編集（辺移動）	86
■ブロック編集（上面移動）	86
■ブロック編集（下面移動）	87
■ブロック編集（点削除）	87
■ブロック編集（ブロック移動）	87
■ブロック編集（ブロック複写）	88
■ブロック編集（ブロック回転）	88
■ブロック編集（垂直移動）	89
■ブロック編集（垂直複写）	89
■ブロック編集（合成）	90
■ブロック編集（水平面カット）	90
■ブロック編集（垂直面カット）	91
■ブロック編集（ブロック削除）	91
■ブロック編集（図形チェック）	92
■座標入力	93
[建物編集/リスト編集]	94
■絶対高表示（絶対値での高さ設定）	94
■階数依存表示（断面計画で設定した階高に依存した高さ設定）	95
[建物編集/傾斜（3点）]	96
[建物編集/傾斜（斜線）]	97
■道路境界線を選択した場合	98
■隣地境界線が選択された場合	98

[建物編集/フロア計画]	99
[建物編集/ドーム屋根]	100
[建物編集/ヴォールト屋根]	102
[建物編集/パラペット]	104
[建物編集/切妻屋根]	105
[建物編集/寄棟屋根]	107
[建物編集/方形屋根]	108
斜線逆日影	
[斜線逆日影/計算条件]	110
■ 新規に設定して計算する場合	110
■ その他のコマンド	112
[斜線逆日影/断面図]	113
[斜線逆日影/面積計画表]	114
[斜線逆日影/建物高チェック]	115
[斜線逆日影/建物後退距離]	116
日影計算	
[日影計算/形状図]	117
[日影計算/等時間図]	118
■ 計算方法に関して	118
■ 自動検索計算（追跡法）の場合	119
■ 指定検索計算（追跡法）の場合	119
■ 規制時間計算（メッシュ法）の場合	119
■ 単位時間計算（メッシュ法）の場合	120
★ 計算を途中で止めたい場合	120
[日影計算/規制ラインチェック]	121
[日影計算/特定点]	122
[日影計算/基準倍率表]	124
[日影計算/建物高倍率表]	125
[日影計算/壁面編集]	126
[日影計算/壁面形状図]	127
[日影計算/壁面等時間図]	129
[日影計算/壁面特定点]	130
■ 計算結果の見方	130
天空率解析	
[天空率解析/簡易設定]	132
■ 境界線条件/領域条件	133
■ 横軸の色表示に関して	133
■ 初期化	133
■ 更新	133
■ 2A 処理	133
■ 2A 処理	133
■ 令 132 条・134 条 2 項処理（道路斜線の場合） <戻る>	134

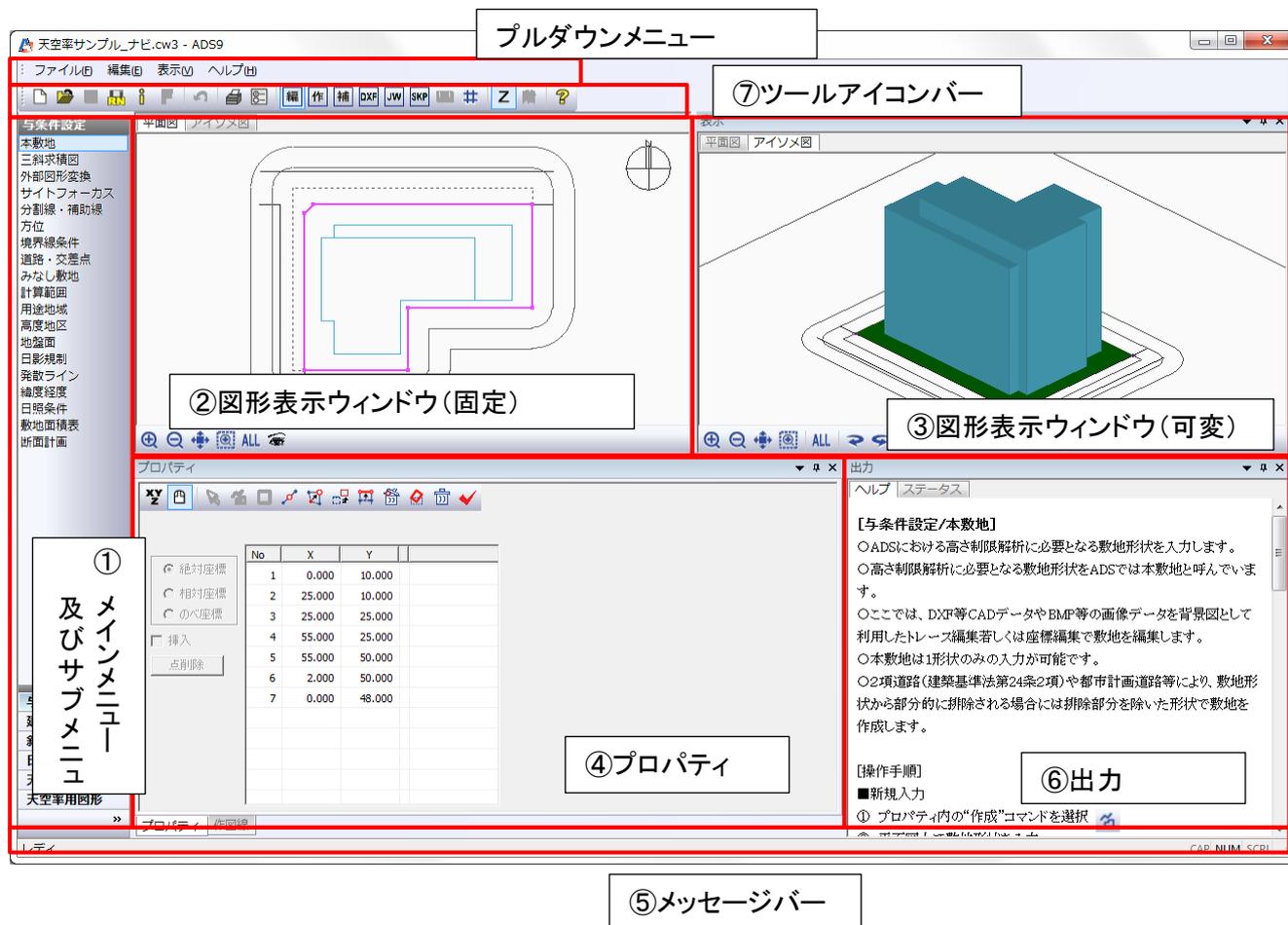
[敷地単位区域分け優先] (斜線制限範囲区分毎) <戻る>	134
[境界線単位区域分け優先]	136
[同一幅員で区域分けをする]	136
○設定 (チェック) が必要なケース.....	137
■東京方式/JCBA 方式.....	137
■条件編集	137
■北側斜線	139
[天空率解析/境界条件]	140
■初期化	140
■更新	140
■2A 処理.....	141
■令 132 条・134 条 2 項処理 (道路斜線の場合)	142
[敷地単位区域分け優先] (斜線制限範囲区分毎)	142
[境界線単位区域分け優先]	143
[同一幅員で区域分けをする]	144
○設定 (チェック) が必要なケース.....	144
■隅切処理	145
■播鉢 (始点/終点)	146
■建物後退	146
■前面計画建築物	146
[天空率解析/領域リスト]	147
[天空率解析/領域条件]	148
■基本画面	148
■基本処理	148
○基本	148
○放射	149
■ [適合] 端点処理	149
■ [測定点] 端点処理	150
■測定点番号表示	150
■領域条件のパターン	151
■端点処理任意設定	151
■路地上敷地の場合	152
■入隅部分 1/2 判定.....	153
■入隅措置 2	154
[天空率解析/グループ]	155
[天空率解析/天空率計算]	156
■天空率計算 (ダイアログボックス)	156
●計算 1 (積分計算)	156
○計算対象とする領域.....	157
○計算方法	157
●計算 2 (求積計算)	157
○計算対象とする領域.....	157

○計算対象とする測定点	158
○位置確認の自動探索	158
○計算方法	158
○全計算にチェック	158
○高精度	158
■天空率計算結果の見方	159
[天空率解析/求積表]	161
[天空率解析/位置確認]	162
[天空率解析/放射範囲]	163
[天空率解析/立断面線]	165
[天空率解析/グラフ]	167
[天空率解析/適用距離]	168
[天空率解析/影響建築物]	169
[天空率解析/複合隣地]	170
■測定ラインの編集に関して	172
[天空率解析/自動カット]	173
[天空率解析/ナビ]	174
■方位角で調整	174
■仰角で調整	176
[天空率解析/比較]	178
[天空率解析/適合後退ナビ]	179
天空率用図形	
[天空率用図形/ブロック編集]	181
■建物形状（ブロック）の選択について	182
■新規入力（任意形状）	183
■新規入力（矩形）	183
■新規入力（円作成-3点）	184
■新規入力（円作成-中心）	184
■ブロック編集（点挿入）	184
■ブロック編集（点移動）	185
■ブロック編集（辺移動）	185
■ブロック編集（上面移動）	185
■ブロック編集（下面移動）	185
■ブロック編集（点削除）	185
■ブロック編集（ブロック移動）	186
■ブロック編集（ブロック複写）	186
■ブロック編集（ブロック回転）	187
■ブロック編集（垂直移動）	187
■ブロック編集（垂直複写）	187
■ブロック編集（合成）	188
■ブロック編集（水平面カット）	188
■ブロック編集（垂直面カット）	189

■ブロック編集（ブロック削除）	190
■ブロック編集（図形チェック）	190
■座標入力	191
[天空率用図形/リスト編集]	193
[天空率用図形/測定ライン]	194
[天空率用図形/異幅道路（1面）]	195
[天空率用図形/異幅道路（2面）]	198
マスプラン	
[マスプラン/グリッド編集]	200
[マスプラン/ブロック編集]	202
■編集前の断面計画の確認	202
■編集前の壁厚の設定	202
■自動作成（新規作成）	202
■ブロック作成（個別、新規）	203
■ブロック選択（1点）	204
■ブロック選択（矩形）	204
■ブロック移動	204
■ブロック複写	204
■ブロックの増減	205
■ブロック削除	205
■ブロックのグループ化	205
■グループ化の解除	205
■属性設定	206
■フロアブロック削除	206
■建物登録	206
[マスプラン/カット]	207

■画面構成

ADS の基本となる画面構成は以下の通りとなります。



① メインメニュー及びサブメニュー

○メインメニュー

与条件設定
建物編集
斜線・逆日影
日影計算
天空率解析
天空率用図形
マスプラン

※マスプランはオプション

- ・ウィンドウ左側下部の“与条件設定/建物編集・・・”がメインメニューとなります。
- ・メインメニューを選択してから、サブメニューを選択します。

○サブメニュー

- ・ウィンドウ左側上部がサブメニューとなります。
- ・メインメニュー毎に内容が切り替わります。

② 図形表示ウィンドウ(固定)

- ・各種図形を表示します。
- ・選択されたサブメニュー毎にタブ(平面図/アイソメ図等)の表示が変化することがあります。

-
- ・タブの基本は“平面図・アイソメ図”ですが、サブメニューによって追加されます。
 - ・表示位置は固定となります。



③ 図形表示ウィンドウ(可変)

- ・各種図形を表示します。
- ・固定タイプの内容は同等ですが、ウィンドウ自体を独立させたり、他のウィンドウに組み入れることが可能です。

④ プロパティ

- ・サブメニューに対しての情報及び設定コマンド等を表示します。
- ・サブメニュー毎に内容が異なります。
- ・サブメニュー選択後は、通常ここでの各種パラメータ編集/コマンド選択からの平面図等での図形編集となります。
- ・ウィンドウ自体を独立させたり、他のウィンドウに組み入れることが可能です。

⑤ メッセージバー

- ・サブメニューや各種コマンド等を選択した際のメッセージが表示されます。
- ・各種計算時には、計算途中で計算を止めることが可能な“中止”ボタンも表示されます。

⑥ 出力

- ・各種情報表示及びヘルプを表示します。
- ・ウィンドウ自体を独立させたり、他のウィンドウに組み入れることが可能です。

[ヘルプ]

- ・選択されたサブメニューのヘルプが表示されます。

[ステータス]

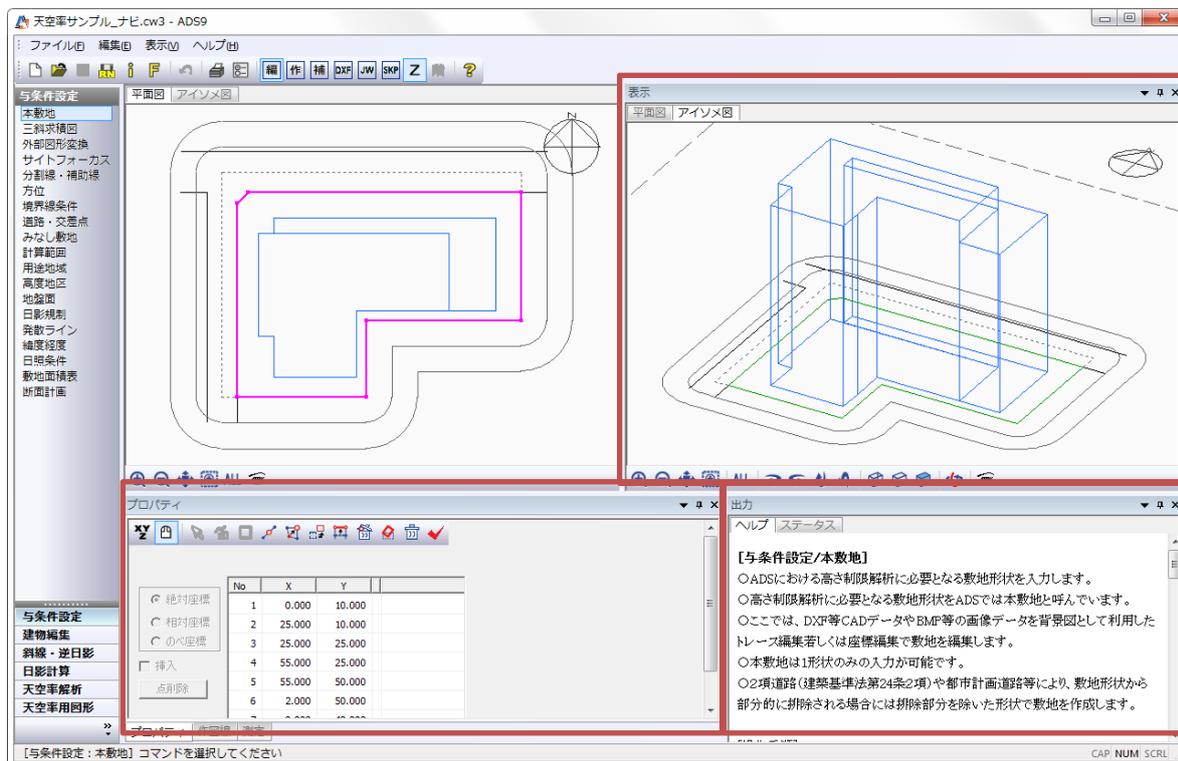
- ・与条件設定の設定内容が一覧で表示されます。

⑦ ツールアイコンバー

- ・サブ的なコマンドとして利用できるツールアイコンが表示されます

■ドッキングウィンドウについて

- ADS の WINDOW 内には、それぞれを独立させたり、ドッキングさせたりすることができます。
- 独立及びドッキング可能な WINDOW は、タイトルバーのある WINDOW です。



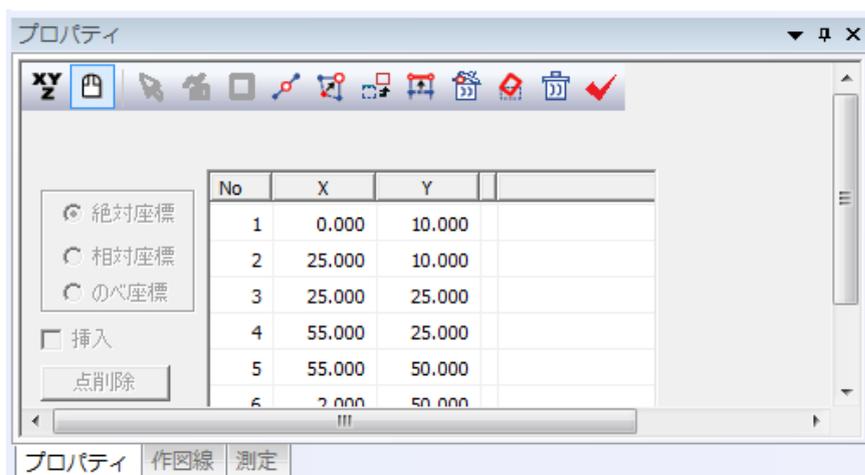
独立又はドッキング可能な WINDOW

※“表示／プロパティ／出力”が対象となります。

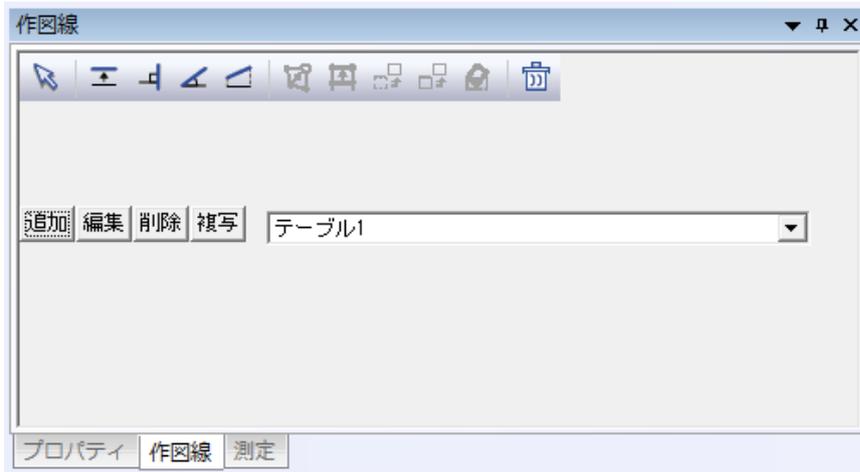
○プロパティ WINDOW に関して

- プロパティ WINDOW は、下部にタブが存在します。選択されているタブがタイトルバーに表示されます。
- 通常は“プロパティ”を選択しておいてください。

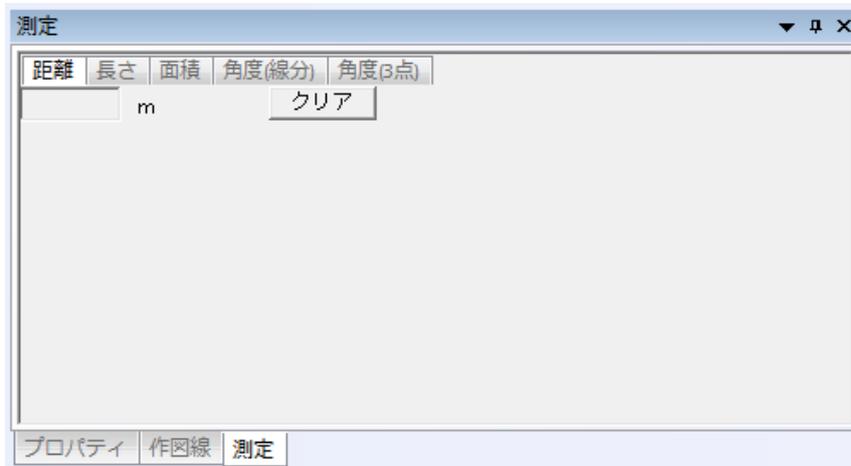
■プロパティ



■作図線

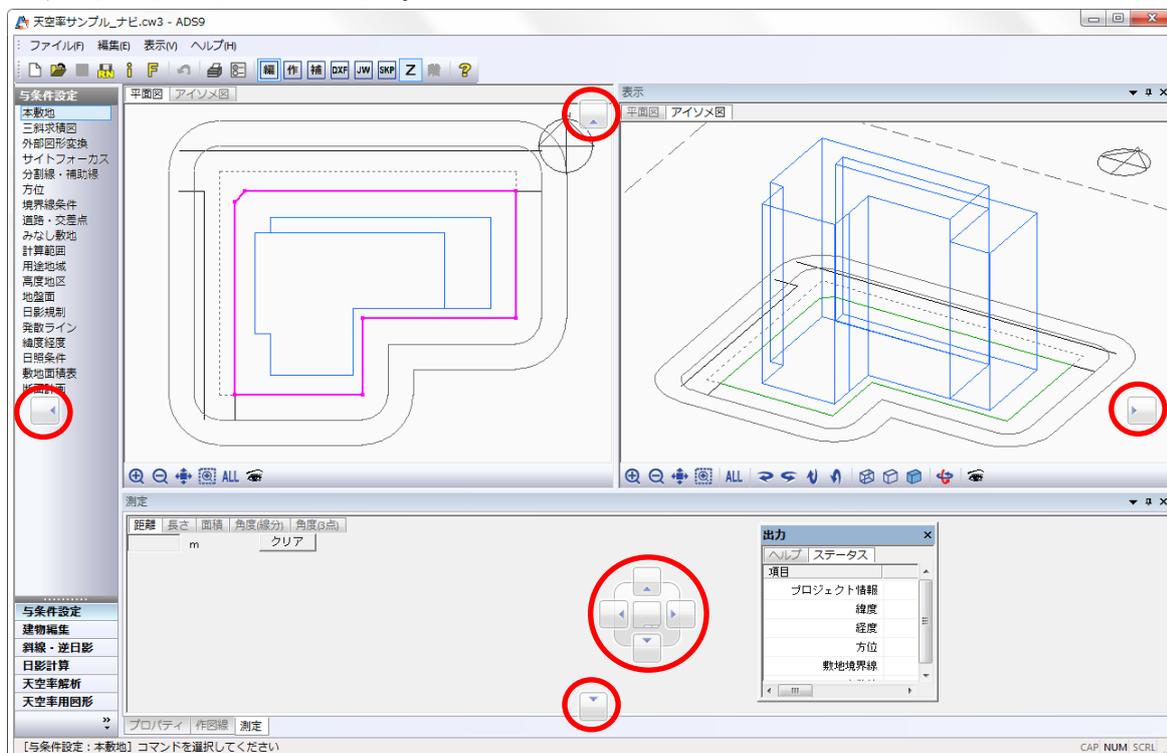


■測定



OWINDOW の独立及びドッキング

- 各タイトルバーをドラッグすると独立させることができます。(マルチモニタでの利用も可能)
- タイトルバーをドラッグしたさいに、画面上に表示されるマークが、ドッキング用のマークとなり、このマークの位置にドラッグしたままマウスカーソルを合わせるとドッキング可能となります。
- カーソルを合わせた時点で表示される塗り潰し範囲に埋め込まれ、各 WINDOW の中心に表示される↑ ↓ ← →マークの真ん中のマークに合わせる場合に WINDOW 同士がドッキングされます。
- WINDOW を間違えて消してしまった場合は、“プルダウンメニュー/表示/ツールバーとドッキングウィンドウ”の中の項目をチェックしてください。



ドッキングさせる場合にマウスカーソルを合わせる

■ 図形表示ウィンドウ

○ タブの種類

平面図	「与条件設定」で設定された敷地関係図形と、「建物編集」における建物形状が表示(共通)
アイソメ図	アイソメ図を「ワイヤーフレーム/陰線/シェーディング」で表示(共通)
ソーラーアイビュー	任意の日時の太陽の位置から見たアクソメ図を表示(日影計算内)
天空図	選択したポイントにおける天空図を表示(日影計算/天空率解析内)
断面図	斜線逆日影計算結果の断面図を表示(斜線逆日影内)
壁面図	壁面計算時の壁面を表示(日影計算内)

○ 画面表示設定コマンド

	拡大	表示図形を拡大 (Shift + PageUp)
	縮小	表示図形を縮小 (Shift + PageDown)
	移動	2点指示で表示図形を移動(1点目_基点+2点目_移動位置)
	矩形拡大	対角(2点)指定により任意の範囲を拡大
	全体表示	全体を表示

※()内はキーボードによる操作

※図形移動は、キーボードの矢印キーでも有効です。移動方向は“環境設定/表示画面”で変更可能です。

※マウスのホイールボタンを回すことで、表示図形の拡大・縮小も可能です。

※マウスのホイールボタンをドラッグすることで、図形の移動も可能です。

	回転左	表示データを左に回転 (Shift + ←)
	回転右	表示データを右に回転 (Shift + →)
	回転上	表示データを上に回転 (Shift + ↑)
	回転下	表示データを下に回転 (Shift + ↓)

	ワイヤーフレーム表示	線描画表示
	隠線表示	外部から見える線のみ表示
	シェーディング表示	全面を色表示
	表示項目の設定	画面の表示の設定／表示内容の変更が可能
	回転	ドラッグによりアイソメが回転します

■ツールアイコン

	新規ファイル	新規データ作成時に選択
	開く	既存データを呼び込む時に選択
	保存	データを上書き保存します
	名前をつけて保存	データに名前をつけて保存します
	インポート	すでに開かれているデータに他のデータの一部分を取り込みます
	フォント設定	フォントの「種類／スタイル／サイズ」を設定します
	元に戻す	直前の処理を元に戻します
	印刷プレビュー	印刷する内容を画面上で確認できます
	環境設定	本システムを使用するための環境が設定できます
	バージョン情報	ADSのバージョン情報及びユーザー様の契約情報が確認できます
	編集図面表示	通常、編集する際に選択されています

	作図図面表示	作図線を表示する時に選択
	補助図面表示	補助線を表示する時に選択
	DXF 図面表示	インポートされた DXF データを表示します
	JW 図面表示	インポートされた JW_cad データを表示します
	Skp 図面	インポートされた Sketchup データを表示します

	絶対高表示	ブロックの属性を「絶対高」で表示する時に選択
	階数依存表示	ブロックの属性を「階数依存」で表示する時に選択

※建物編集内でのみ有効です。

■システムの起動/終了

○システムの起動

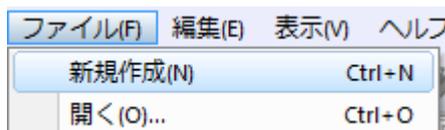
- ・WINDOWS のスタートメニュー又はデスクトップ上のショートカットから起動させます。

○システムの終了

- ・プルダウンメニュー/ファイルから“アプリケーションの終了”を選択します。

■データの新規作成

- ・新規に ADS のデータを作成します。
- ・プルダウンメニュー/ファイルより“新規作成”を選択します。



※ADS の新規起動時は、新規の状態となっています。

■既存データを開く

- ・ADS の既存データを読み込みます。
- ・プルダウンメニュー/ファイルより“開く”を選択します。

[ファイルの種類について]

- ・ADS 専用ファイル(*.cw3) : Ver9 用のプロジェクトデータ
- ・ADS 専用ファイル(*.cw2) : Ver8 以前のプロジェクトデータ
- ・ADX ファイル(*.adx) : ADX データ

※.cw3 は Ver9 共通のデータですが、下位互換がとれませんのでご注意ください。
(Ver9.3 のデータは Ver9.20 以下のバージョンでは開けません)

■データの保存

○上書き保存

- ・現在開いているファイル名に上書き保存します。
- ・プルダウンメニュー/ファイルより“上書き保存”を選択します。

○名前を付けて保存

- ・プルダウンメニュー/ファイルより“名前を付けて保存”を選択し、名前を付けて“保存”を選択します。

※旧バージョンへの保存はできません。

■データの削除

- ・ADS のデータを削除します。
- ・プルダウンメニュー/ファイルより“開く”を選択し、削除したいデータを選択してから“削除”を選択します。

■データの追加

・既に開かれているデータに他のデータの一部を取り込みます。

[操作手順]

- 1) プルダウンメニュー/ファイルより“データ追加・置換”を選択します。
- 2) “データの追加/置換”ダイアログボックスより、該当するデータを選択し、“開く”を選択します。
- 3) “データの追加/置換オプション”ダイアログボックスより、必要な項目を選択し、“OK”を選択します。

プロジェクト名		現在のプロジェクト名を置換します
備考		現在の備考欄を置換します
敷地		「敷地/みなし敷地」を置換します
補助線	置換	現在の補助線を置換します
	追加	現在の補助線に追加します
建物	置換	現在の建物を置換します
	追加	現在の建物に追加されます
断面計画	置換	現在の断面計画を置換します
	追加	現在の断面計画に追加します

■データインポート

○CAD データや画像データ等を背景としてインポートします。

[操作手順]

- 1) プルダウンメニュー/ファイルより“データインポート”を選択します。
- 2) “開く”ダイアログボックスより、ファイルの種類を選択します。

■データエクスポート

○ADS の図形データを外部出力します。(計算結果は出力できません)

○.DXF と.JWW に出力することができます。

○DXF 出力の場合は等高線(斜線逆日影)のデータも出力可能です。

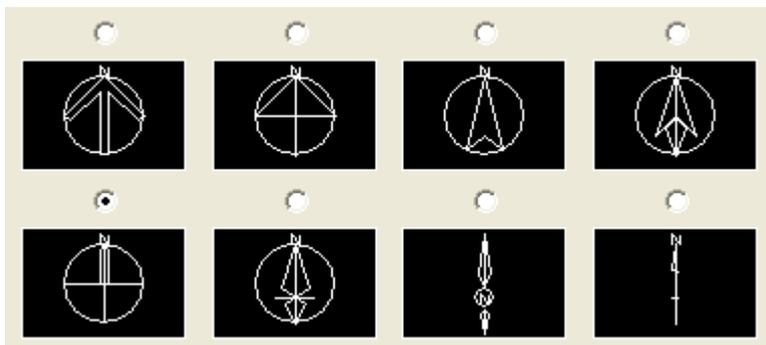
[操作手順]

- 1) プルダウンメニュー/ファイルより“データエクスポート”を選択します。
- 2) ファイルの種類を選択後ファイル名を入力し、“保存”を選択します。

■環境設定

○方位マーク設定

・平面図及びアイソメ図等に表示される方位マークを設定します。



○日照計算条件設定

・日影計算における初期値を設定します。

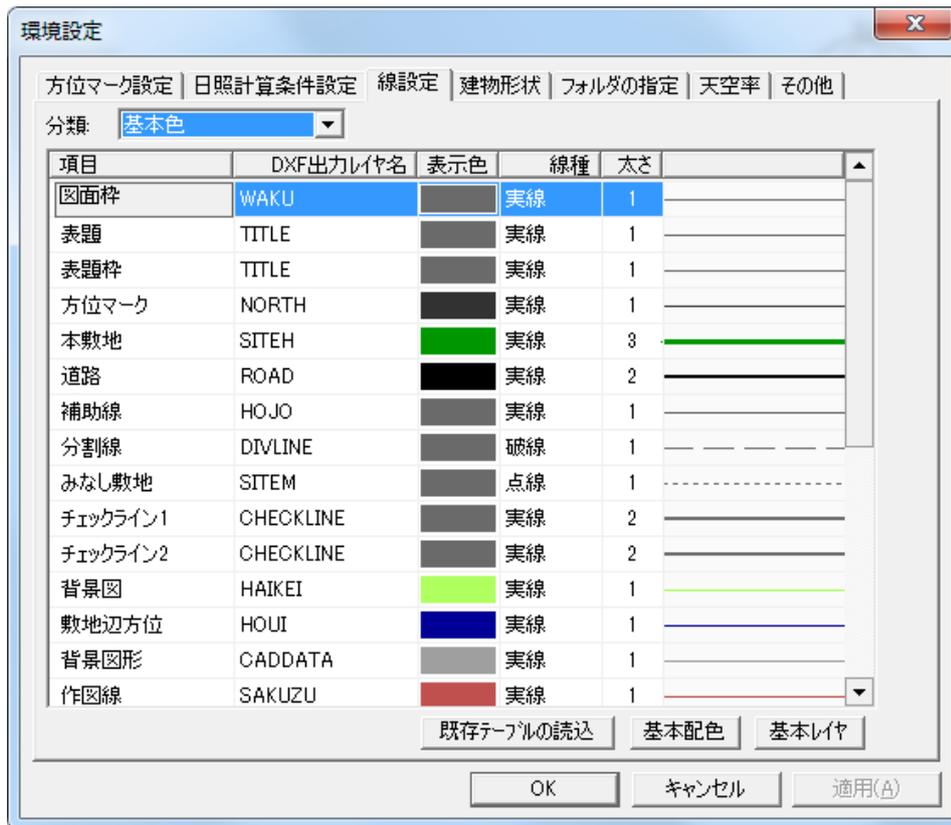
・ここで設定した内容は、新規プロジェクトにおける「与条件設定／日照条件及び緯度経度」での初期値となります。

節季:	冬至
太陽赤緯:	-23 度 27 分 0 秒
時刻法:	<input checked="" type="radio"/> 真太陽時 <input type="radio"/> 中央標準時
均時差:	分 秒
測定時間:	開始 8 時 0 分 終了 16 時 0 分
測定ライ:	1. 内側 5.000 m 2. 外側 10.000 m
緯度・経度:	東京都

※次回起動時から有効です

○線設定

- ・画面上に表示される線種／線色及び出力(印刷)の際の線種／線色を項目ごとに設定します。



分類	基本色、斜線／日影／建物関連、3D-EDIT より選択
項目	分類の項目毎に表示される
DXF 出力レイヤ名	出力するレイヤ名
表示色	画面に表示される色
線種	線の種類
太さ	線の太さ
既存テーブルの読込	既存テーブルを読み込む
基本配色	「表示色、線種、太さ」を初期設定に戻す
基本レイヤ	「DXF 出力レイヤ名」を初期設定に戻す

○建物形状

- ・ドーム／ヴォールト及び円／円弧編集時の分割数を設定します。

○フォルダの指定

- ・各種フォルダの指定を行います

The screenshot shows a settings dialog box with three sections:

- 自動バックアップ (Automatic Backup):** Includes a 'フォルダ指定' (Folder Specification) button, a text field containing 'C:\Users\sugawara\Documents', a checked '自動バックアップ' (Automatic Backup) checkbox, a spinner box set to '10', and the text '分ごとに行う' (Perform every 10 minutes). There is also an unchecked checkbox for 'バックアップファイルを削除しない' (Do not delete backup files).
- ヘルプフォルダ (Help Folder):** Includes a 'フォルダ指定' button and a text field containing 'C:\Program Files (x86)\EPCOT Software\ADS Series 9\WIN\doc'.
- 作業フォルダ (Work Folder):** Includes a 'フォルダ指定' button and a text field containing 'C:\Users\sugawara\Documents'.

[自動バックアップ]

- ・作業中のデータを、定期的に自動保存します。
- ・バックアップファイルは、保存先フォルダ内に“Backup (ファイル名)”として保存されます。
- ・空欄になっている場合は、任意のフォルダを指定してください。

[ヘルプフォルダ]

- ・ADS のヘルプファイルの保存先を指定します。
- ・システムのインストール時は、空欄ですが自動的に割り振られています。システムフォルダ内の“doc”フォルダを任意の場所に移動させる場合は、ここで定義してください。
- ・指定が間違っているとプロパティ隣のヘルプ(表示 window)が表示されません。

[作業フォルダ]

- ・作業中のデータを、一時的に確保する場所(フォルダ)を設定します。

[注意事項について]

- ・通常は変更しないでください。変更する場合は、「フォルダ指定」を選択後、作業する場所(フォルダ)を指定してください。
- ・ここで設定されたディレクトリ内には、作業中の関連ファイルが一時的に書き込まれますが、システムの終了と同時に削除されます。
- ・データの保存は、必ず「上書き保存／名前をつけて保存」で実行してください。

○天空率

- ・ 天空率解析等での初期値を設定します。

○その他

↑ ↓ ← → キー	ホイールボタン
<input checked="" type="radio"/> 図形を移動	<input type="radio"/> 下スクロールで拡大
<input type="radio"/> 視点を移動	<input checked="" type="radio"/> 上スクロールで拡大
背景色	
<input checked="" type="radio"/> 白 <input type="radio"/> 黒	
<input checked="" type="checkbox"/> ファイル マネージャに登録する	
<input type="checkbox"/> メインメニューを上部に固定する	
<input type="checkbox"/> 背景図の端点に○を表示する	
等時間計算	
<input type="radio"/> 自動検索(追跡法)	
<input checked="" type="radio"/> 規制時間(メッシュ法)	

- ・ ↑ ↓ ← → キー
移動する際の移動方法
- ・ ホイールボタン
マウスのホイールボタンでの操作

・背景色

背景色を切り替えます。

・ファイルマネージャに登録する

“登録する”を選択すると、エクスプローラ内で ADS のデータ“.cw3”をダブルクリックで ADS の起動が可能です。

・メインメニューを上部に固定する

メインメニューを上部に固定します。

・背景図の端点に○を表示する

インポートされた背景図の端点に○を表示します。

・等時間計算

日影計算/等時間図におけるデフォルトの計算方法が設定できます。

自動検索(追跡法) → 自動検索計算(追跡法)

規制時間(メッシュ法) → 規制時間計算(メッシュ法)

印刷プレビュー起動時の時間設定

LAN 版で起動できない場合は、ここの数値を大きくしてみてください。

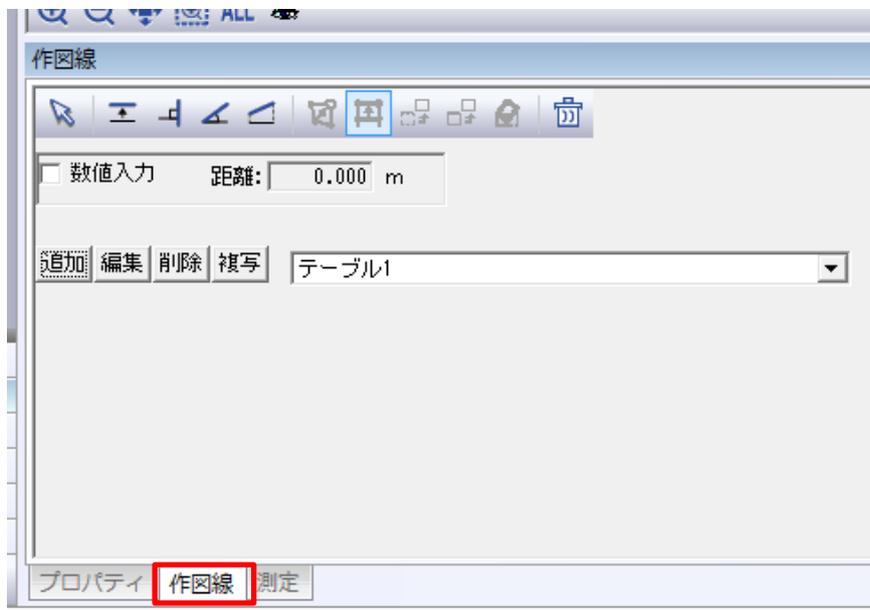
■バージョン情報

○本システムのバージョン情報を表示します。

○TELサポート等でお問い合わせの際、シリアル番号等を確認させていただくことがあります。

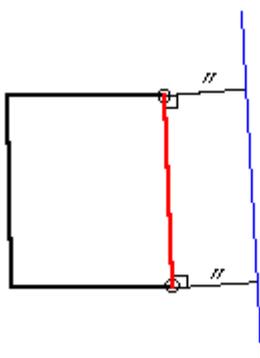
■作図線

- 建物編集等の図形編集における下図として利用可能な線分(作図線)を編集します。
- 通常プロパティウィンドウが表示されている下部のタブにある“作図線”を選択すると切り替わります。(利用後はプロパティに戻す必要があります)
- 作図線は“テーブル”毎に管理することができます。
- 作図線は印刷できません。



○平行線

- ・任意の辺(平面図形内)に対して、平行な線を作成します。



- 1) “平行線”を選択



- 2) 指定方法を選択

指定方法: 線分 2点

- 3) 平面図内で、指定方法に合わせた方法で選択
 - ・線分 : 任意の辺を選択

- ・2点： 任意の辺の始点+終点を選択

4) プロパティ内の“距離”又は“本数”を入力

距離: m 本数:

※3)で選択した線分に対して作成されます。

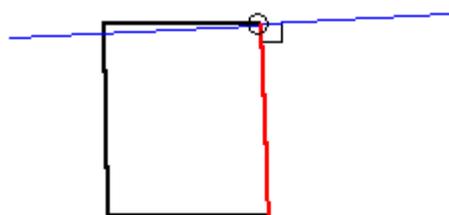
※距離は、方向が異なる場合、マイナス入力します。

5) プロパティ内の“選択”を選択 

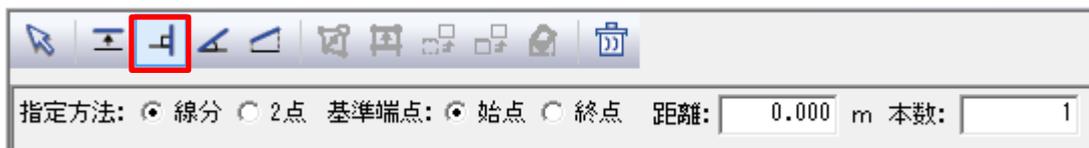
※4)ではイメージ表示となり、この作業で確定されます。

○垂直線

・任意の辺(平面図形内)に対して、垂直な線を作成します。



1) “垂直線”を選択



2) 指定方法を選択

指定方法: 線分 2点

3) 平面図内で指定方法に合わせた方法で選択

線分 : 任意の辺を選択

2点 : 任意の辺の始点+終点を選択

・選択された線分のプロパティ内“基準端点”(始点 or 終点)側に垂直線が作成されます

4) プロパティ内の“距離”又は“本数”を入力

距離: m 本数:

※3)で選択した線分に対して作成されます。

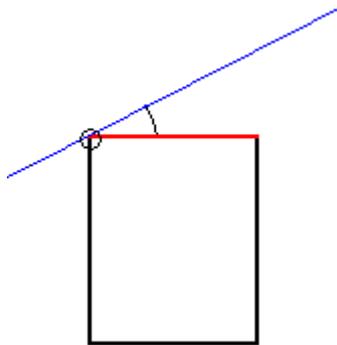
※距離は、方向が異なる場合、マイナス入力します。

5) プロパティ内の“選択”を選択 

※4)ではイメージ表示となり、この作業で確定されます。

○傾斜線 1

・任意の辺(平面図形内)に対して、任意の端点から角度指定による線を作図します。



1) “傾斜線 1”を選択



2) 指定方法を選択

指定方法: 線分 2点

3) 平面図内で指定方法に合わせた方法で選択

線分 : 任意の辺を選択

2点 : 任意の辺の始点+終点を選択

4) プロパティ内の“角度”を入力

5) プロパティ内の“距離”又は“本数”を入力

距離: m 本数:

※3)で選択した線分に対して作成されます。

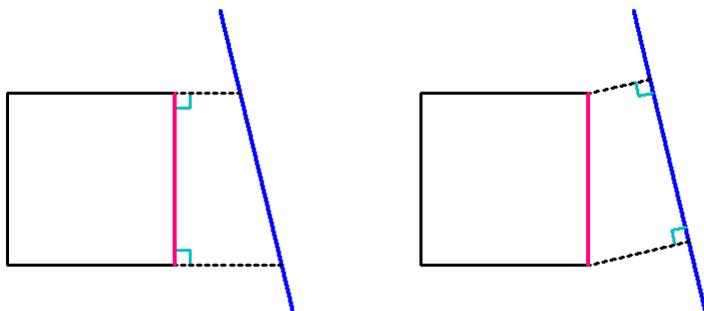
※距離は、方向が異なる場合、マイナス入力します。

6) プロパティ内の“選択”を選択 

※4~5)ではイメージ表示となり、この作業で確定されます。

○傾斜線 2

- ・任意の辺(平面図形内)に対して、両端点から辺に平行な距離をそれぞれ指定しその2点を通る線を作図します。



- 1) “傾斜線 2”を選択



- 2) 指定方法を選択します

指定方法: 線分 2点

- 3) 平面図内で指定方法に合わせた方法で選択します

線分 : 任意の辺を選択

2点 : 任意の辺の始点+終点を選択

- 4) “基準線に垂直／作成線に垂直”のどちらかを選択します。

- 5) “距離 1”と“距離 2”を選択

※3) で選択した線分に対して作成されます。

※距離は、方向が異なる場合、マイナス入力します。

- 6) プロパティ内の“選択”を選択 

※4~5) ではイメージ表示となり、この作業で確定されます。

○テーブルについて

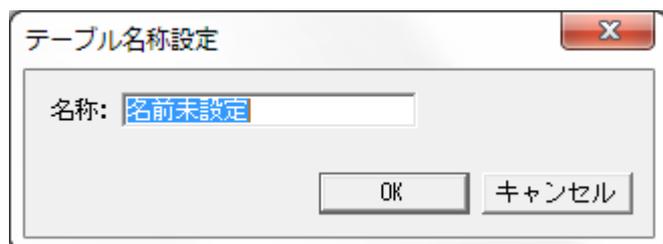
- ・「テーブル」は、CAD でいうレイヤと同じ概念のもので、テーブル単位に作図線を登録することができます。(必ずしも利用する必要はありません。)

[作図線テーブル 種別例]

- 本敷地用(2項道路、都市計画道路により敷地形状を編集)
- 建物用(計画時の変更)
- 適合建築物用(特殊例対応)
- 測定ライン用(特殊例対応)

○テーブルの追加

- ・テーブルを追加します。
- ・“追加”を選択し、名称を入力します。



○テーブル名の変更

- ・既存テーブルの名称を変更します。

○テーブルの削除

- ・既存テーブルを削除します。

○テーブルの複写

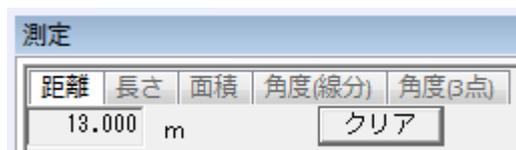
- ・既存テーブルを複写します。

■測定

- 平面図に表示されていず図形に対しての測定機能です。
- 距離/長さ/面積/角度を測定することができます。
- 通常プロパティウィンドウが表示されている下部のタブにある“測定”を選択すると切り替わります。(利用後はプロパティに戻す必要があります)



○単一距離の測定



- 1) 測定ウィンドウ内の“距離”を選択します。
- 2) 平面図内で計測するポイントを2点指定します。
- 3) 測定ウィンドウ内に距離が表示されます。

※別の距離を測定する際は、予め“クリア”を選択します。

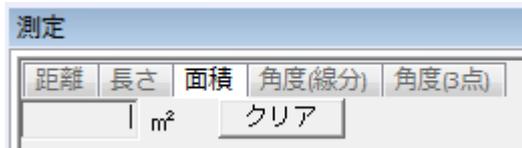
○連続距離の測定



- 1) 測定ウィンドウ内の“長さ”を選択します。
- 2) 平面図内で計測するポイントを連続で指定します。
※線分も選択可能です。
- 3) 測定ウィンドウ内に距離が表示されます。

※別の長さを測定する際は、予め“クリア”を選択します。

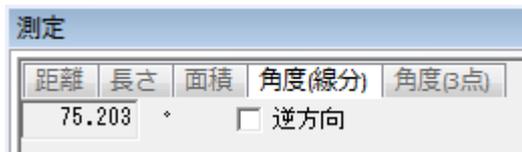
○面積の測定



- 1) 測定ウインドウ内の“面積”を選択します。
- 2) 平面図内で計測するポイントを連続で指定します。
- 3) 測定ウインドウ内に面積が表示されます。

※別の面積を測定する際は、予め“クリア”を選択します。

○角度の測定(線分タイプ)



- 1) 測定ウインドウ内の“角度(線分)”を選択します。
- 2) 平面図内で計測する線分を2本選択します。
- 3) 測定ウインドウ内に角度が表示されます。
※“逆方向”をチェックすると現在表示されているものとは逆の角度が表示されます。

○角度の測定(3点指定タイプ)



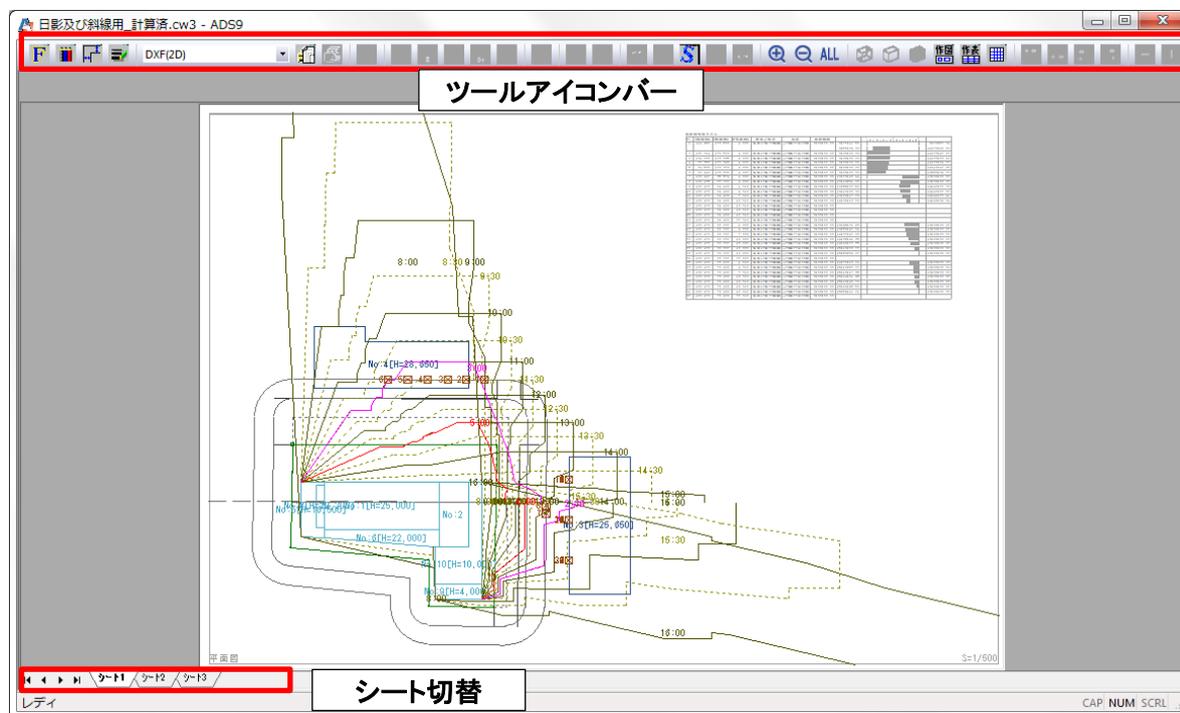
- 1) 測定ウインドウ内の“角度(3点)”を選択します。
- 2) 平面図内で計測したい角度の中心点を指定します。
- 3) 残りの2点を指定します。

※別の面積を測定する際は、予め“クリア”を選択します。

■印刷プレビュー

○ADSでは、印刷又は外部出力(DXF)を行う場合、それまでの編集・計算 WINDOWとは別のWINDOW(プレビュー)で行います。

○計算結果を図又は表をレイアウト形式で配置し、出力することができます。また、表示した図形や表の位置をレイアウト情報として登録できます。



基本的な作業は、“ツールアイコンメニュー/シート切替/右クリックメニュー”を利用して行います。

■印刷の流れ

■ツールアイコン

○印刷環境設定

○画面表示設定

○画面表示設定(アイソメ図用)

○出力設定

○図形の設定

○文字列設定

○図形/表の位置設定

■フォントの設定

■ペン設定

■余白設定

■線幅設定

■印刷設定

■作業手順

[各種操作]

■[レイアウト後の変更](#)

○[レイアウト\(位置・サイズ\)を変更](#)

○[表示内容及び縮尺の変更](#)

○[文字列の更新](#)

■[シートの編集](#)

○[新規シート追加](#)

○[シート名編集](#)

○[シート削除](#)

○[シートをリストから選択](#)

○[レイアウト情報の読込](#)

■[文字列編集](#)

○[新規作成](#)

○[道路幅・敷地境界文字列の作成](#)

○[みなし敷地・規制ライン文字列の作成](#)

○[文字列の再計算](#)

○[自動・手動配置](#)

○[既存文字列の編集](#)

■[出力](#)

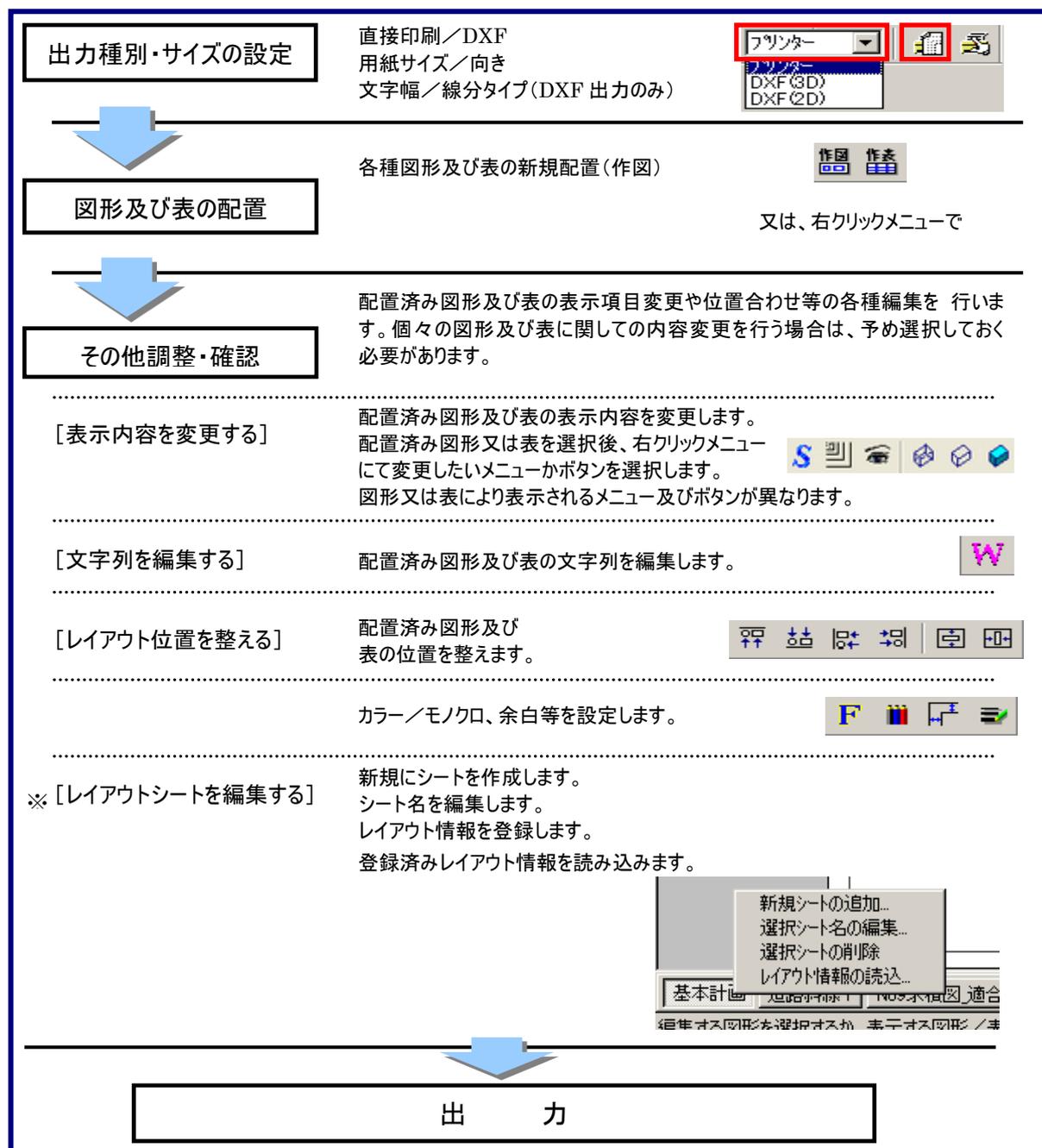
○[プリンタ出力](#)

○[DXF 出力](#)

■印刷の流れ

○ADS の印刷は、CAD とは異なり平面、アイソメ等、ベースとなる図形や表を一つのオブジェクトとし、その中に何を表示させるか選択します。

また、レイアウトシート単位で出力図面を管理します。DXF 出力の場合も、ここで作業します。



■印刷環境設定

	フォントの設定	フォントを設定
	ペン設定	ペンを設定
	余白の設定	余白を設定
	線幅設定	線幅を設定

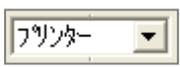
■画面表示設定

	拡大	選択の度に表示データを拡大
	縮小	選択の度に表示データを縮小
	移動	2点指示で表示データを移動(1点目_基点+2点目_移動位置)
	矩形拡大	対角(2点)指定により任意の範囲を拡大
	全体表示	全体を表示

■画面表示設定(アイソメ図用)

	回転左	表示データを左に回転
	回転右	表示データを右に回転
	回転上	表示データを上に回転
	回転下	表示データを下に回転

■ 出力設定

	出力形式	出力する形式を選択 (プリンター、2D-DXF、3D-DXF)
	印刷設定	プリンターに関する設定
	印刷実行	印刷を設定した内容で実行

■ 図形の設定

	表示項目の設定	表示項目の設定
	スケールの設定	縮尺の設定
	モード設定	アイソメモードの陰線処理設定
	ワイヤーフレーム表示	線描画表示
	隠線表示	外部から見える線のみ表示
	シェーディング表示	全面を色表示
	作成する図の選択	作成する図形を選択 (図面への呼び込み)
	作成する表の選択	作成する表を選択 (図面への呼び込み)

■ 文字列設定

	文字列作成編集	文字列作成メニューを起動
	任意文字列の作成	新規文字列を作成
	道路幅文字列の作成	道路幅員の文字列を作成

	敷地境界線文字列の作成	「敷地境界線／道路境界線」文字列を作成
	みなし敷地文字列の作成	「みなし敷地」文字列を作成
	規制ライン文字列の作成	「5m ライン／10m ライン」文字列を作成
	文字列の再計算	文字列をデフォルト位置に戻す
	文字列の自動配置	文字列を元の位置に配置
	文字列の手動配置	文字列を任意の位置に配置
	文字列を表示	文字列を表示する
	文字列を非表示	選択した文字列を非表示にする

■ 図形/表の位置設定

	上を揃える	最初に選択した図形／表の“上”に他の図形又は表を揃えます 「Ctrl」+ 「↑」キーでも可能
	下を揃える	最初に選択した図形／表の“下”に他の図形又は表を揃えます 「Ctrl」+ 「↓」キーでも可能
	左端を揃える	最初に選択した図形／表の“左 ”に他の図形又は表を揃えます 「Ctrl」+ 「←」キーでも可能
	右端を揃える	最初に選択した図形／表の“右 ”に他の図形又は表を揃えます 「Ctrl」+ 「→」キーでも可能
	上下均等配置	選択された図形／表の“縦方向の間隔を均等”にします
	左右均等配置	選択された図形／表の“横方向の間隔を均等”にします

[境界線を複数選択するには]

- ・「Ctrl」 キーを押しながら複数の図形／表を選択するとモードがアクティブ化されます
- ・最初に選択した図形／表が位置揃えの基準図形(表)となります
- ・複数の配置済み図形又は表をまとめて移動する場合は 「Ctrl」 キーを押しながら、複数の図形／表を選択後 最初に選択した図形／表の中心に表示されている■マークをドラッグし全体を移動

■フォントの設定

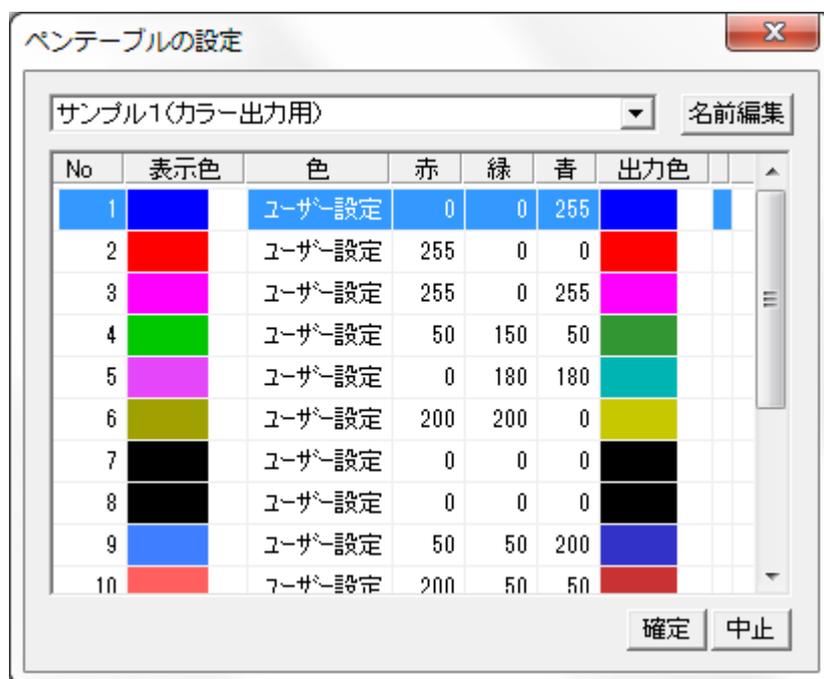
○印刷する図面または、表で出力されるフォントのサイズを設定します。



※個々の文字サイズは変更できません。

■ペン設定

- 出力用のペン設定を行います。
- ADS では、「環境設定／ペン設定」で割り当てられた画面表示色とは異なった色で出力することが可能です。
- 本システムでは、Windows 用のドライバを利用して出力しています。
- この形式で出力を行う場合、ドライバへのペン情報は色番号(R・G・B)による書き込みのため、カラープリンターやペンプロッタの場合は設定が必要となります。
- カラー出力する場合は、任意の色を指定します。
- 表示パターンを「画面色」にした場合は、出力用の色が変わりません。
- 標準色(黒／赤／青／黄／緑／赤紫／水色／白)を設定する場合は「ユーザー設定」の選択により、リストが表示されますので、その中から選択します。(この場合は RGB の番号は変更できません)
- 標準色以外の色を指定する場合は、「ユーザー設定」にし色番号を指定します。
- ADS では、番号のみの指定となりますので、任意の色が設定できない場合は Windows に標準で付いているペイントソフト等を利用し、「色設定」の項目で直接色を選択した際に表示される赤(R)・緑(G)・青(B)の値を DLG 内に入力してください。



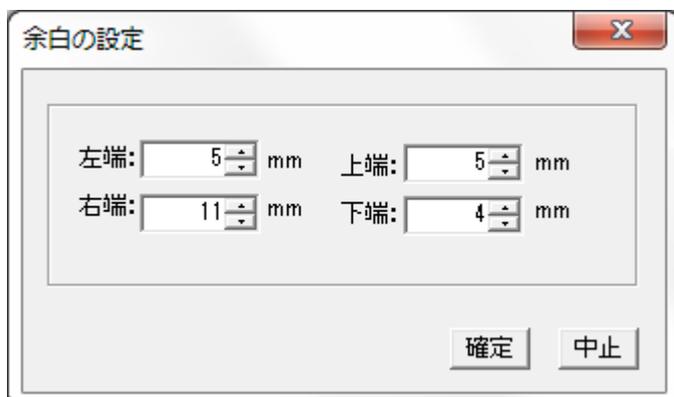
[注意事項について]

- プロッタドライバに割り当てられている色が標準色(黒／赤／青／黄／緑／赤紫／水色／白)の場合は
「ユーザー設定」の選択により、リストが表示されますので、その中から選択します
(この場合は RGB の番号は変更できません)
- 標準色以外の色(または色番号)がプロッタドライバ側で設定されている場合は「ユーザー設定」に
し同等の色番号を指定します
上記8色以外の色はすべて番号での指定となります

■余白設定

○余白の設定をします。

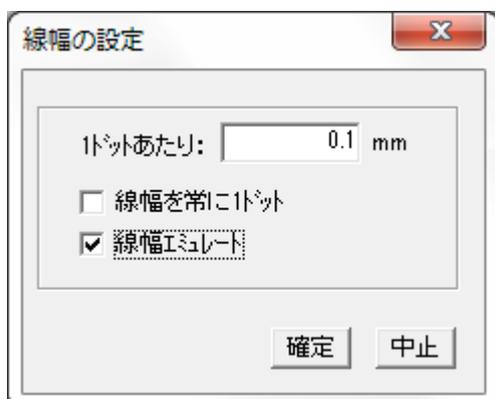
○印刷可能範囲は、プリンタードライバーの情報を読みとるだけのためプリンターの機種、メーカー等によって違います。



■線幅設定

○1ドットあたりのペン幅の設定を行います。

○ADS では「環境設定／ペン設定」で設定されたペン番号に対して、線幅は1つ増えるごとに一定の幅で太くなっています。



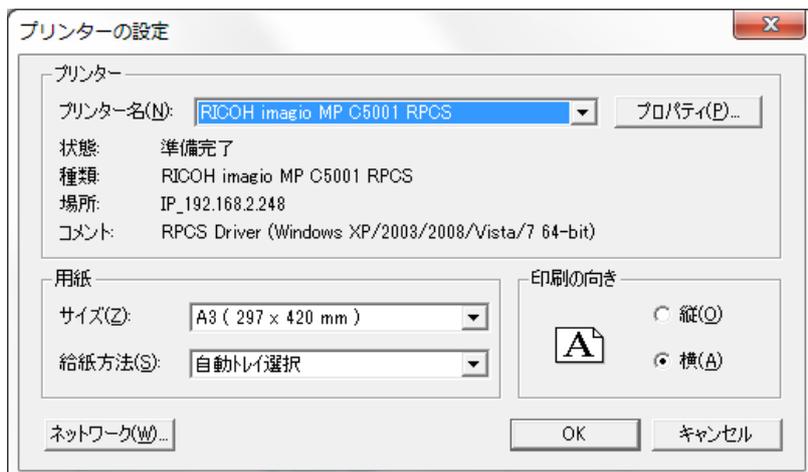
1ドットあたり	通常は、0.1mm で設定 変更する場合は、ペン番号(環境設定内)が1つ大きく増えた際の線幅の設定をします(0.1~2.9mm の範囲)
線幅を常に1ドット	ペン設定の太さに関わらず全て設定した数値で出力します 又は、出力されない線があったり、印刷位置がずれる場合もチェックを付けます
線幅エミュレート	1ドット幅の線を「環境設定／ペン設定」での太さに対して補正され出力します(点線などが実線で印刷される)

■印刷設定

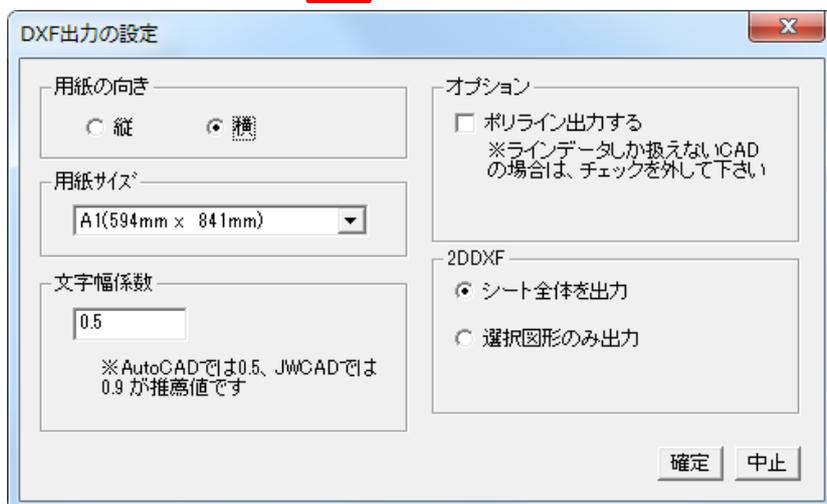
○プリンタの設定を行います。

○図面を出力するプリンターを選択し、用紙サイズなどの設定することにより Windows に設定(登録)されているプリンターを使用することができます。

※出力形式がプリンターの場合



※出力形式が DXF の場合



○用紙の向き

・用紙(シート)の向きを設定します。

○用紙サイズ

・用紙サイズを設定します。

○文字幅係数

・ご利用の CAD によって係数が異なります。

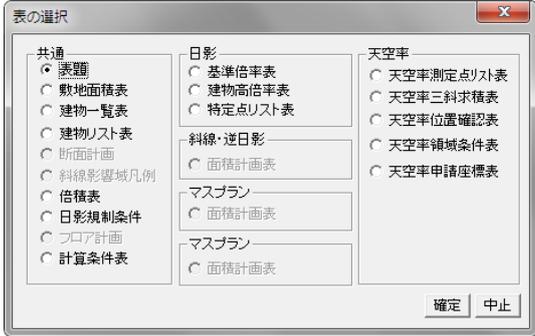
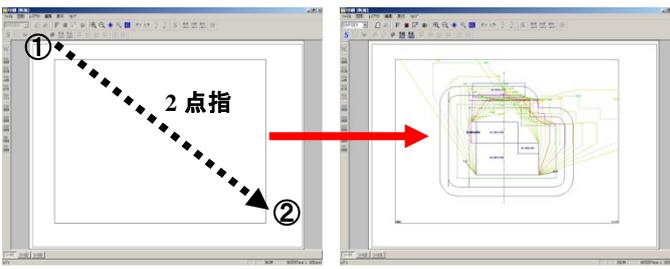
○オプション

・ポリラインが扱える CAD の場合、敷地/建物形状等をポリラインで出力します。

○2DDXF

・シート全体か選択オブジェクトのみの出力ができます。

■作業手順

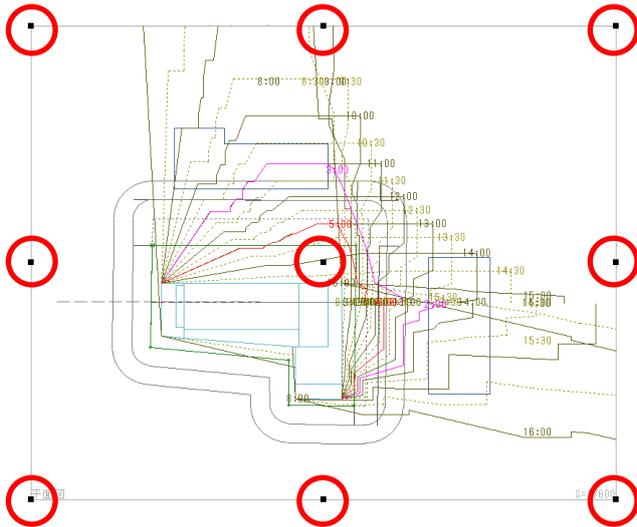
図形レイアウト	表レイアウト
<p>1)メニュー選択 ・右クリックメニューより“図形の選択”又は“表の選択”を選択</p>	
	
<p>2)ベース図(又は表)の選択 ・ベースとなる図又は表を選択</p>	
 <p style="text-align: center;">※選択項目によっては縮尺も設定</p>	
<p>3)表示内容の設定 ・次のステップで表示される DLG で表示内容を設定</p>	
 <p style="text-align: center;">※その図面に何の結果を表示させたいか</p>	
<p>4)レイアウト ・上記までに設定した図又は表をレイアウトする</p>	
 <p style="text-align: center;">※図形は対角(2点)指定で範囲指定</p>	<p style="text-align: center;">※表は、表示される枠の位置を指定</p>

※表示内容・縮尺・レイアウト位置は、後から変更可能

■レイアウト後の変更

○レイアウト(位置・サイズ)を変更

- ・変更したいオブジェクト(図又は表)を選択し、■マークをマウスにより変更
 - 中心→枠全体の移動
 - 外周→枠のサイズ変更
- ※枠内の■マーク以外を左クリックすると中のオブジェクトが移動できます。



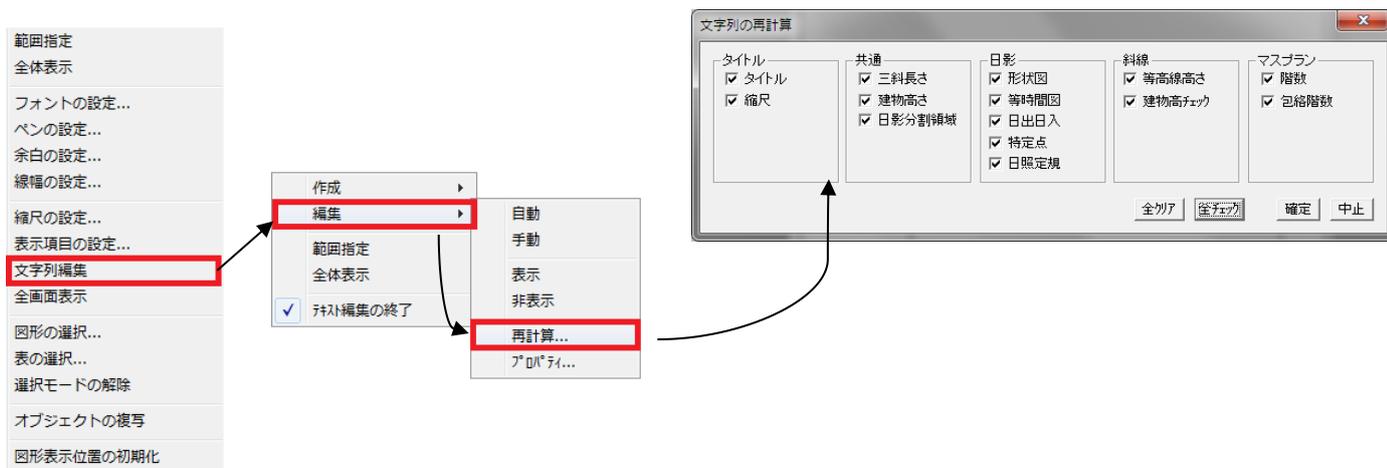
○表示内容及び縮尺の変更 [戻る\(印刷\)](#) [戻る\(Top\)](#)

- ・予め対象となるオブジェクト(図又は表)で選択してから右クリックメニューの“縮尺の変更・表示項目の設定”で行います。



○文字列の更新

・原則として一度レイアウトしていれば、再計算後の結果は自動更新されますが、図形内の文字列だけが更新されない場合があります。その際は文字列の更新作業を行います。

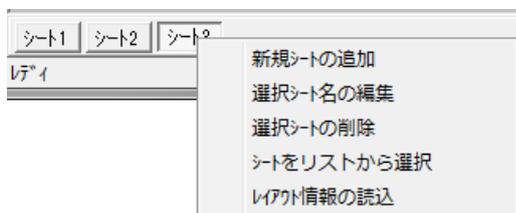


※文字列編集モードのままの場合、他の操作ができなくなるので、文字列編集が終了したら“テキスト編集の終了”を選択し、文字列編集モードを終了させる。

■シートの編集

○シートの追加及びシート名の変更等

・シートを追加したり、シート名を変更する場合はシートタグ上で右クリックすることでシート編集用のメニューが表示されます。



※シートタグ上で右クリック

■その他

○レイアウトされたオブジェクト(図形・表)を削除する

・オブジェクト(図形・表)を選択し、“Delete”キーで削除します

○複数のオブジェクト(図形・表)を揃える

・オブジェクト(図形・表)を“Ctrl”キーを押しながら複数選択し、“Shift+矢印”キーで矢印方向に揃えることができます。(最初に選択したオブジェクトに揃う)

○複数のオブジェクト(図形・表)をまとめて移動する

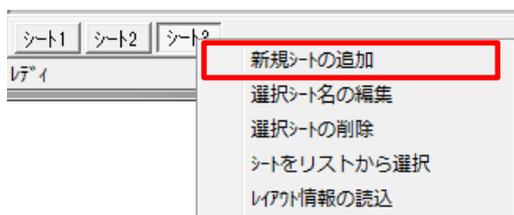
・オブジェクト(図形・表)を“Ctrl”キーを押しながら複数選択し、最初に選択したオブジェクトの中心にある■マークをドラッグすることで選択オブジェクト全体が移動できます。

■シートの編集

- ・シート欄を右クリックすることでメニューが表示されます。
- ・シートのタブをドラッグすると順番を入れ替えることができます。
- ・その他シートに関する編集が行えます。

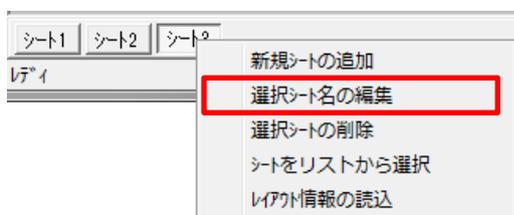
○新規シート追加

- ・新規のシートを作成します。



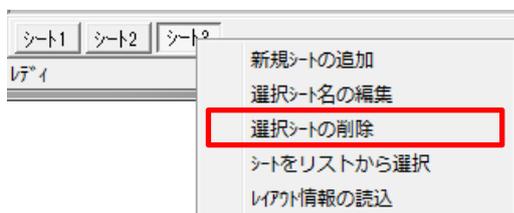
○シート名編集

- ・シート名を変更します。



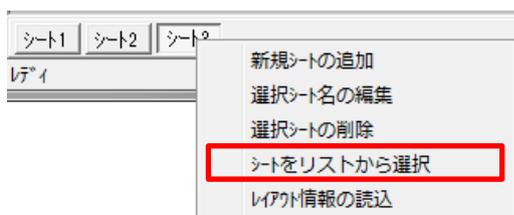
○シート削除

- ・現在選択されているシートを削除します。



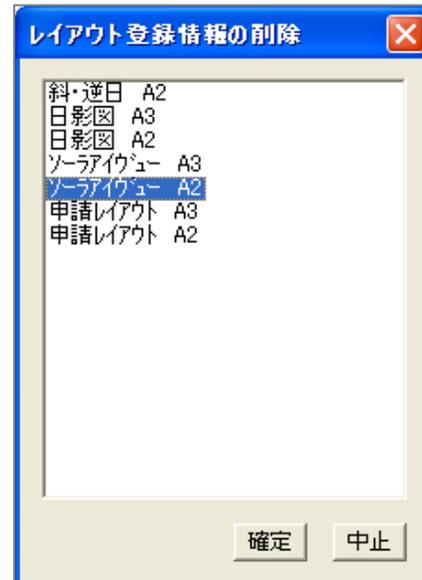
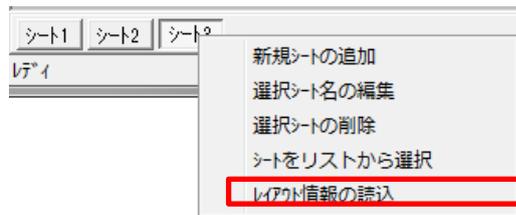
○シートをリストから選択

- ・目的のシートを一覧から選択します。
- ・下段に表示されているシートを選択する行為と一緒にですが、シート数がたくさんある場合は、こちらの方が便利です。



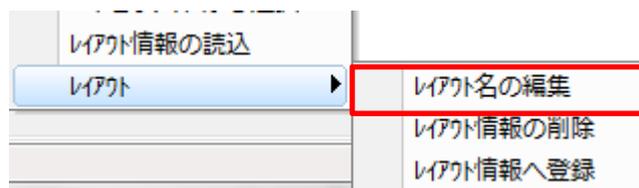
○レイアウト情報の読込

・予め登録されているレイアウト情報を読み込みます。



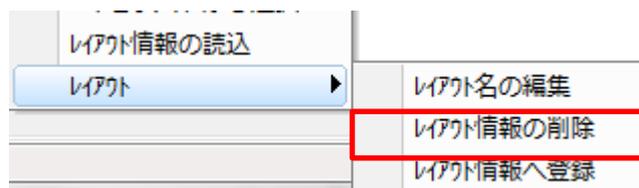
○レイアウト名の編集

・レイアウト情報の名称を変更します。



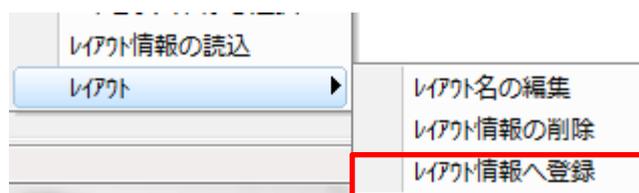
○レイアウト名の編集

・レイアウト情報の名称を変更します。



○レイアウト名の編集

・現在表示されているシートをレイアウト一覧へ登録します。



■文字列編集

○新規作成

・任意の文字列を新規に作成します。

- 1) 配置済み図形(本敷地が表示されている平面図)を選択します。
- 2) 図形内エリアで右クリックし、“文字列編集”を選択します。



- 3) “任意文字列の作成”を選択します。 
- 4) ダイアログボックスで文字列を入力し、“確定”を選択します。

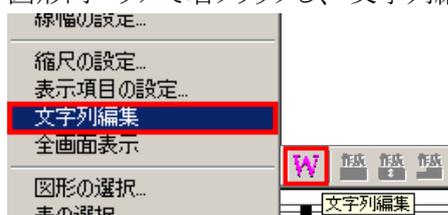


- 5) 配置したい場所を指定します。

○道路幅・敷地境界文字列の作成

・道路幅員及び敷地境界線の文字列を配置します。

- 1) 配置済み図形(本敷地が表示されている平面図)を選択します。
- 2) 図形内エリアで右クリックし、“文字列編集”を選択します。



- 3) “道路幅文字列の作成”又は“敷地境界線文字列”を選択します。  
- 4) 配置させたい線上を選択と同時にドラッグして配置します。
 - ・道路幅文字列 → 道路境界線上
 - ・敷地境界線文字列 → 敷地境界線上

○みなし敷地・規制ライン文字列の作成

・“みなし境界線”及び“規制ライン”の文字列をライン上に配置します。

- 1) 配置済み図形(みなし敷地又は規制ラインが表示されている平面図)を選択します。
- 2) 図形内エリアで右クリックし、“文字列編集”を選択します。

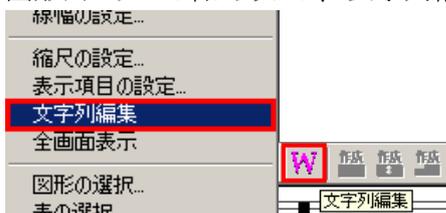


- 3) “みなし敷地文字列の作成”又は“規制ライン文字列の作成”を選択します。
- 4) 配置させたい線上を選択と同時にドラッグして配置します。
 - ・みなし敷地文字列 → みなし敷地ライン上
 - ・規制ライン文字列 → 規制ライン上

○文字列の再計算

・文字列の配置をデフォルト位置に戻します。

- 1) 配置済み図形を選択します
- 2) 図形内エリアで右クリックし、“文字列編集”を選択します。



- 3) “文字列の再計算”を選択します。
- 4) ダイアログボックスより再計算させたい項目をチェックして“確定”を選択します。



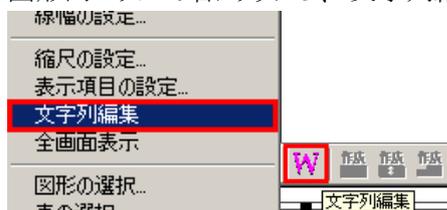
- 5) 右クリックして“テキスト編集の終了”を選択します。

○自動・手動配置

- ・文字列を元の位置に戻します。(自動)
- ・文字列を任意の位置に配置します。(手動)

[自動配置]

- 1) 配置済み図形を選択します
- 2) 図形内エリアで右クリックし、“文字列編集”を選択します。



- 3) 移動させたい文字列を選択します。
- 4) 文字列の自動配置を選択します。 
- 5) 右クリックして“テキスト編集の終了”を選択します。

[文字列の手動配置]

- 1) 配置済み図形を選択します
- 2) 図形内エリアで右クリックし、“文字列編集”を選択します。

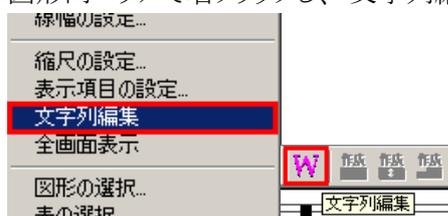


- 3) 移動させたい文字列を選択します。
- 4) “文字列の手動配置”を選択します。 
- 5) マウスで任意の位置に移動させます。
- 6) 右クリックして“テキスト編集の終了”を選択します。

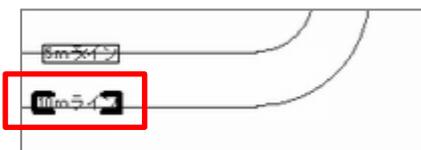
○既存文字列の編集

・図形内の文字列を編集します。

- 1) 配置済み図形を選択します
- 2) 図形内エリアで右クリックし、“文字列編集”を選択します。



- 3) 編集したい文字列を選択します。



- 4) 右クリックし、“編集/プロパティ”を選択します。



- 5) “文字列プロパティ”ダイアログボックスにて該当項目を設定し、“確定”を選択します。



- 6) 右クリックして“テキスト編集の終了”を選択します。

[文字列の配置位置について]

・9個のボタンから文字列の配置位置(基点)を選択することができます



■出力

○プリンタ出力

レイアウトされた図・表をプリンタへ出力します。



○DXF 出力

・レイアウトされた図・表を DXF ファイルへ出力します。



・レイアウトされて図形の中の何れか(基準となる図形)が選択されていないと出力ボタンが選択できません。

・DXF 出力設定(向き及び用紙サイズを設定します。)



[注意事項について]

- ・“基準となる図形”とは、DXF 変換した際に実寸の基準にする図形となります
- ・ADS では、異なるスケールの図を混在することが可能ですが、DXF 出力する際には全ての図形が実寸で出力されます
(スケールが混在した場合は、どれか一つを選択する必要があります)
選択された図形が CAD で利用する際にオンスケールの図形として扱うことができます
- ・必ず基準となる図形を選択しておかないと「DXF 出力」が選択できません
- ・「DXF(3D)」は、建物形状を 3D で出力する場合に使用します
通常は「DXF (2D)」にしてください
- ・線分タイプの選択
建物形状をはじめとして、閉じた図形はポリラインで出力されます
ご利用の CAD で、ポリライン出力した結果が読み込めない場合は
「DXF 出力の設定」で「線分タイプ」で変更します。

[与条件設定/本敷地]

- ADSにおける高さ制限解析に必要な敷地形状を入力します。
- 高さ制限解析に必要な敷地形状をADSでは本敷地と呼んでいます。
- ここでは、DXF等CADデータやBMP等の画像データを背景図として利用したトレース編集若しくは座標編集で敷地を編集します。
- 本敷地は1形状のみの入力が可能です。
- 2項道路(建築基準法第24条2項)や都市計画道路等により、敷地形状から部分的に排除される場合には排除部分を除いた形状で敷地を作成します。

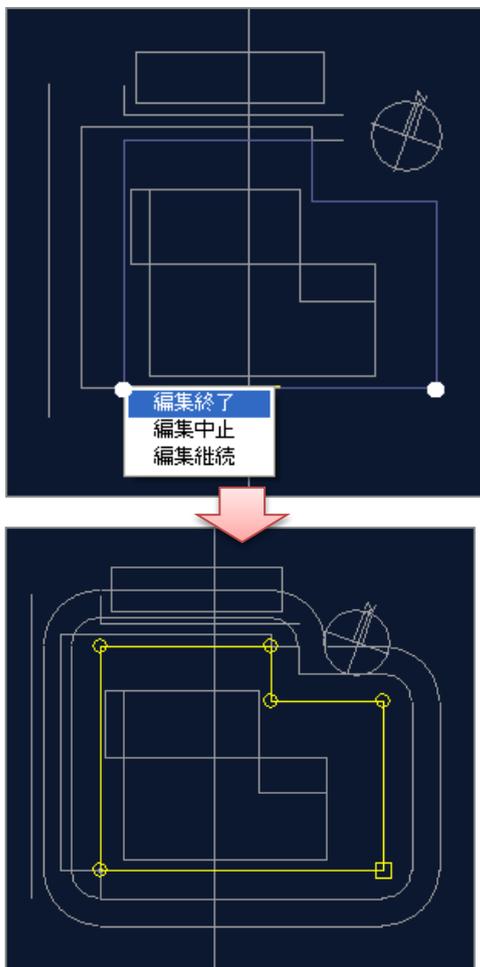
[操作手順]

■新規入力

- ① プロパティ内の“作成”コマンドを選択 
- ② 平面図上で敷地形状を入力
 - ・敷地形状を一筆書きの要領で敷地ポイント数だけ指定します。
(時計回り、反時計回りどちらでも構いません。確定されると反時計回りのポイントになります)
 - ・始点と同じポイントを最後に指定しないでください。(四角形の敷地であれば4点のみ入力)
 - ・DXF等の図形データが背景図の場合、マウスマウスカーソルを図形上に近づけることで、スナップ用のマークが表示されます。スナップマーク表示時に左クリックすることでスナップが有効となります。

⊕端点 ⊕交点 →線上
- ③ 平面図上で右クリックし、“編集終了”を選択

※平面図及びアイソメ図上に、本敷地が生成されます。



■ 既存本敷地の編集

①プロパティ内の編集コマンドを選択

②各種編集を行います。

- ・点挿入/点移動/点削除等のコマンドがあります。

※点挿入の場合は、挿入点指定後、右クリックにより“編集終了”を選択します。

[与条件設定/三斜求積図]

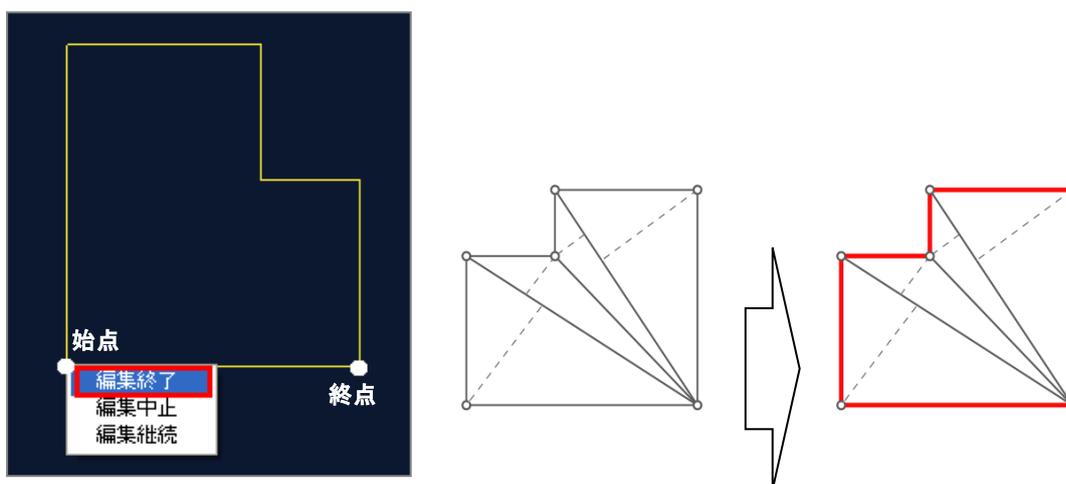
- 三斜測量図を利用して本敷地を入力します。
- 予め“本敷地”で編集した敷地形状に対しては、任意に測量図を作成できます。

■操作手順

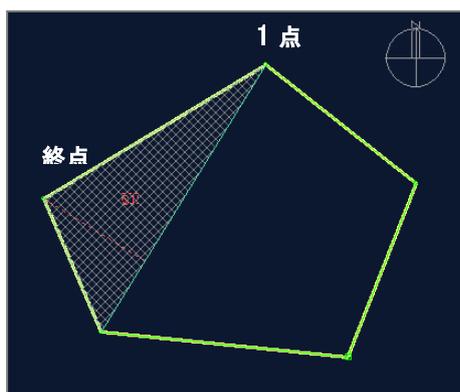
- ・[新規作成の場合](#)
- ・[複数の求積図を合成する場合](#)
- ・[予め入力された本敷地に対して行う場合](#)

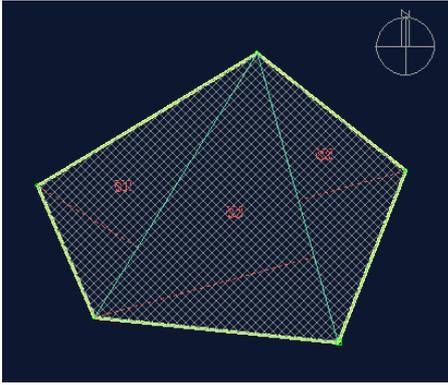
■新規作成の場合

- 1) “作成”を選択し、平面図内で外周形状を入力します。
 - ・お手元の三斜求積図を見ながら、求積図の外形を一筆書きの要領で入力します。
 - ・最終ポイントの入力終了後、右クリックで“編集終了”を選択します。



- 2) “三角形作成”でお手元の三斜求積図と同じ三角形を平面図内で設定します





- 1 点目は必ず三角形の高さ頂点を指定します。(2 点目及び 3 点目の順番はどちらでも構いません)
- 1) 作成で作成されたポイント数に対して全ての三角形を指定しないと最終的な敷地の作成はできません。

3) “三角形編集”で辺長を入力します

- 設定された三角形に対してプロパティ内で辺長を入力します。
- 底辺、高さ及び斜辺のどちらかを必ず入力してください。

※倍面積 1.2 及び比率について

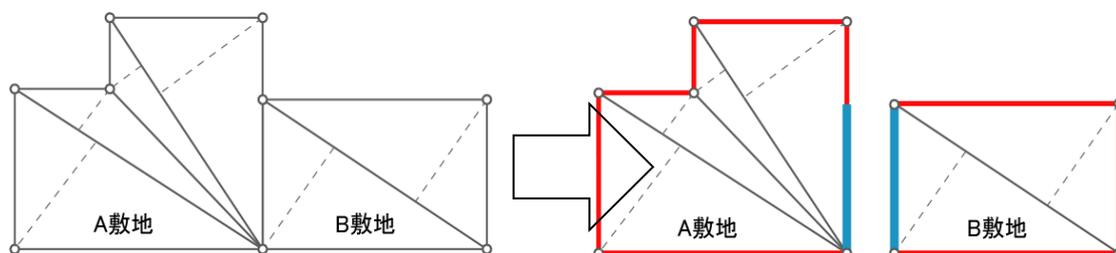
辺長を入力する場合、誤操作等により異なった数値を入力することが考えられます。ADSでは、倍面積 1 (底辺×高さ)と倍面積2(ヘロンの公式)で面積を表し、その比率を算出することで、入力間違いのチェックをすることができるようになっています。比率が著しく異なる場合は、入力された辺長の一部が間違っている可能性があります。

※本来であれば比率=100%が望ましいのですが、測量誤差等もありますので必ずしも比率が 100% になるとは限りません。

4) “敷地作成”で本敷地として登録します。

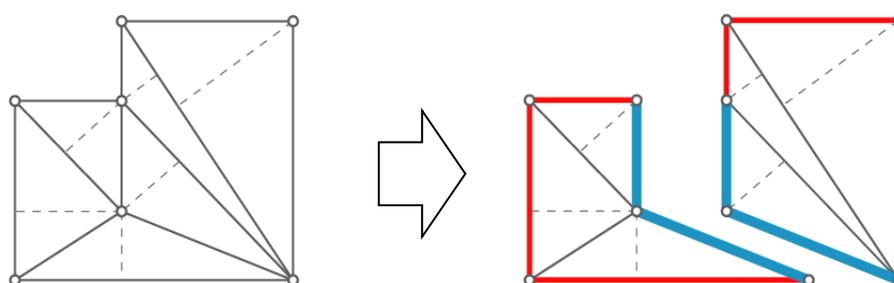
■複数の求積図を合成する場合

- “作成”コマンドでお手元の求積図に描かれている三角形が全て外形形状上で指定できる様な形状として入力します
- 2つ目の以降の外形形状を入力する場合は、1つの外形形状を右クリックにより“編集終了”選択後に続けて下図のように入力します。(最大5つの外形形状まで入力可能です)



敷地内に測量点、外形で三斜が指定できない場合は、分割して入力

■ 三斜外形入力時に接合させて入力



■予め入力された本敷地に対して行う場合

- 既に外形形状が本敷地で入力されていますので、“新規作成の場合”の2)の作業のみで終了となります。

[補足事項]

- ・「本敷地」で既に敷地が入力されている場合は「三斜外形」での三斜外形入力できません
- ・外形形状は測量図に描かれている三角形が全て外形形状上で指定できる様な形状として入力します
- ・測量点が敷地内にある場合や複数の測量図で片方の測量図の辺上に別の測量図の測量点がある場合は外形形状を複数(最大5つ)に分けて入力します
- ・複数に分ける場合は図形編集内で1外形形状に対して最低1点と1辺を合成させて入力します

[与条件設定/外部図形変換]

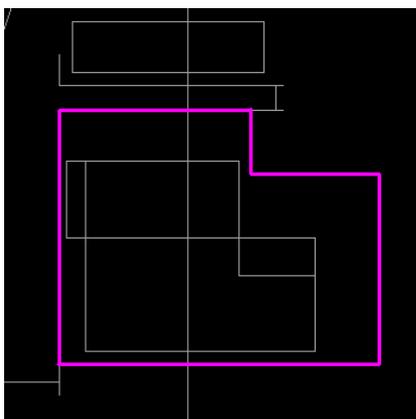
- インポートされた図形から ADS データに変換(自動トレース)します。
- 本敷地/建物/分割線/補助線に変換可能です。
- ここで変換できない場合は、各メニューにてトレース作業を行ってください。
- Jw-cad の方位データが登録されている場合は、方位情報も取得可能です。

[操作手順]

■本敷地登録

1) 変換対象の図形を選択します。

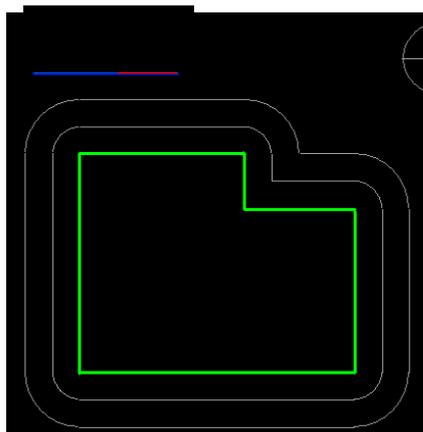
- ※背景表示されている図形から変換対象図形(対象辺)を選択します。
- ※本敷地に変換する場合は、1つの閉じたエリアのみの選択となります。
- ※建物及び分割線・補助線に変換する場合は、Ctrlキーで複数



↑敷地の場合(1エリアのみ)

- ※正常に認識されると、エリアとして認識されます。
- ※線分で表示された場合は、変換できませんので通常のトレース入力を行ってください。

2) “本敷地登録”ボタンを選択します。



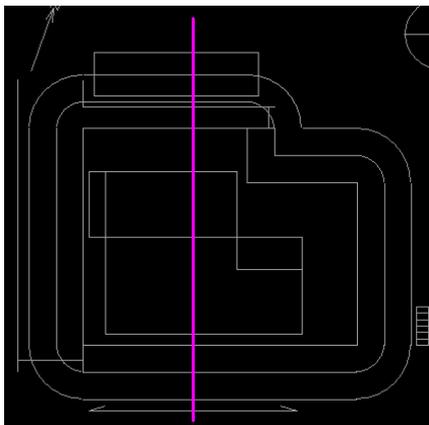
※ 本敷地として登録されます。

■線登録

- DXF や Jww 等の背景図形より線分に変換します。
- “分割線(用途・高度・地盤・日影規制)、分割線”に変換可能です。

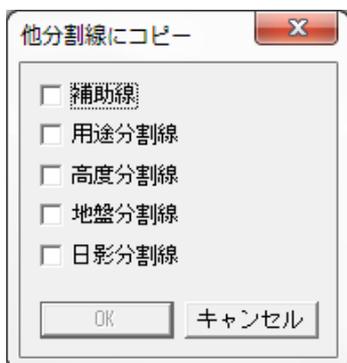
1) 変換対象の図形を選択します。

- ※背景表示されている図形から変換対象図形(対象辺)を選択します。
- ※本敷地に変換する場合は、1つの閉じたエリアのみの選択となります。
- ※建物及び分割線・補助線に変換する場合は、Ctrlキーで複数



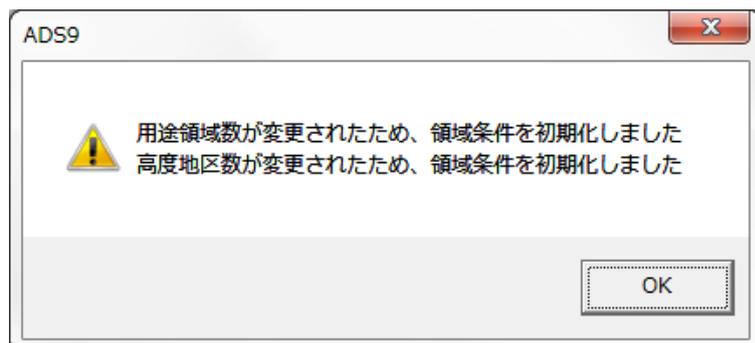
- ※選択と同時に色が変わった線分が変換される図形となります。
- ※複数選択が可能です。但し、折れている連続線の場合、1クリックで折れ線全体が認識されないとADSの分割線(用途地域等)では扱えません。

2) ダイアログボックスより変換する項目を選択し、“OK”を選択します。



※複数の選択が可能です。

3) 2) でチェックされた項目に対しての確認ダイアログボックスが表示されますので、“OK”を選択します。



■建物登録

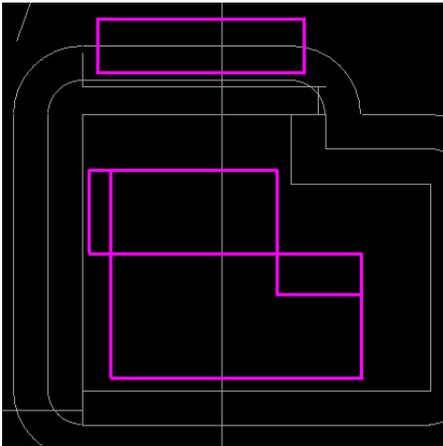
- DXF や Jww 等の背景図形より建物に変換します。
- “分割線(用途・高度・地盤・日影規制)、分割線”に変換可能です。

1) 変換対象の図形を選択します。

※背景表示されている図形から変換対象図形(対象辺)を選択します。

※建物及び分割線・補助線に変換する場合は、Ctrlキーで複数

※アイソメ図で 3D

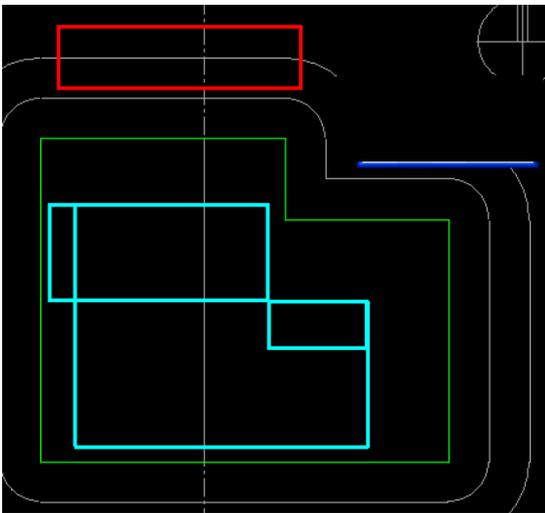


※正常に認識されると、エリアとして認識されます。

※Ctrl キーを押しながら複数選択することが可能です。

※線分で表示された場合は、変換できませんので通常のトレース入力を行ってください。

2) “建物登録”ボタンを選択します。



※ADS の建物として認識されていても、敷地外に建物のポイントが存在すると赤色で表示されます。

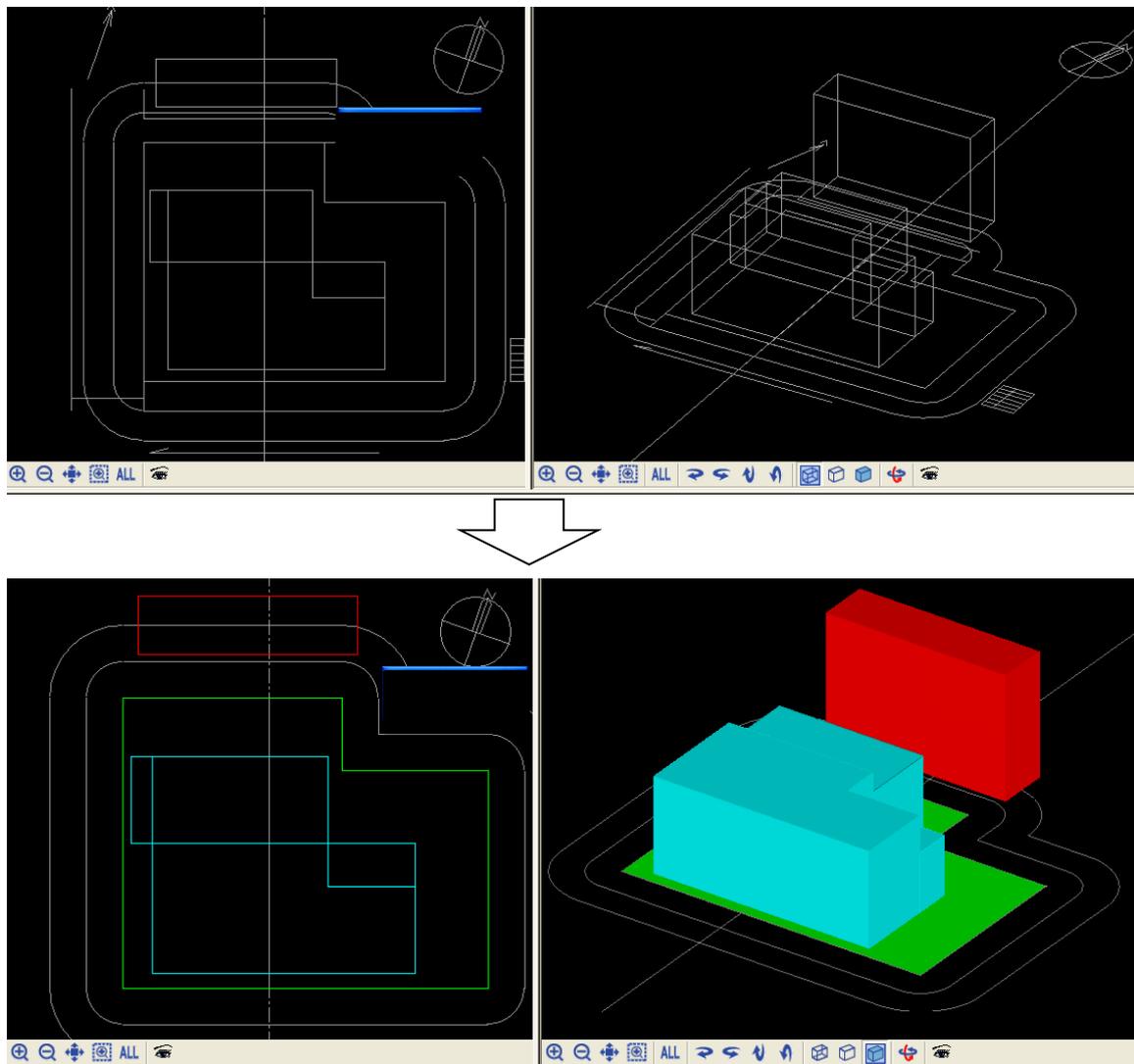
“建物編集/ブロック編集/図形チェック”で内容を確認してください。

(変換時の斜線計算属性が対象となっているため、対象外にする必要があります)

■建物の登録に関して

○インポートで背景表示として読み込まれた時点で、アイソメ表示にて高さ方向も表示されている図形は、原則として“建物登録”時に高さも同時に読み込むことができます。

○Jw-cad の場合、高さの異なるエリア毎にレイヤ分けされ、かつ閉じたエリアの図形のみ変換できます。変換できない場合は、トレース(マウス)編集で行ってください。



[与条件設定/サイトフォーカス]

- 予め入力された本敷地に対して、面積に対する補正/原点移動/回転等を行います。
- 画像を背景にしてトレースを行った敷地に対して面積補正を行うと、背景画像は破棄されます。

目標:	6768.59 m ²	比率X:	1.000000	回転 <input checked="" type="radio"/> 回転無 <input type="checkbox"/> 反転 <input type="radio"/> X軸 <input type="radio"/> Y軸
初期:	0 m ²	比率Y:	1.000000	
補正:	0 m ²	基点:	1 <input type="checkbox"/> 原点移動	

■ 面積補正を行う場合

- “目標”欄に、補正值を入力します。

■ X,Y の比率を編集する場合

- “比率 X、Y”の数値を入力します。

■ 原点移動を行う場合

- 平面図内で、原点にしたい敷地境界ポイントを選択し、“原点移動”をチェックします。

■ 回転を行う場合

- 敷地を回転します。

X軸	基点(基準辺)をX軸と平行になるように回転
Y軸	基点(基準辺)をY軸と平行になるように回転
反転	X軸・Y軸、回転した敷地を 180 度回転

[与条件設定/みなし敷地]

○日影規制ライン(5m/10m)の元となるエリア(みなし敷地)を任意に編集します。

○ADSでは、敷地(本敷地)が道路に接する場合など 建築基準法第 56 条の2第3項及び同法施行令第 135 条の2第1項により 敷地としてみなされる敷地のことを「みなし敷地」と呼んでいます

○本敷地が入力されると同時に作成されている 5m10mラインは、本敷地の作成と同時に“みなし敷地”も同一形状で作成され、そこから日影規制ライン(5m/10m)を自動作成しています。また、境界線条件(道路幅)設定時に自動的に緩和措置されますので、自動処理された状態で問題なければ、ここでの作業を行う必要はありません。

○ここでの編集は、図形(みなし敷地)の任意編集となりますので、作業を行う場合は、予め背景となる図形や予め作成された“作図線”等が表示されている必要があります。

[操作手順]

■マウスで編集する場合

1)プロパティ内の各種編集コマンド(点挿入・点移動・点削除等)により編集します。

■座標値を編集する場合

1)プロパティ内の“数値入力”を選択します。



2)プロパティ内の座標値を編集します。

[与条件設定/分割線・補助線]

○用途境等の分割線及び補助線の編集を行います。

- ・分割線→用途地域/高度地区/地盤面/日影規制が複数存在する場合に予め入力しておく線分です。
- ・補助線→ADS の各種計算には必要としない線分ですが、表示させたい線分として入力しておくことができます。

[操作手順]

■新規入力の場合

- 1) プロパティ内の“作成”を選択します。 
- 2) 平面図内で、分割線又は補助線を入力します。
 - ・分割線の入力には種類によって注意事項があります。
 - ・分割線の最終ポイントの入力が終了したら右クリックで“編集終了”を選択します。
- 3) “分割線・補助線の作成”のダイアログボックスより、入力した線分の属性を指定し、“OK”を選択します。
 - ・2) で入力した線分が何の線分かを指定します。(複数選択化)

<input checked="" type="checkbox"/>	用途地域分割線
<input checked="" type="checkbox"/>	高度地区分割線
<input type="checkbox"/>	地盤高分割線
<input type="checkbox"/>	日影規制分割線
<input type="checkbox"/>	補助線

- 4) 線分の属性定義がされたことによるメッセージダイアログボックスが表示されますので、“OK”を選択します。
 - ・補助線のみが選択された場合は表示されません。

↓登録された状況がプロパティ内のリストに表示されます。

番号	種類	No	X	Y
1	用途	1	-34.060	46.648
2	高度	2	-44.387	-17.379
		3	-27.175	-80.717

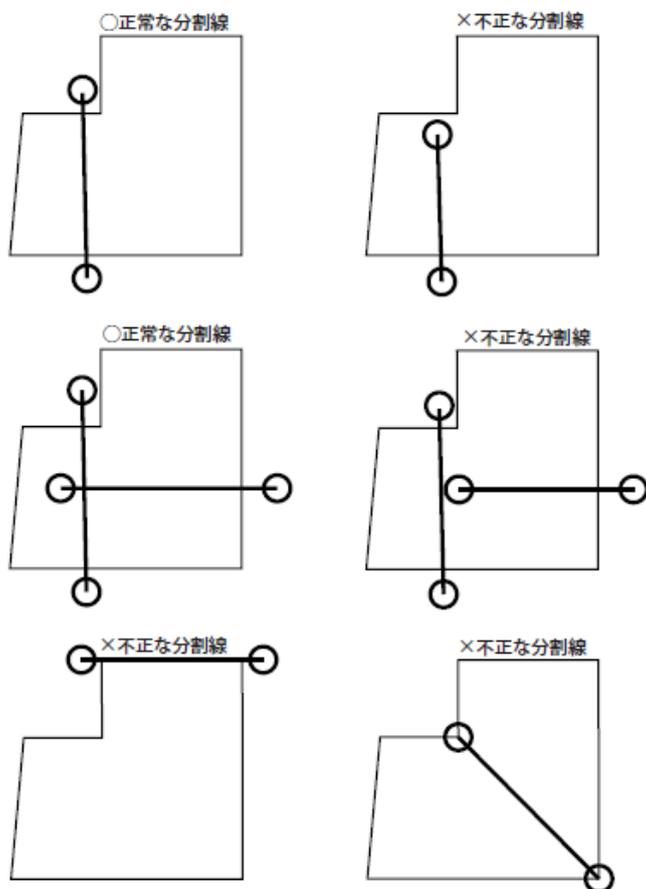
■既存の線分を編集する場合

- 1) プロパティ内の“選択”コマンドを選択し、平面図内で編集対象となる線分を選択します。 
 - ・1 つの線分ごとに属性(用途地域・高度地区等)が割り当てられていますので、平面図内で線分を選択しても、目的の属性になっていない場合があります。その際は、プロパティ内のリストを選択してください。
- 2) プロパティ内の各編集コマンドを利用して編集を行います。

■用途地域・高度地区・地盤面の分割線を入力する場合の注意事項

○用途地域・高度地区・地盤面の分割線を入力する場合は、本敷地内で分かれる場合のみの入力となります。

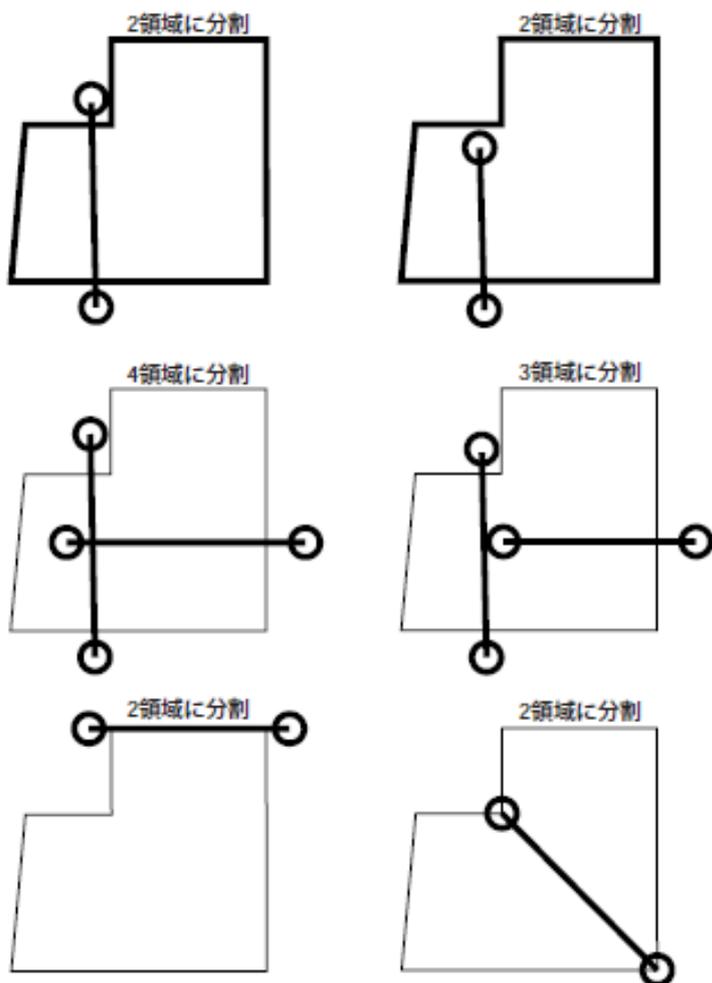
○一つの線分は、必ず始点と終点は何れも基準となるエリア(本敷地等)の外側になっている必要があります。



■ 日影規制の分割線を入力する場合の注意事項

○ 日影規制の分割線は、用途地域・高度地区・地盤高とは異なり、対象範囲が“与条件設定/計算範囲”の範囲となります。

○ 入力された分割線は、“与条件設定/計算範囲”のエリアまで延長して認識します。(途中で分割線にぶつかった場合はそこまで)



[与条件設定/方位]

○真北の設定を行います。

○背景表示された真北の線分をトレースするか、境界線からの角度を指定します。



[操作手順]

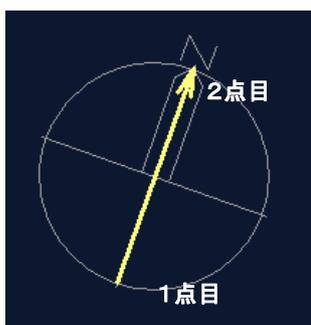
■平面図内でトレースする場合

1) 平面図上で南側の点を指定します。

・“方位”が選択されると自動的にトレースモードとなりますので、平面図上の方位線分の南側の点を指定します。

2) 続けて平面図上で北側の点を指定します。

・1)で指定された点よりも北側の点を指定します。



■境界線から角度入力する場合

1) プロパティ内の“数値入力”を選択します。



2) プロパティ内の“敷地辺”を選択します。

・デフォルトは“絶対”となっています。そのまま平面図上の真上を0度とした場合の角度入力ができます。

3) 平面図上で対象となる境界線を選択します。

・角度入力の対象となる境界線を選択します。

・矢印の向きが逆の場合は、プロパティ内の“逆向き”を選択します。

4) 角度を入力します。

※時計回りがマイナス入力となります。

[与条件設定/境界線条件]

- 敷地境界線に対する条件を設定します。
- デフォルトは全て隣地境界線となっていますので、道路境界(幅員)や隅切を設定します。
- 道路幅員の設定は、“種類”を道路にすることで編集可能となります。
- 道路幅員を設定すると日影規制ラインへの緩和が反映されます。

No	種類	道路幅	道路高1	道路高2	隣地高	特定道路	緩和幅1	緩和幅2
1	隣地	0.000	0.000	0.000	0.000	70.000	0.000	0.000
2	隣地	0.000	0.000	0.000	0.000	70.000	0.000	0.000
3	隣地	0.000	0.000	0.000	0.000	70.000	0.000	0.000
4	隣地	0.000	0.000	0.000	0.000	70.000	0.000	0.000

[操作手順]

- 対象となる境界線を選択し、プロパティ内で各種設定(道路幅員等)を行います。

No	選択した敷地辺の番号	
種類	道路	選択した敷地辺を道路境界線に設定
	隣地	選択した敷地辺を隣地境界線に設定
	隅切	選択した敷地辺を隅切辺に設定 (あらかじめ隅切られた形状で、敷地を入力)
道路幅	選択した敷地辺に接する道路の幅員を入力 「道路幅」を設定・確定後、「みなし敷地」が自動生成	
道路高1・2	道路と高低差がある場合 道路高1に始点側、道路高2に終点側の 道路中心高さ を入力 ※高さに関して ADSにおける高さの基準となる±0は、どこに設定(想定)しても構いません。設定(想定)された±0からの道路高さの指定となります。 (地盤面高及び建物高等全ての高さに連動しています。)	
隣地高	隣地の地盤面または、平均地盤面の高さを入力 「道路境界線」を選択しているときは、設定不可	
特定道路	特定道路の接道距離を入力	
緩和幅1	道路斜線、隣地斜線の緩和対象となる公園などの幅員を入力	
緩和幅2	高度斜線・北側斜線の緩和となる水面などの幅員を入力	

・同一条件を設定する場合は、平面図上でCtrlキーを押しながら複数の境界線の選択を行い、Ctrlキーを押しながらプロパティ内の目的の欄を左クリックで編集できます。

[与条件設定/道路・交差点]

- 境界線条件で設定された道路の接道状況を設定します。
- 道路(端部)形状を変更する場合は、任意の境界線を選択します。
- 交差点形状を変更する場合は、事前に道路幅員を設定(境界線条件)し、続した道路境界線 2 辺を選択します。

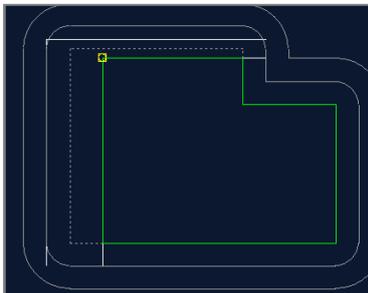
[操作手順]

■道路形状設定を行う場合

- 1) 平面図上で道路境界線となっている境界線を選択します。
- 2) プロパティ内で道路の接道パターンを選択します。

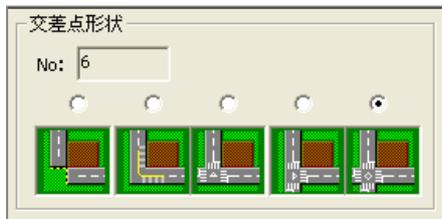
■交差点形状設定を行う場合

- 1) 平面図上で、道路設定された境界線を挟むポイントを選択します。
- ※隅切り設定されている場合は隅切り辺の選択も可能です。



・両側の境界線が道路に定義されていないとポイント選択できません。

- 3) プロパティ内で、交差点形状のタイプを選択します。

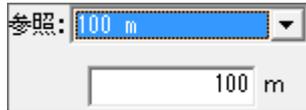


[与条件設定/計算範囲]

- 日影計算を行う際の計算範囲を設定します。
- 設定された範囲内にのみ計算結果が表示されます。

[操作手順]

- 1) プロパティ内の“参照”のリストより選択するか、数値入力します。



※この設定で影響を及ぼすのは日影形状(時刻日影)図となります。8時及び16時等の影を全て表示させたい場合は、建物最高高×10程度の数値を与えてください。

[与条件設定/用途地域]

- 用途地域・建蔽率・容積率等を設定します。
- “平面図”上で設定する領域を選択してから、プロパティ内の設定を行います。
- 敷地内で複数の用途地域等にわかれている場合は、“分割線・補助線”で事前に領域を分けておきます。

[操作手順]

- 1) 対象となる領域を平面図又はプロパティ内で選択します。
 - ・マジェンタのハッチングが選択されている領域となります。
- 2) 各種設定を行います。

地域	用途地域名
建蔽率	都市計画上の法定建蔽率(角地、防火地区内の耐火建築物などの緩和を加味する場合は考慮した数値)
容積率	都市計画上の法定容積率 (低減係数等による判定は“敷地面積表”で行っています)
容積率低減係数 道路斜線勾配 隣地斜線勾配 隣地斜線高さ	用途地域の設定に伴い、住居系／非住居系の値が自動的に割り当てられます。 異なる場合は、直接数値設定してください。
道路斜線計算 隣地斜線計算 北側斜線計算	各種計算を行わない場合はチェックを外します。 (通常はチェックをしたままにしておいてください)

[与条件設定/高度地区]

○高度地区の設定を行います。

○“平面図”上で設定する領域を選択してからプロパティ内の“地域”で設定します。

○敷地に複数の指定がある場合や、敷地の一部だけが指定を受ける場合には、“分割線・補助線”で予め分割してからそれぞれの領域ごとに、高度地区を設定します。

○“地域”で表示されるリスト内に該当する高度地区が存在しない場合は、“環境設定を起動”で、高度地区を任意に編集してから設定します。

[操作手順]

1) 対象となる領域を平面図又はプロパティ内で選択します。

・マジENTAのハッチングが選択されている領域となります。

2) プロパティ内の“地域”のリストより目的の高度地区を選択します。

■目的の高度地区がリストにない場合

○“無指定”以外リストが表示されない

・“環境設定”プログラムがインストールされていません。一度 ADS を終了してから“環境設定”プログラムをインストールしてから、再度確認してください。

○リスト内に目的の高度地区名が無い

(環境設定プログラムで新しい高度地区を登録します)

1) “環境設定を起動”を選択します

2) 起動された“ADS 環境設定”より、“高度地区”を選択します

3) 都道府県を選択します

4) 追加若しくは編集を行います

5) “保存”を選択します

6) “ファイルメニュー/アプリケーションの終了”を選択します。

※以上の作業終了後、改めて“地域”より選択します。

[与条件設定/地盤面]

○地盤面の高さの設定を行います。

○ここでの設定は、斜線計算・天空率計算に反映されます。

(日影計算に関係する地盤に関しては、“日影規制”の“平均地盤面高”で調整します)

○敷地に複数の地盤がある場合は、“分割線・補助線”で予め分割してからそれぞれの領域ごとに、地盤高を設定します。

[操作手順]

1) 対象となる領域を平面図又はプロパティ内で選択します。

・マジェンタのハッチングが選択されている領域となります。

2) プロパティ内で高さを設定します。

※高さに関して

ADS における高さの基準となる±0 は、どこに設定(想定)しても構いません。設定(想定)された±0 からの地盤面の高さの指定となります。

(道路高及び建物高等全ての高さに連動しています。)

[与条件設定/日影規制]

- 日影規制の設定を行います。
- 規制条件が複数存在する場合は、予め“分割線・補助線”で分割線を入力しておく必要があります。
- 平均地盤等に絡む測定面高さの補正がある場合は、“平均地盤面高”で補正します。

[操作手順]

■新規設定

- 1) 対象となる領域を平面図又はプロパティ内で選択します。
 - ・マジェンタのハッチングが選択されている領域となります。
- 2) プロパティ内の“条件”のリストより選択します。

定義追加						
No	条件	名前	規制1(内側)	規制2(外側)	測定面	平均地盤面高
1	3時間2時間-4m		3時00分	2時00分	4.000	0.000

■任意設定

- 1) 対象となる領域を平面図又はプロパティ内で選択します。
 - ・マジェンタのハッチングが選択されている領域となります。
- 2) プロパティ内の“条件”のリストよりベースの項目を選択します。
- 3) プロパティ内の“定義追加”を選択します。
- 4) 任意の値を設定します。

■オフセット調整

・条件リストは法定規制値のリストとなっています。測定面はADS内で共通でも持たせている高さ方向の±0mからの高さとなりますので、計画によっては日影の平均地盤の高さが異なってきます。この際の調整が“平均地盤面高”で調整可能となります。

例) 下記の設定は同じになります。

- 1) 測定面=4.000m/平均地盤面高=0.5m → ADS内の4.5mの水平投影面に対して日影計算
- 2) 測定面=4.500m/平均地盤面高=0m → 同上

[与条件設定/発散ライン]

- 日影計算用の発散型規制ラインを作成します。
- “境界線条件”で道路幅員が設定されている境界線に対して設定可能です。
- ここでの設定により作成された発散ラインは、日影計算/特定点で発散ライン上への登録が可能です。(逆日影計算には考慮されません)

[操作手順]

■全自動計算(作成)を行う場合

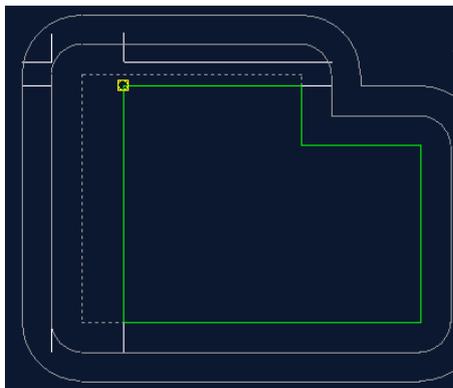
- 1) 作成種別より、“自動発生モード(全計算)”を選択します。



- 2) “ピッチ・計算範囲”を設定(確認)します。



- 3) “計算”を選択します。



[与条件設定/緯度経度]

- 緯度経度の設定を行います。
- 日影計算・逆日影計算時に利用されます。
- リストボックス内の項目から選択します。
- リストボックスに該当する地区が存在しない場合は、“環境設定を起動”で緯度経度を任意に編集してから設定します。

[操作手順]

■リストからの選択の場合

- 1) リストから目的の都市を選択します。

■目的の緯度経度がリストにない場合

○リストに都市名が表示されない

・“環境設定”プログラムがインストールされていません。一度 ADS を終了してから“環境設定”プログラムをインストールしてから、再度確認してください。

○リスト内に目的の緯度経度が無い

(環境設定プログラムで新しい緯度経度を登録します)

- 1) “環境設定を起動”を選択します
 - 2) 起動された“ADS 環境設定”より、“緯度経度”を選択します
 - 3) 都道府県を選択します
 - 4) 追加若しくは編集を行います
 - 5) “保存”を選択します
 - 6) “ファイルメニュー/アプリケーションの終了”を選択します。
- ※以上の作業終了後、改めてリストより選択します。

[与条件設定/日照条件]

○太陽赤緯・測定時間等、日影(逆日影)計算に必要となる条件を設定します。

[操作手順]

○各種項目を設定します。

・デフォルトは北海道以外の国内の申請用の設定となっていますので、北海道以外の日影規制のチェックの場合は変更する必要がありません。

太陽赤緯	度分秒を入力
時刻法	「真太陽時」・「中央標準時」のどちらかを選択
均時差	「中央標準時」を選択した場合に設定可能 「均時差」を理科年表等で調べ、値を入力
測定時間	計算の「開始時間」・「終了時間」を設定
測定ライン	5m・10mラインを変更する場合に設定

- ・24 節季分の日付と赤緯は登録されています
- ・日付だけ変更しても 赤緯を変更しないと計算結果は変わりませんので
理科年表などから赤緯を調べて入力してください
- ・理科年表で調べた太陽赤緯を入力しても、理科年表に記載されている日の出及び日の入りの時刻にはならないときがあります。

[与条件設定/敷地面積表]

- 本敷地編集等で編集された敷地の面積が確認できます。
- “敷地面積”欄の数値は変更可能です。(但し敷地の大きさは変わりません)

用途地域	敷地面積	建蔽率	建築面積	容積率	採用容積率	延床面積
近隣商業	3025.69㎡	80.00%	2420.56㎡	400.00%	360.00%	10892.50㎡
合計	3025.69㎡	80.00%	2420.56㎡		360.00%	10892.50㎡
合計坪	915.27坪		732.22坪			3294.98坪

※敷地面積を手動で変更した場合は、“再計算”を選択することで元の数値(実形状)に戻ります。

用途地域	設定した用途地域が表示
敷地面積	作成した敷地の面積が表示(編集可能)
建蔽率	設定した建蔽率が表示
建築面積	作成した敷地と設定した建坪率から許容敷地面積を算出
容積率	設定した容積率を表示
採用容積率	最大道路幅員等から採用する容積率を算出

[与条件設定/断面計画]

- 建物の高さを与えるための階高設定を行います。
- 斜線逆日影計算結果(等高線・断面図)におけるフロア線としても利用可能です。
- ADS では、建物の高さは絶対高でも入力できますが、断面計画を設定しておくことで階数等に依存した高さ設定も可能となります。
(建物高さを絶対高のみで入力する場合は設定不要です)
- 断面計画は複数設定できます。

■新規計画

- ・新たに断面計画を設定します。
- ・設定用 DLG が表示されますので、それぞれ数値入力をし、“OK”を選択します。



■計画削除

- ・登録済み断面計画を削除します
- ・複数ケース登録されている場合は、予め目的の No を選択しておきます。



■計画変更

- ・登録済み断面計画の階数、基準階高等を変更します。
- ・複数ケース登録されている場合は、予め目的の No を選択しておきます。



■部分編集

- ・一覧表示の“階高”欄で個々に階高の編集が可能です。
- ・“挿入”を選択すると、カーソル(青色)のある上の階に挿入できます。

挿入	階	階高	床高
階削除	R		30.000
	10	3.000	27.000
	9	3.000	24.000
	8	3.000	21.000
	7	3.000	18.000
	6	3.000	15.000
	5	3.000	12.000
	4	3.000	9.000
	3	3.000	6.000
	2	3.000	3.000
	1	3.000	0.000

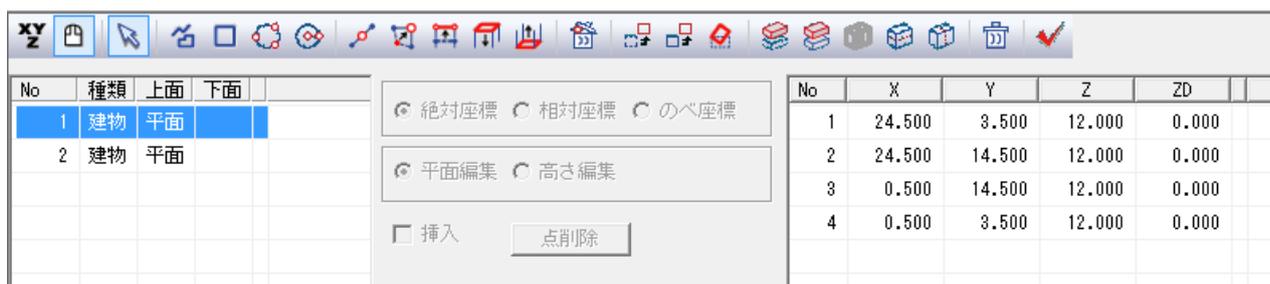
[建物編集/ブロック編集]

- 建物形状の図形に関する編集を行います。
- ここでの編集は、平面図上でのマウスによる編集か、プロパティ内による座標編集となります。
- 建物の高さ等に関する編集は、“リスト編集”にて行います。

- [システム内における建物](#)
- [建物形状の制限について](#)
- [建物形状の高さについて](#)
- [建物形状\(ブロック\)の選択について](#)

■操作手順

- ・[新規入力\(任意形状\)](#)
- ・[新規入力\(矩形\)](#)
- ・[新規入力\(円-3点\)](#)
- ・[新規入力\(円-中心\)](#)
- ・[ブロック編集\(点挿入\)](#)
- ・[ブロック編集\(点挿入\)](#)
- ・[ブロック編集\(点移動\)](#)
- ・[ブロック編集\(辺移動\)](#)
- ・[ブロック編集\(上面移動\)](#)
- ・[ブロック編集\(下面移動\)](#)
- ・[ブロック編集\(点削除\)](#)
- ・[ブロック編集\(ブロック移動\)](#)
- ・[ブロック編集\(ブロックコピー\)](#)
- ・[ブロック編集\(ブロック回転\)](#)
- ・[ブロック編集\(垂直移動\)](#)
- ・[ブロック編集\(垂直複写\)](#)
- ・[ブロック編集\(合成\)](#)
- ・[ブロック編集\(水平面カット\)](#)
- ・[ブロック編集\(垂直面カット\)](#)
- ・[ブロック編集\(ブロック削除\)](#)
- ・[ブロック編集\(図形チェック\)](#)
- ・[座標入力](#)



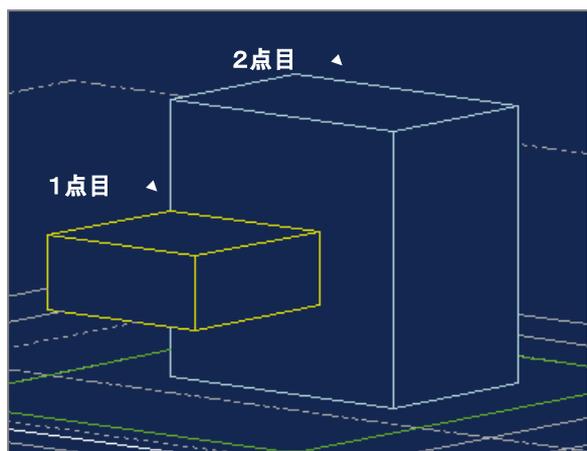
The screenshot displays a software interface for building editing. At the top is a toolbar with various icons for selection, editing, and deletion. Below the toolbar is a table with columns: No, 種類, 上面, 下面. The first two rows are highlighted in blue. The first row contains '1' and '建物 平面'. The second row contains '2' and '建物 平面'. To the right of this table are two sets of radio buttons: the first set for coordinate systems (絶対座標, 相対座標, のべ座標) with '絶対座標' selected; the second set for editing modes (平面編集, 高さ編集) with '平面編集' selected. Below these are checkboxes for '挿入' and a '点削除' button. On the far right is another table with columns: No, X, Y, Z, ZD. It contains four rows of numerical data.

No	種類	上面	下面
1	建物	平面	
2	建物	平面	

No	X	Y	Z	ZD
1	24.500	3.500	12.000	0.000
2	24.500	14.500	12.000	0.000
3	0.500	14.500	12.000	0.000
4	0.500	3.500	12.000	0.000

■システム内における建物(建物ブロックと中空ブロック)

ADS における建物は、すべての形状(ブロック)に対して「建物ブロック」と「中空ブロック」の何れかの属性を持っています。



○建物ブロック

- ・下面が地盤面または、地盤面より下にある柱状のブロックです。
(上面は、同一平面であれば水平である必要はありません)
- ・各頂点は、平面状の「X 座標値」「Y 座標値」「高さ Z」の3つの値で表します。
(断面計画に依存させた場合は階数依存の入力も可能)

○中空ブロック

- ・上面と下面がそれぞれ同一平面上にある、空中に浮いた3次元ブロックです。
(上面下面共、同一面であれば水平である必要はありません。)
- ・各頂点は、平面状の「X 座標値」「Y 座標値」「上面の高さ Z」「下面の高さ ZL」の4つの値で現します。

※絶対高で入力する場合は、基本的には断面計画は不要ですが断面計画の有無に関わらず全てのブロックに対し断面計画番号を持っており絶対高における高さは断面計画内の[基準床]からの高さとなります。

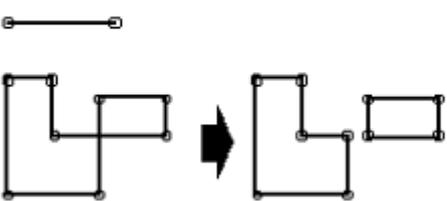
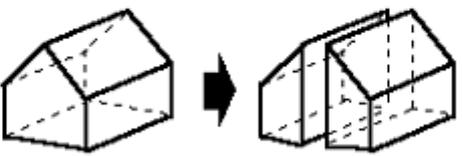
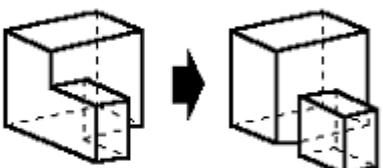
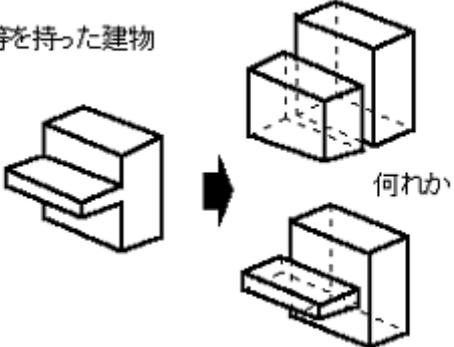
※中空ブロックは、“日影計算” および “規制ラインチェック” において建物ブロックの十数倍の時間が必要となり等時間日影図においては島日影を発生する可能性も高いのでメッシュ法(日影計算内)で、比較的細かいメッシュピッチで計算させて確認してください。

行政側の指導ではバルコニーや庇などについては、包絡処理して計算することを奨励しており上下バルコニー間などの隙間日照を認めていない場合が多いため中空ブロックは、必要最小限の数だけ設定することをお勧めします。

ブロックの相関は考慮する必要はありませんが、各ブロックの面が同一平面上に存在しなければなりません。従って、高低差のある形状や稜線が発生する形状等は1つのブロックでは、作成できませんので、複数に分けて入力してください。

■建物形状の制限について

- 高低差のある形状は、2つ以上のブロックに分解して入力してください。
- 各ブロックは、稜線を持たない立体とします。
- 各ブロックは、3ポイント以上の多角形とし、辺が交差するような8の字型の多角形は入力しないでください。
- 中空ブロックは、下面の高さが上面を超えてはいけません。ただし、上面と下面の高さが同一の場合は計算可能です。

<p>各ブロックは3ポイント以上の多角形とし、辺が交差するような8の字型の多角形は入力しないでください。</p> 	<p>傾斜面を持つブロックは、稜線を持たない立体(片勾配)として入力します。</p> 
<p>高低差のある形状は、2つ以上のブロックに分解して入力します。</p>	
<p>通常の建物</p> 	<p>庇等を持った建物</p> 

[注意事項について]

- ・「チェック」、「規制ラインチェック」、「建物高チェック」選択時にブロックのチェックを行います。

■建物形状の高さについて

- ブロックの各頂点の高さをそれぞれ設定することで、ブロックの立体形状を決定します。
- 各頂点の「高さ」は、絶対高入力と断面計画に依存させた入力の何れが可能です。
- 建物ブロックと中空ブロックでは、その形態の違いにより設定する「高さ」が異なります。

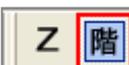
★絶対高

No	種類	上面	下面	Z	ZD
1	建物	平面		54.665	
2	建物	傾斜			
3	建物	平面		12.000	
9	中空	平面	平面	19.200	17.800
10	中空	平面	平面	19.200	17.800



★断面計画依存

No	種類	上面	下面	階高	オフセット	階高D	オフセットD
1	建物	平面		10	24.665		
2	建物	傾斜					
3	建物	平面		4	0.000		
4	建物	平面		8	1.650		
9	中空	平面	平面	6	1.200	6	-0.200
10	中空	平面	平面	6	1.200	6	-0.200
11	中空	平面	平面	7	1.200	7	-0.200



※上部ボタンの中にある、“絶対高表示”か“階数依存表示”を切り替えることで表示が切り替わります。

■建物形状(ブロック)の選択について

- 入力済み建物形状(ブロック)に対して編集を行う場合は、予め対象となるブロックを選択しておく必要があります。
- ブロックの選択は、単一でも複数でも選択できます。
- ブロックは、「平面図」/「アイソメ」/「リスト」各々のウィンドウ上で選択できます。

★単一ブロックの選択

- マウス単一選択

「平面図」ウィンドウ上、及び「アイソメ」ウィンドウ上で、建物形状の“任意の一辺”を選択します。

※「アイソメ」ウィンドウ上で選択する場合は、建物の屋根面を選択します。

- マウス対角指示

「平面図」ウィンドウ上、及び「アイソメ」ウィンドウ上で、単一の建物形状を 囲むようにマウスで対角指示

- リスト選択

「リスト」ウィンドウ上、No を選択 / 上下キーで選択

★複数ブロックの選択

○マウス単一選択

「平面図」ウィンドウ上、及び「アイソメ」ウィンドウ上で、建物形状を選択

「Ctrl」キーを押しながら、別の建物形状を選択

※「アイソメ」ウィンドウ上で選択する場合は、建物の屋根面を選択します

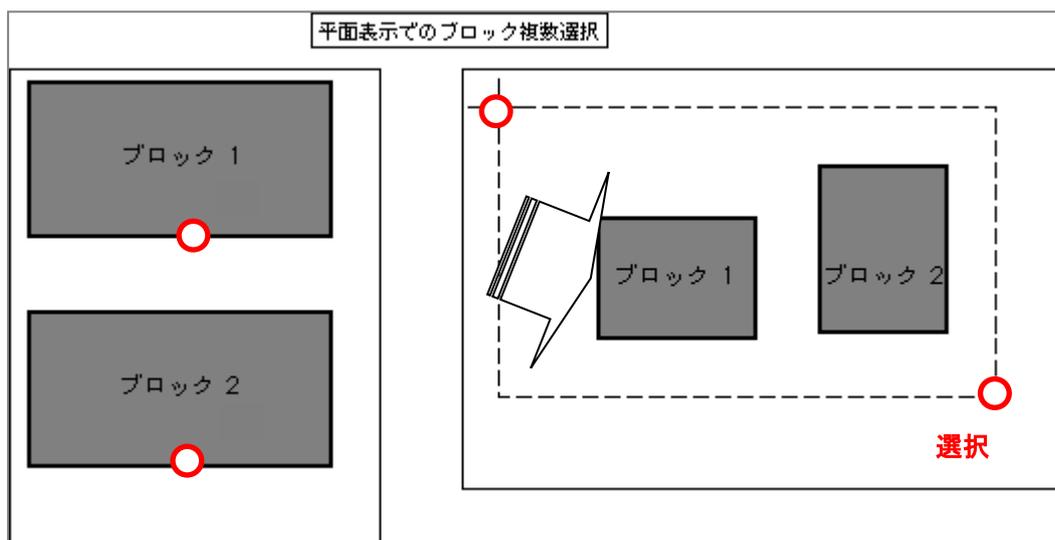
○マウス対角指示

「平面図」ウィンドウ上、及び「アイソメ」ウィンドウ上で、複数の建物形状を囲むようにマウスで対角指示

○リスト選択

「リスト」ウィンドウ上、No を選択 / 上下キーで選択

「Ctrl」キーを押しながら、別の No を選択 / 上下キーで選択



[操作手順]

■新規入力(任意形状)

1) “作成”コマンドを選択

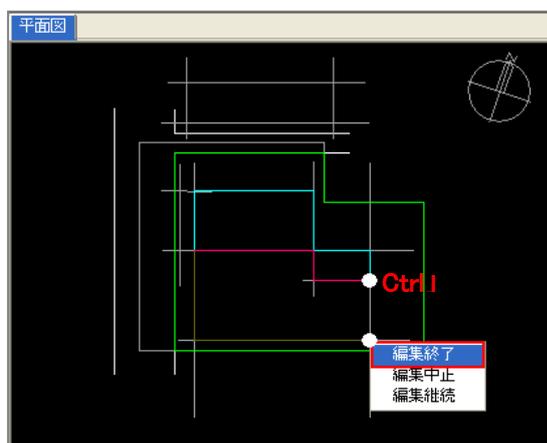


2) 平面図上で、建物の平面形状を一筆書きの要領で多角形のポイント数分だけ入力します。

3) 右クリックで“編集終了”を選択します。

以上で1つの形状が作成されます。

続けて新規ブロックの入力が可能です。

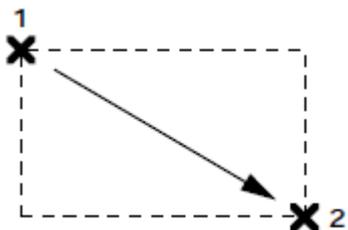


■新規入力(矩形)

1) “矩形作成”コマンドを選択します。



2) 平面図上で、2点(対角)指定します。



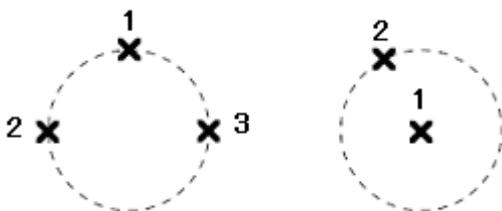
■新規入力(円作成-3点)

○新規で3点入力による円を作成します。

○作成されて図形は多角形分解されます

1) “円作成(3点)”を選択します。

2) 平面図内で3点指定します。



囲む

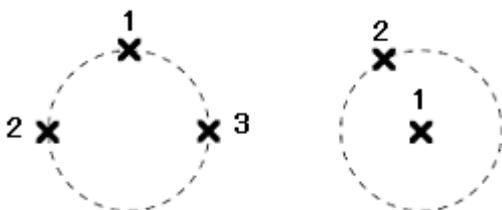
■新規入力(円作成-中心)

○新規で中心(及び半径)指定による円を作成します。

○作成されて図形は多角形分解されます

1) “円作成(中心)”を選択します。

2) 平面図内で2点指定します。

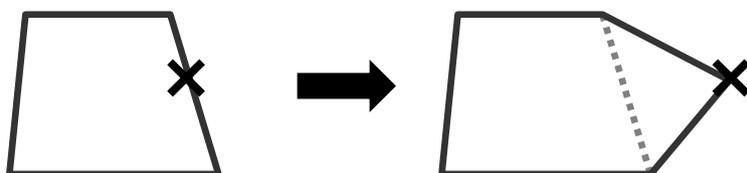


■ブロック編集(点挿入)

既に入力されている形状のポイント間に、新しいポイントを挿入します。

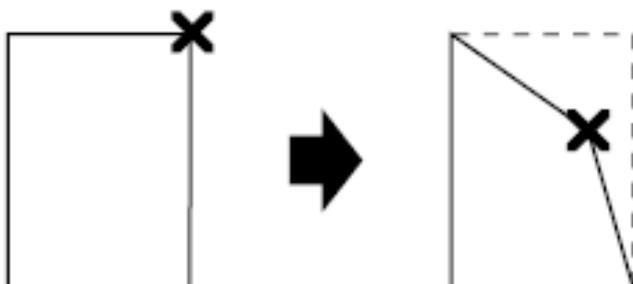
- 1) 編集対象となるブロックを選択します。
- 2) “点挿入”コマンドを選択します。
- 3) 平面図内で、点挿入したい“辺”を選択します。
- 4) 目的(挿入)位置を指定します。

※同一辺に続けて指定することが可能です



■ブロック編集(点移動)

- 1) 編集対象となるブロックを選択します。
- 2) “点移動”コマンドを選択します。
- 3) 平面図内で、移動させたい“ポイント”を選択します。
- 4) 目的(移動)位置を指定します。



■ブロック編集(辺移動)

- 1) 編集対象となるブロックを選択します。
- 2) “点移動”コマンドを選択します。
- 3) 平面図内で、移動させたい“ポイント”を選択します。
- 4) 目的(移動)位置を指定します。

※同一辺に続けて指定することが可能です

■ブロック編集(上面移動)

- 既存ブロックの上面を上下に移動します。
- マウスによるオペレーションのみとなります。

- 1) 平面図又はプロパティ内リストで対象ブロックを選択します。
- 2) “上面移動”を選択します。
- 3) アイソメ図内で 1) で選択したブロックの上面を選択します。
- 4) アイソメ図内で、移動位置を選択します。

■ブロック編集(下面移動)

- 既存ブロックの下面を上下に移動します。
- マウスによるオペレーションのみとなります。

- 1) 平面図又はプロパティ内リストで対象ブロックを選択します。
- 2) “下面移動”を選択します。
- 3) アイソメ図内で 1) で選択したブロックの下面を選択します。
- 4) アイソメ図内で、移動位置を選択します。

■ブロック編集(点削除)

- 1) 編集対象となるブロックを選択します。
- 2) “点削除”コマンドを選択します。
- 3) 平面図内で、削除したい“ポイント”を選択します。

■ブロック編集(ブロック移動)

- 既存のブロックを移動(平面)します。

- 1) 平面図又はプロパティ内リストで対象ブロックを選択します。
- 2) “ブロック移動”を選択します。
- 3) 移動方法をリストボックスより選択(設定)します。



フリー	・任意位置に移動(図形を端点指定で移動可能)
X 軸	・X 軸に、平行に移動
Y 軸	・Y 軸に、平行に移動
辺平行	・任意の辺(敷地、建物)に、平行に移動
辺垂直	・任意の辺(敷地、建物)に、垂直に移動
東西	・東西に、平行に移動
南北	・南北に、平行に移動

- 4) 平面図内で基点(選択ブロック内の任意のポイント)を選択し、移動先を指定します。

■ブロック編集(ブロック複写)

- 既存のブロックを複写(平面)します。
- 元ブロックは残ります。

- 1) 平面図又はプロパティ内リストで対象ブロックを選択します。
- 2) “ブロック複写”を選択します。
- 3) 複写方法をリストボックスより選択(設定)します。



フリー	・任意位置に複写(図形を端点指定で移動可能)
X 軸	・X 軸に、平行に複写
Y 軸	・Y 軸に、平行に複写
辺平行	・任意の辺(敷地、建物)に、平行に複写
辺垂直	・任意の辺(敷地、建物)に、垂直に複写
東西	・東西に、平行に複写
南北	・南北に、平行に複写

- 4) 平面図内で基点(選択ブロック内の任意のポイント)を選択し、複写先を指定します。

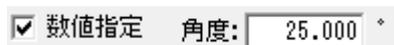
■ブロック編集(ブロック回転)

- 既存のブロックを回転させます。

- 1) 平面図又はプロパティ内リストで対象ブロックを選択します。
- 2) “ブロック回転”を選択します。
- 3) 平面図内で、回転させるための基点(1 点目)を指定し、続けて基準軸となる 2 点目を指定します。
- 4) 回転させる場所を指定します。

※数値指定の場合

上記 2) の後に、“数値指定”をチェックし角度を入力します。



続けて平面上で基点を指定すると上記数値で回転されます。

■ブロック編集(垂直移動)

○既存のブロックを上下(垂直)方向に移動をします。

- 1) 平面図又はプロパティ内リストで対象ブロックを選択します。
- 2) “垂直移動”を選択します。
- 3) ダイアログボックスより、数値等を設定し“OK”を選択します

垂直移動

移動面

上面のみ

下面のみ

上下面

移動単位

m単位

階数単位

オフセット

0.000 m

0 階

OK キャンセル

■ブロック編集(垂直複写)

○既存のブロックを上下(垂直)方向に複写をします。

○元ブロックは変更されずに、ブロックの高さ分、新たにブロックが作成されます。

- 1) 平面図又はプロパティ内リストで対象ブロックを選択します。
- 2) “垂直複写”を選択します。
- 3) ダイアログボックスより、数値等を設定し“OK”を選択します

垂直複写

コピー数:

移動単位

m単位

階数単位

オフセット

0.000 m

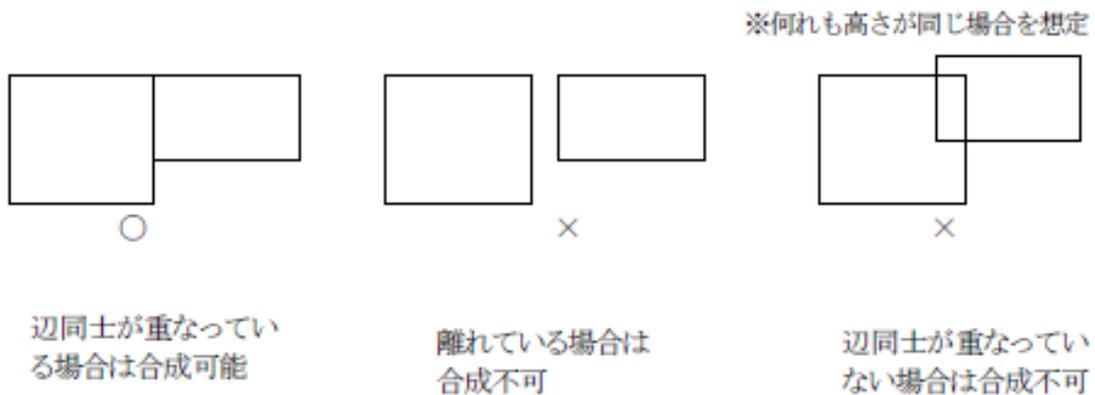
0 階

OK キャンセル

■ブロック編集(合成)

○同一高さで辺が接しているブロックを合成します。

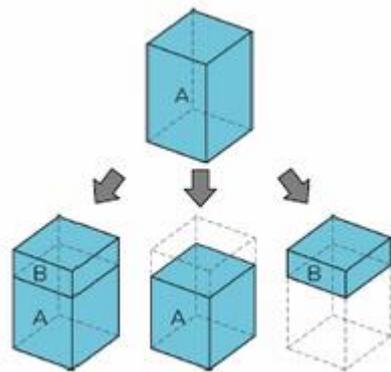
- 1) 合成したいブロックを2つ以上選択します。
平面図内でCtrlキーを押しながら複数選択します。
- 2) “合成”を選択します。



■ブロック編集(水平面カット)

○任意(複数同時可)のブロックを水平方向でカットします。

- 1) 平面図内で対象ブロックを選択します。
- 2) “水平面カット”を選択します。
- 3) ダイアログボックスで数値等を設定し“OK”を選択します。



上面をカット	分断後(A)のブロックを削除
下面をカット	分断後(B)のブロックを削除

※両方チェックを外すと、両方(A・B)のブロックが分断だけされて残ります。

■ブロック編集(垂直面カット)

○既存ブロックを垂直方向でカットします。

1) 平面図又はプロパティ内リストで対象ブロックを選択します。

※複数ブロックの選択が可能です。

2) “垂直面カット”を選択します。

3) カット方法を選択します。

2点指定 辺選択

4) 平面図内で 3) で選択した項目の設定をします。

○“2点指定”を選択した場合

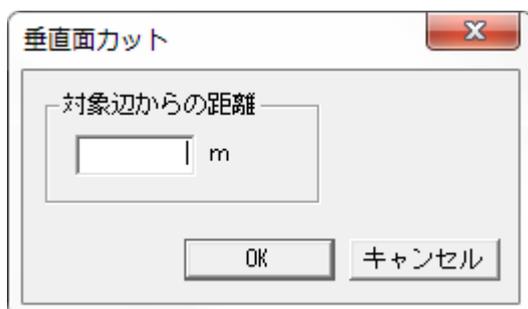
・平面図内で、2点指定によるラインを作成します。(カットする基準線)

○“辺選択”を選択した場合

・平面図内で、基準となる辺を選択します。

※平面図内に表示されている直線全てが選択対象となります。

5) ダイアログボックスで 4) で指定した線分からの距離を入力し、“OK”を選択します。



■ブロック編集(ブロック削除)

○既存ブロックを削除します。

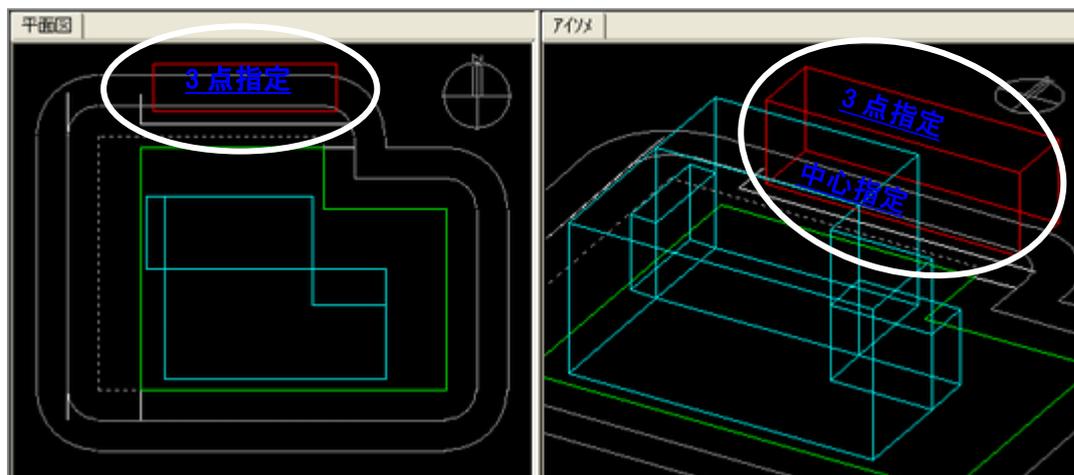
1) 平面図又はプロパティ内リストで対象ブロックを選択します。

2) “ブロック削除”を選択します。

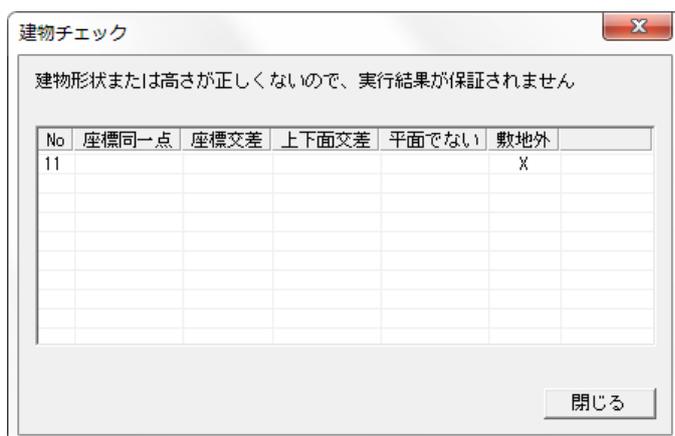
■ブロック編集(図形チェック)

 建物ブロックが赤色になった場合に、何が原因かを確認します。

ブロック色が赤くなった場合は必ず確認してください。



No	種類	上面	下面	Z	ZD	断面	斜線	日影	P	面積
1	建物	平面		18.000		1	✓	✓	6	578.00
2	建物	平面		10.000		1	✓	✓	4	240.00
3	建物	平面		9.000		1	✓	✓	4	72.00



- 座標同一点
 - ・座標が重なっています。
- 座標交差
 - ・座標が交差しています。(8の字図形)
- 上下面交差
 - ・上面と下面の高さが逆転しています。
- 平面でない
 - ・上面又は下面が片流れになっていません。
- 敷地外
 - ・斜線属性対象のブロック(ポイント)が敷地外にあります。

エラーになる場合は以上の原因となります。エラーが解除されるように予め建物ブロックを修正してください。

■座標入力

○座標を直接数値入力し、建物形状を作成・編集を行います。

-  座標欄が空欄の際にプロパティ内の“数値入力”を選択することで新規座標入力が可能となります。
- 既存ブロックが選択された状態で“数値入力”を選択すると、既存ブロックの座標編集が可能となります。

<input checked="" type="radio"/> 絶対座標 <input type="radio"/> 相対座標 <input type="radio"/> のべ座標						
<input checked="" type="radio"/> 平面編集 <input type="radio"/> 高さ編集						
<input type="checkbox"/> 挿入 <input type="button" value="点削除"/>						
No	X	Y	Z	ZD		
1	72.794	93.717	25.000	0.000		
2	72.794	81.468	25.000	0.000		
3	102.801	81.468	25.000	0.000		
4	102.794	93.717	25.000	0.000		

絶対座標	原点(0,0)を基準とし 各頂点の位置を原点からの絶対座標値によって入力
相対座標	第1ポイントを原点(0,0)からの絶対座標値によって設定し この点を基準に各頂点の位置を相対値によって入力
のべ座標	第1ポイントを原点(0,0)からの絶対座標値によって設定し 以降のポイントを直前のポイントからの移動数値によって入力

ポイントの追加 <input checked="" type="checkbox"/> 挿入	追加したいポイントNo.を選択 「挿入」チェックボックスを選択 新規と同様に直接数値入力
座標値を修正 <input type="checkbox"/> 挿入	「挿入」チェックボックスのチェックを外す 修正したい箇所を選択 数値を直接入力
ポイントの削除 <input type="button" value="点削除"/>	「挿入」チェックボックスのチェックを外す 削除したいポイントNo.を選択後 「点削除」を選択

[建物編集/リスト編集]

- 入力済み建物形状のリスト内の編集を行います。
- “高さ・計算属性”等の設定が可能です。
- 平面形状等の形状に関する編集は、“ブロック編集”で行います。
- 建物の高さは、絶対高入力と階数依存入力の2種類があります。



このボタンで切り替えます。

[操作方法]

プロパティ内のリストの各欄を編集します。

■絶対高表示(絶対値での高さ設定)

No	種類	上面	下面	Z	ZD	断面	斜線	日影	P	面積
1	建物	平面		25.000		1	✓	✓	4	367.51
2	建物	傾斜				1	✓	✓	4	126.54
3	建物	平面		25.650		1			4	575.98
4	建物	平面		28.650		1			6	532.00
5	建物	平面		16.500		1	✓	✓	4	84.55
6	建物	平面		22.000		1	✓	✓	5	104.25
7	中空	平面	平面	22.200	0.000	1	✓	✓	4	22.10
8	中空	平面	平面	19.200	0.000	1	✓	✓	4	22.10

No	入力したブロックのブロック番号	
種類	建物	建物の上面の高さのみ、設定できるブロック
	中空	建物の上面と下面の高さを設定(中に浮いたようなブロック)
上面	平面	建物の上面をフラットに設定
	傾斜	建物の上面に傾斜を設定
下面	平面	建物の下面をフラットに設定
	傾斜	建物の下面に傾斜を設定
Z	建物ブロック/中空ブロックで、設計 GL から上面までの高さ	
ZD	中空ブロックで、設計 GL から下面までの高さ	
断面	断面計画で設定した No が表示	
斜線	斜線計算(天空率・建物高チェック等)で考慮するブロック設定 “レ”が計算対象	
日影	日影計算(規制ラインチェック等)で考慮するブロック設定 “レ”が計算対象	
P	ブロックを構成しているポイント総数	
面積	ブロックの面積(m ²)	

■階数依存表示(断面計画で設定した階高に依存した高さ設定)

上面	下面	階数	オフセット	階数D	オフセットD
平面		8	1.000		
傾斜					
平面		8	1.650		
平面		9	1.650		
平面		5	1.500		
平面		7	1.000		
平面	平面	7	1.200	6	2.800
平面	平面	6	1.200	5	2.800

階数	建物ブロック/中空ブロックで、上面までの高さ
オフセット	建物ブロック/中空ブロックで、上面までのオフセット量
階数 D	中空ブロックで、下面までの高さ
オフセット D	中空ブロックで、下面までのオフセット量

[建物編集/傾斜(3点)]

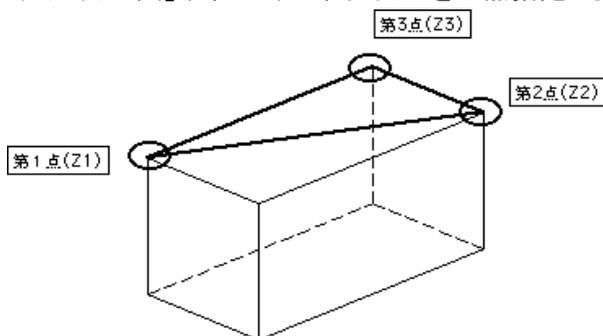
- 入力済み建物ブロックの上面(屋根面)に対して、片勾配の設定を行います。
- 任意の3点を指定し、それぞれに高さを与えることで、方勾配の高さに自動補正します。
- 建物属性が“中空”になっている場合は、下面に対する設定も可能です。

編集面	上面	下面
<input checked="" type="radio"/> 上面	Z1: <input type="text"/> m	Z1: <input type="text"/> m
<input type="radio"/> 下面	Z2: <input type="text"/> m	Z2: <input type="text"/> m
	Z3: <input type="text"/> m	Z3: <input type="text"/> m

上面	ブロック上面に傾斜を設定
下面	ブロック下面に傾斜を設定
Z1	第1ポイントの高さ
Z2	第2ポイントの高さ
Z3	第3ポイントの高さ

■操作手順

- 1) 編集対象となる建物ブロックを選択します。
“平面図” (又はアイソメ図) ウィンドウ上で
- 2) 傾斜設定を行う面(上面 or 下面)を選択します。
- 3) “作成”を選択します。
- 4) 「アイソメ図」ウィンドウで、ポイントを3点指定します。



※「平面図」ウィンドウでも指定可能ですが、既に高さが与えられていて、その中の一部の高さを参考にしたい場合は、アイソメ図上で上図のように頂点を選択しておくことで以降の作業が楽になります。

「アイソメ図」

- 5) プロパティ内の“Z1～Z3”の高さを入力します。
- 6) “変換実行”を選択します。

[建物編集/傾斜(斜線)]

○入力済みブロックの上面に対して、斜線勾配に合わせた片勾配の設定を行います。

[操作手順]

- 5) “選択”を選択します。
- 6) 平面図又はプロパティ内リストで対象ブロックを選択します。
- 7) “基準境界線指定”を選択します。

※その他(以下のコマンドは道路境界線が選択された場合のみ有効です)

基準線作成	<ul style="list-style-type: none">・任意に基準線を作成します。・平面図内で2点指定します。・予め背景読み込まれた DXF や作図線を利用してください
基準線指定	<ul style="list-style-type: none">・斜線勾配の元となる線(基準線)を選択・予め背景読み込まれた DXF や作図線が選択対象となります。・基準線は1本(直線)のみ選択可能

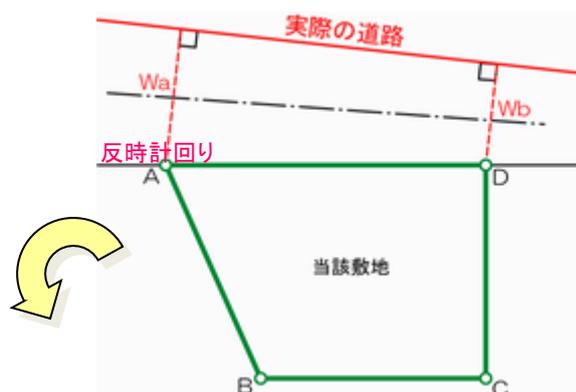
- 8) 各種パラメータを設定し、“変換実行”を選択します。

変換実行	
道路斜線 隣地斜線	
基準境界線	幅員(始点): 12.000 m
境界線No: 6	幅員(終点): 12.000 m
用途地域:	傾斜: 1.500
地盤高: 0.000 m	道路高さ 1: 0.000 m
建物後退距離: 9.871 m	道路高さ 2: 0.000 m

※3)で選択された境界線によって、プロパティ内の“道路斜線・隣地斜線”が自動的に切り替わり、与条件設定の設定情報が表示されます。

■道路境界線を選択した場合

幅員(始点)	選択された道路境界線の始点(D点、反時計回り)側の幅員を指定 指定する幅員は、反対側道路境界から垂直に見た距離(Wb) 「基準線指定」で線分を指定した場合は、自動的に数値が表示
幅員(終点)	選択された道路境界線の終点(A点、反時計回り)側の幅員を指定 指定する幅員は、反対側道路境界から垂直に見た距離(Wa) 「基準線指定」で線分を指定した場合は、自動的に数値が表示
傾斜	斜線勾配を設定 通常は、「与条件設定/用途地域」で設定された値が表示
道路高さ1	始点(敷地境界線を反時計回り、手前の点)側の道路高さを指定 通常は、「与条件編集/境界線条件」で設定された値 又は、「基準線指定」で選択された値が表示
道路高さ2	終点(敷地境界線を反時計回り、次の点)側の道路高さを指定 通常は、「与条件編集/境界線条件」で設定された値 又は、「基準線指定」で選択された値が表示



■隣地境界線が選択された場合

立上り高さ	「基準線指定」時に作図線を利用する場合は、予めチェックします
傾斜	斜線勾配を設定 通常は、「与条件設定/用途地域」で設定された値が表示
隣地高	隣地の高さを設定 通常は、「与条件編集/境界線条件」で設定された値

[建物編集/フロア計画]

○入力済みブロックに対して断面計画(No1)のフロアごとの面積を集計します。

○予め断面計画を設定しておく必要があります。

[操作手順]

1) “計算”を選択します。

計算		敷地面積:	1750.31 m ²	階	面積	
		許容建築面積:	1209.51 m ²	10	532.00m ²	
		許容延床面積:	3820.38 m ²	9	1475.49m ²	
		延床面積:	16719.63 m ²	8	1601.83m ²	
				7	1601.83m ²	
				6	1759.14m ²	
				5	1790.83m ²	
				4	1966.01m ²	
				3	1966.01m ²	
				2	2013.25m ²	
				1	2013.25m ²	

[建物編集ドーム屋根]

- 既存ブロックの上面にドーム屋根形状を作成します。
- 最終的な確定図形は、ブロック制限に沿って自動分割されます。

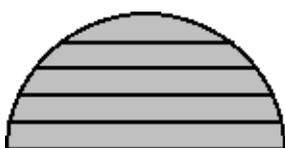
[操作手順]

- 1) 平面図又はプロパティ内リストで対象ブロックを選択します。
※選択されたブロックの上面にパラメータの形状が表示されます。
- 2) プロパティ内の各パラメータを設定し、“変換実行”で作成されます。
※変換実行を選択するまでは、対象ブロックの切り替えが可能です。

○“薄い”が選択された場合



中心 X	ドーム屋根作成の中心点の X 座標
中心 Y	ドーム屋根作成の中心点の Y 座標
高さ	作成するドーム屋根ブロックの底辺の高さ
傾斜面	ドーム屋根を作成した際の個々のブロックを、傾斜面に設定
階段状	ドーム屋根を作成した際の個々のブロックを、階段状に設定



b

a	ドーム屋根の直径
b	ドーム屋根を作成する時の採用底辺(直径以上の数値は入力不可)
c	ドーム屋根を作成する時の採用高さ(半径以上の数値は入力不可)
d	ドーム屋根を作成する時の採用高さ(半径以上の数値は入力不可)

○“厚い”が選択された場合

中心X:	90.338	m	<input checked="" type="radio"/> 傾斜面	<input type="radio"/> 階段状	直径: 16.000 m		
中心Y:	126.474	m	<input type="radio"/> 薄い	<input checked="" type="radio"/> 厚い			0.000
高さ:	28.650	m					8.000
						0.000	

a	ドーム屋根の直径
---	----------

※ドーム上部半球

b	ドーム屋根を作成する時の採用底辺(直径以上の数値は入力不可)
c	ドーム屋根を作成する時の採用高さ(半径以上の数値は入力不可)
d	ドーム屋根を作成する時の採用高さ(半径以上の数値は入力不可)

※ドーム下部半球

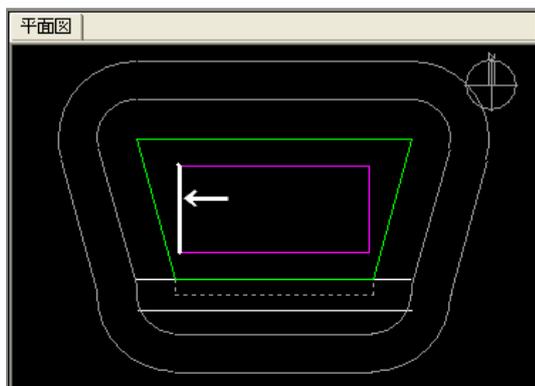
e	ドーム屋根を作成する時の採用底辺(直径以上の数値は入力不可)
f	ドーム屋根を作成する時の採用高さ(半径以上の数値は入力不可)
g	ドーム屋根を作成する時の採用高さ(半径以上の数値は入力不可)

[建物編集/ヴォールト屋根]

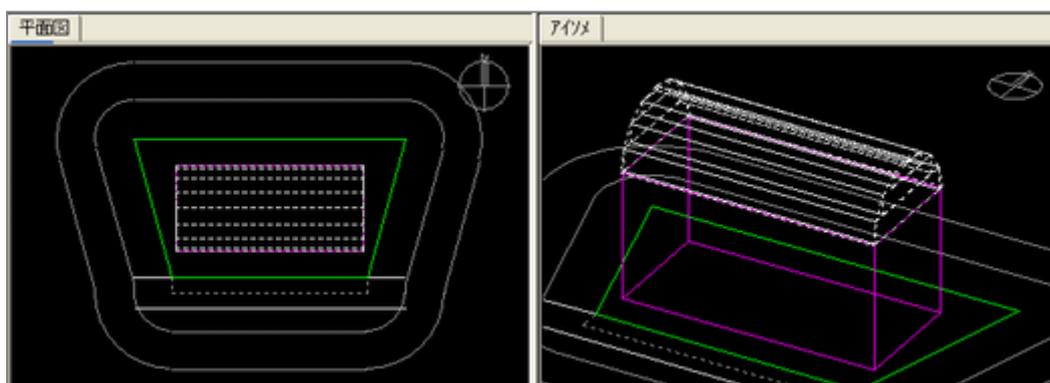
- 既存ブロックの上面にヴォールト屋根形状を作成します。
- 最終的な確定図形は、ブロック制限に沿って自動分割されます。

[操作手順]

- 1) 平面図又はプロパティ内リストで対象ブロックを選択します。
- 2) 平面図内で対象辺を選択します。
※1)で選択したブロックの妻側の1辺を選択します。



※基準辺が選択されると、予め設定されているパラメータによる形状が表示されます。



- 3) プロパティ内のパラメータを設定し、“変換実行”で作成されます。

中心X: 90.338 m

中心Y: 126.474 m

高さ: 28.650 m

傾斜面 階段状

薄い 厚い

直径: 16.000 m

a

16.000 m

b

8.000 m **c**

0.000 m **d**

a	ヴォールト屋根の直径
b	ヴォールト屋根を作成する時の採用底辺(直径以上の数値は入力不可)
c	ヴォールト屋根を作成する時の採用高さ(半径以上の数値は入力不可)
d	ヴォールト屋根を作成する時の採用高さ(半径以上の数値は入力不可)

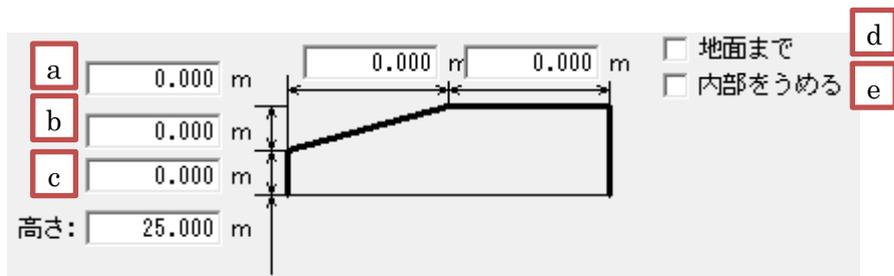
-
- ・ヴォールト屋根の直径は、「選択したブロックの辺の長さ」を参照しています
 - ・ヴォールト屋根は、長方形のみの作成の為、デジタイザ等で作成した多角形ブロック上に作成する場合は長方形に修正する必要があります

[建物編集/パラペット]

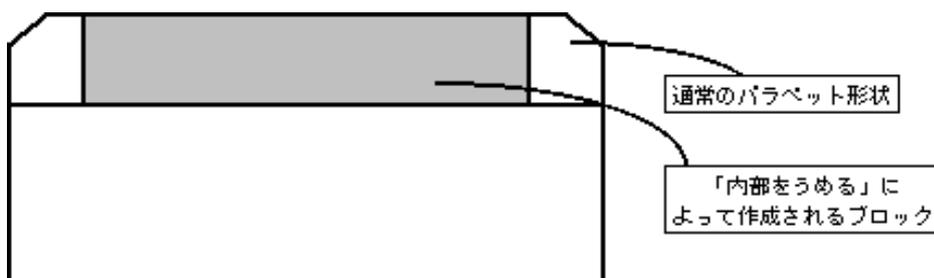
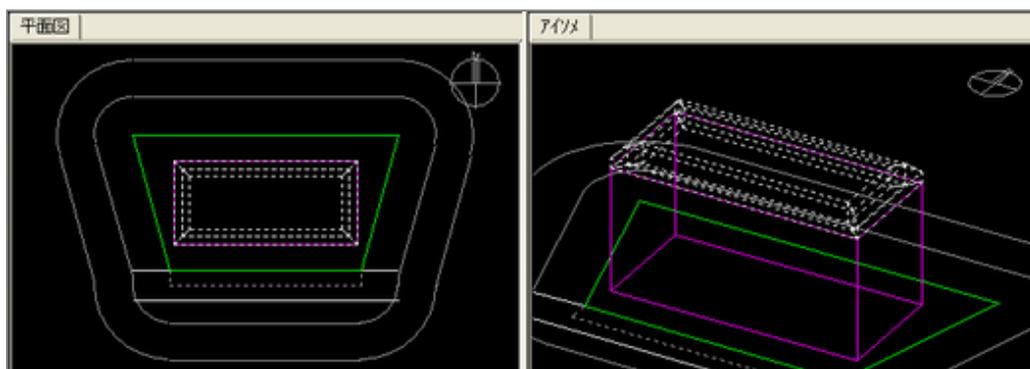
- 既存ブロックの上面にパラペット相当の形状を作成します。
- 最終的な確定図形は、ブロック制限に沿って自動分割されます。

[操作手順]

- 1) 平面図又はプロパティ内リストで対象ブロックを選択します。
- 2) 平面図内で対象辺を選択します。
※1)で選択したブロックの妻側の1辺を選択します。



a	パラペットの高さ
b	テーパの高さ
c	垂直部の高さ
d	テーパ部の幅
e	水平部の高さ
高さ	ブロックの上部高さ(パラペットの下部高さ)
地面まで	確定(ブロック分解)後、それぞれのブロックを地面まで作成する
内部をうめる	パラペット形状の内部にブロックを作成します

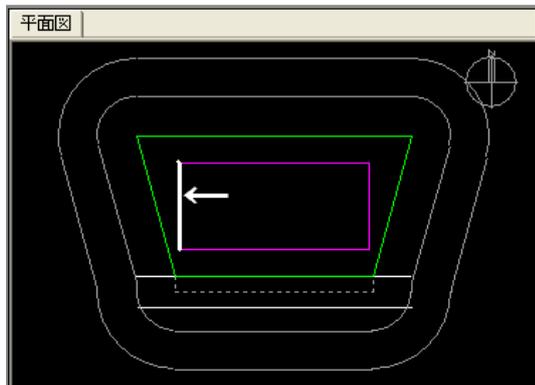


[建物編集/切妻屋根]

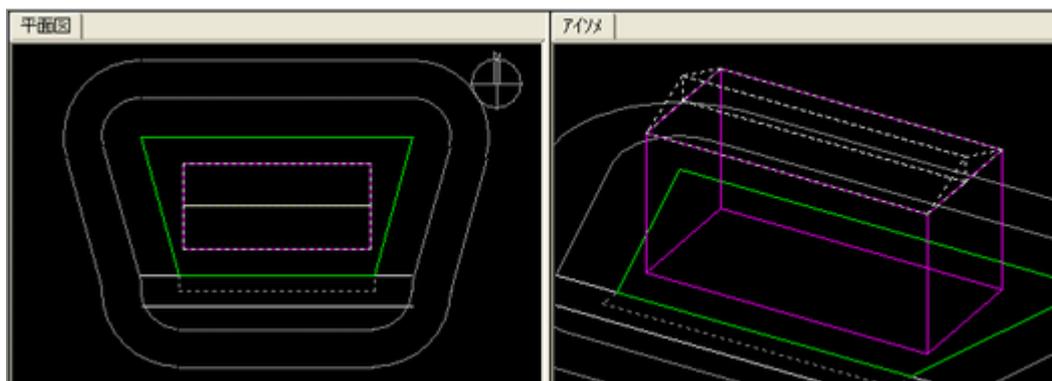
- 既存ブロックの上面に切妻屋根形状を作成します。
- 最終的な確定図形は、ブロック制限に沿って自動分割されます。

[操作手順]

- 1) 平面図又はプロパティ内リストで対象ブロックを選択します。
- 2) プロパティ内の“作成”を選択し、平面図内で対象辺を選択します。
※1)で選択したブロックの妻側の1辺を選択します。

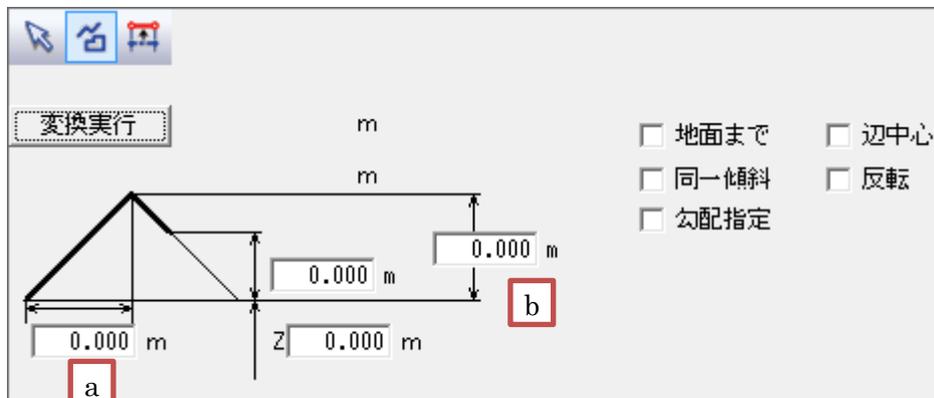


※対象辺が選択されると、予め設定されているパラメータによる形状が表示されます。



- 3) プロパティ内でパラメータを設定し、“変換実行”で作成されます。

※高さ入力の場合

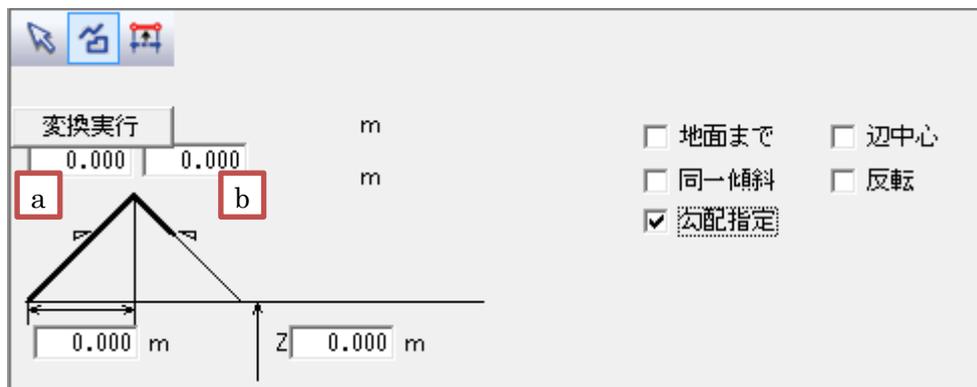


a

中心辺までの幅(選択ブロック辺以上の数値は入力不可)

b	屋根の高さ
地面まで	確定(ブロック分解)後、それぞれのブロックを地面まで作成
同一傾斜	屋根の勾配を同一の傾斜に設定
勾配指定	勾配で屋根を設定
辺中心	ブロックの中心に辺を設定
反転	“b” の点位置を変更(主に勾配指定/同一傾斜時に指定)

※勾配入力の場合



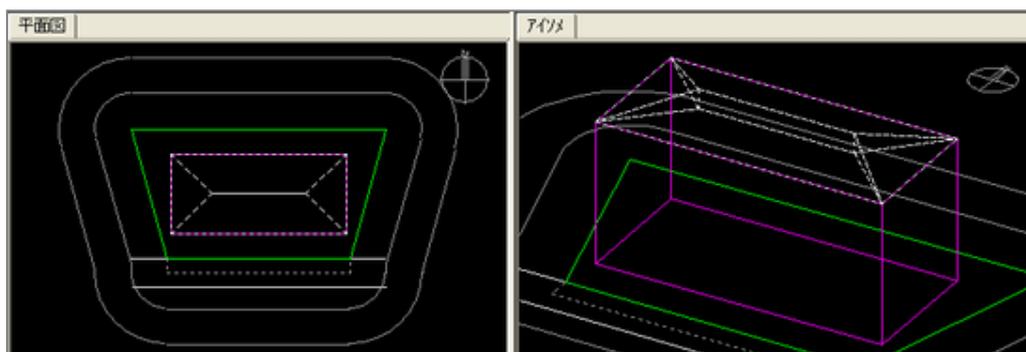
c	勾配の比率
d	勾配の比率

[建物編集/寄棟屋根]

- 既存ブロックの上面に寄棟根形状を作成します。
- 最終的な確定図形は、ブロック制限に沿って自動分割されます。

[操作手順]

- 1) 平面図又はプロパティ内リストで対象ブロックを選択します。
※選択されたブロックの上面にパラメータの形状が表示されます。
- 2) プロパティ内の各パラメータを設定し、“変換実行”で作成されます。
※変換実行を選択するまでは、対象ブロックの切り替えが可能です。



変換実行	勾配: 1/	<input type="text" value="2.300"/>	<input type="checkbox"/> 地面まで
地面からの高さ:		<input type="text" value="25.000"/>	m

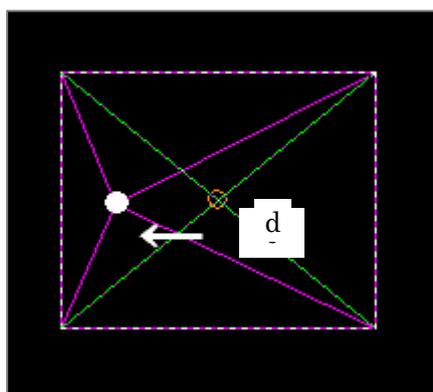
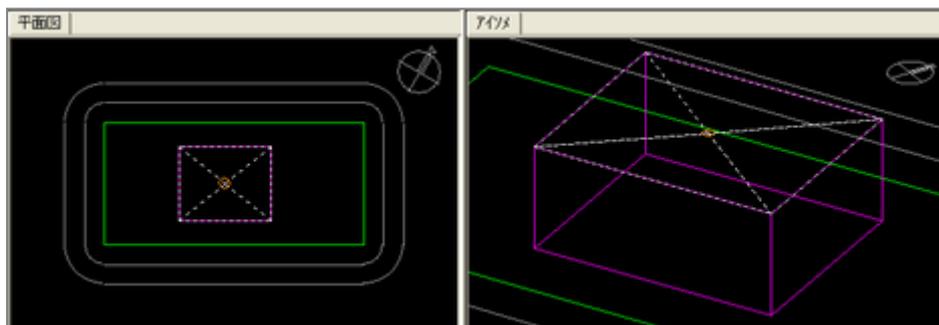
地面まで	確定(ブロック分解)後それぞれのブロックを地面まで作成
------	-----------------------------

[建物編集/方形屋根]

- 既存ブロックの上面に方形根形状を作成します。
- 最終的な確定図形は、ブロック制限に沿って自動分割されます。

[操作手順]

- 1) 平面図又はプロパティ内リストで対象ブロックを選択します。
※選択されたブロックの上面にパラメータの形状が表示されます。
- 2) プロパティ内の各パラメータを設定し、“変換実行”で作成されます。
※変換実行を選択するまでは、対象ブロックの切り替えが可能です。



※「平面図」ないでの“a”の点(図心)を選択すると、点を任意に移動できます
平面移動のみ対応可能です

↔
□
+

変換実行

中心X:

m

高さ:

m

地面まで

中心Y:

m

中心Z:

m

中心

中心 X	中心点の X 座標
中心 Y	中心点の Y 座標
中心 Z	作成する方形屋根の底辺の高さ
高さ	方形屋根の頂点までの高さ

地面まで	確定(ブロック分解)後 それぞれのブロックを地面まで作成
	ブロックの重心を、中心点に設定

[斜線逆日影/計算条件]

- 斜線逆日影計算を行うための計算条件の設定及び計算を行います。
- 複数の条件の定義及び計算を行うことができます。
- 計算後は等高線及びメッシュアイソメ等で確認できます。
 - 計算結果のボリュームを建物ブロックに変換することが可能です。

[操作手順]

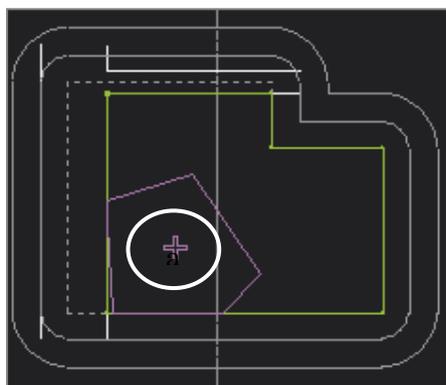
■新規に設定して計算する場合

- 1) “作成”ボタンを選択します。
 - ・プロパティ内のリストに新規の項目が作成されます。
- 2) “計算タイプ”を設定します。
 - ・計算する種類を設定します。

●計算タイプ

斜線	斜線計算のみを行います。
斜線+逆日影(低層)	斜線計算+逆日影計算を行います。 [低層] 計算範囲を全体的にカットします。
斜線+逆日影(高層)	・斜線計算+逆日影計算を行います。 [高層] 計算範囲の一部に高層範囲を設け、その範囲にボリュームを集中させたカットを行います。 ・このタイプが選択された場合は、平面図内に高層範囲が表示されます。デフォルトで表示されるエリアが日影規制をクリアする最大の範囲となりますが、変更したい場合は、
逆日影(低層)	逆日影計算の低層タイプの計算を行います。 [低層] 上記に同じ
逆日影(高層)	逆日影計算の高層タイプの計算を行います。 [高層] 上記に同じ

※高層位置の変更



・逆日影(高層)タイプが選択された場合は、面図内に高層範囲が表示されます。デフォルトで表示されるエリアが日影規制をクリアする最大の範囲となりますが、変更したい場合はしてからプロパティ内の“高層ポイント移動”コマンド移動させます。

- ① 予め対象ケースを選択
- ② “高層ポイント移動”コマンド(プロパティ内)を選択
- ③ 平面図内で十字マークを選択し、移動先を指定

3)その他の条件を必要に応じて設定します。

●メッシュ条件

ピッチ	<ul style="list-style-type: none"> ・斜線・逆日影計算に必要なメッシュのピッチを設定します。 ・敷地の大きさや、求める計算の精度によって数値を変更してください。 ・メッシュピッチが細かいほど精度が上がりますが、計算時間もかかります。 <p>※計算可能な最大メッシュ数は、1000×1000 メッシュです。</p>	
表示高	斜線・逆日影計算結果の表示(計算)最高高さを設定	
基準辺	・メッシュの方向を設定(最大道路境界線を選択するとメッシュアインメが見易くなります)	
	南北軸	方位を基準にしてメッシュを合わせます。
	敷地辺	任意の敷地境界線に対してメッシュを合わせます。
計算範囲	<ul style="list-style-type: none"> ・建物の敷地境界線からの後退による道路斜線および隣地斜線の緩和計算をするためのエリア(計算範囲)を設定します。 <p>※計算範囲は必ず1つ設定(初期値=後退なし) 計算範囲の初期値は敷地全体になっています 建物後退は、建物データが入力されている場合のみ有効</p>	
	後退無	敷地全体を計算範囲として計算、緩和計算なし
	辺後退	敷地境界線毎に、平行な後退距離を指定し計算範囲として計算
	建物後退	「建物編集」で作成した形状を計算範囲として計算
	エリア後退	図形編集で任意の形状を入力し、算範囲として計算 形状は、閉じた形状で2つまで入力が可能 ※2つの形状のうち、小さい方の形状を 20m および 31m を超えた場合の隣地斜線の緩和対象となる範囲として認識

●逆日影計算条件(計算タイプに逆日影が選択されている場合のみ設定可能)

計算ライン	逆日影計算をするラインを選択	
	内側	規制ラインの内側のみ計算
	外側	規制ラインの外側のみ計算
	内+外	規制ライン内側と外側を計算(デフォルト)
	内+外+分割線	規制ライン内側と外側、分割線上を計算
	内側+分割線	規制ラインの内側と分割線上を計算
	外側+分割線	規制ラインの外側と分割線上を計算

計算時間	<p>・逆日影計算をするときの計算対象時間を設定します。</p> <p>8時間 → 8:00～16:00 / 6時間 → 9:00～15:00</p> <p>※通常は8時間ですが、北海道などの一部地域で9:00～15:00までの6時間の場合があります</p>
高層ポイント	逆日影で「高層」が選択されている場合のセンターポイントの座標を表示します。
基本形面積	高層型センターポイントからなる基本形状の面積を自動計算し表示

4) 続けて別の設定を行う場合は、1)～3)を行います。

5) “計算”を選択します。

- ・2)及び3)で設定した条件で計算します。

■その他のコマンド

●削除

- ・計算済みケースを削除します。

●複写作成

- ・設定(計算)済みケースを複写します。

●建物に変換

- ・計算済みケースのボリュームを建物ブロックに変換します。

[斜線逆日影/断面図]

- 断面図を作成します。
- 断面図を表示する際に必要な断面線を作成します。
- 断面線の設定は、計算ケース毎に設定可能です。

[操作手順]

■既存の断面線を変更する場合

計算直後はケース毎にデフォルトで、南北軸の断面線が登録されています。

- 1) 作成する計算済みケースを選択します。
- 2) 各種設定を切り替えます。

●断面線の方向を変更する

- ・“基準”欄の“南北軸”を選択し、その他のタイプに切り替えます。
- ・“境界線(垂直)”又は“境界線(平行)”を選択します。

●断面線の位置を変更する

- ・変更したい断面線を平面図又はリストから選択後、プロパティ内の“辺移動”を選択し、平面図の断面線を左クリックで選択してから目的の場所に移動させます。

■新規に断面線を作成する場合

- 1) 作成する計算済みケースを選択します。
- 2) プロパティ内の“新規作成”を選択します。

[斜線逆日影/面積計画表]

- 斜線逆日影計算されたボリュームに対して、断面計画における面積表を表示します。
- 予め、断面計画(与条件設定)を設定しておく必要があります。

[操作手順]

- 1) 計算済みケースを選択します。
- 2) 断面計画番号を選択します。
※プロパティ内に各階の面積が表示されます。

[斜線逆日影/建物高チェック]

○入力された建物ブロックに対して斜線制限のチェックを行います。

[操作手順]

1) “計算”を選択します。

※斜線制限毎に、計算結果を平面図及びアイソメ図に表示します。

■ 自動調整

・斜線制限にクリアする高さに自動調整されます。

[斜線逆日影/建物後退距離]

○各敷地境界線における後退距離を表示します。

○建物の高さに関わらず、各境界線に対して斜線属性が対象となっているブロックの中の一番近いブロックの距離を表示します。

【日影計算/形状図】

○時刻日影図を計算します。

○計算終了後は、“置換/追加/破棄”の何れかの処理で確定させます。

- ・置換 → 既存結果と今回の計算結果を置き換えます。
- ・追加 → 既存結果に今回の計算結果を追加します。
- ・削除 → 今回の計算結果を破棄します。

○計算結果は、建物が編集されても残っていますので、建物及び条件を変更した場合は、必ず再計算を行ってください。

【操作手順】

1) 計算間隔等を確認(又は編集)します。

- ・任意の時間に対する計算を行う場合は、プロパティ内の一覧を編集してから計算を行います。
- ・その他、緯度経度等、現在の計算条件も確認してください。
- ・計算間隔以外の情報は、“与条件設定/日照条件”で変更します。

計算	削除
計算間隔:	0 時間 30 分
緯度:	36度00分00秒
経度:	139度45分00秒
太陽赤緯:	冬至[12月22日頃] -23度27分00秒
計算範囲:	8時00分~16時00分

2) “計算”を選択し、ダイアログボックスより“はい”を選択します

3) 計算終了後は、ダイアログボックスより“置換/追加/破棄”の何れかで計算結果の処理を行います。

- ・置換 → 既存結果と今回の計算結果を置き換えます。
- ・追加 → 既存結果に今回の計算結果を追加します。
- ・削除 → 今回の計算結果を破棄します。

※計算結果は、建物が編集されても残っていますので、建物及び条件を変更した場合は、必ず再計算を行ってください。

★計算を途中で止めたい場合。

計算中に計算を止めたい場合は、WINDOW 下段にある“中止”を選択します。



[日影計算/等時間図]

- 等時間日影図を計算します。
- 計算方法/ピッチを設定(確認)し、“計算”で計算させます。
- 計算終了後は、“置換/追加/破棄”の何れかの処理で確定させます。
 - ・置換 → 既存結果と今回の計算結果を置き換えます。
 - ・追加 → 既存結果に今回の計算結果を追加します。
 - ・削除 → 今回の計算結果を破棄します。
- 計算結果は、建物が編集されても残っていますので、建物及び条件を変更した場合は、必ず再計算を行ってください。
- 計算結果が厳しい場合は、ピッチを更に細かく設定して計算し直して確認してください。

自動検索計算(追跡法)
計算ピッチ: 0.500 m
計算間隔: 1 時間 0 分

■計算方法に関して

ADS の等時間日影計算は、“追跡法”と“メッシュ法”の 2 種類の計算方法があります。

追跡法	<p>計算する間隔(ピッチ)と精度により建物のポイント又は指定ライン上のポイントから次のポイントを検索して計算します。</p> <p>[自動検索計算]</p> <ul style="list-style-type: none">・規制時間の等時間線の開始点となる建物ポイントを自動的に探して追跡法による計算を行います。・ことを利用して入力された建物ブロックの各ポイントのうち各規制時間の開始点となるポイントを自動検索してそのポイントを起点に計算を開始します。・最初に開始点が検索できない場合は計算ができませんので、ピッチを細かくするか、別の計算方法で行ってください。 <p>[指定検索計算]</p> <ul style="list-style-type: none">・規制時間の等時間線が予測される線(指定線)を任意に指定しその線上の開始点となるポイントを検索して、その検索したポイントから次のポイントを追跡検索します。・このタイプを選択した場合は、予め平面図上に 2 点指定でラインを作成することで計算できます。この時のラインは、建物の重心から真北方向に向かって 10m ラインを超えた位置が目安となります。
メッシュ法	<p>範囲指定されたメッシュ内の交点全てについて等時間線を計算します。島日影の発見が容易で、部分的な計算や初期段階での試算に最適。</p> <p>このタイプを選択した場合は、予め平面図上に 2 点指定で計算する範囲を作成することで計算できます。</p> <p>[規制時間計算]</p> <ul style="list-style-type: none">・与条件設定/日影規制で設定された規制時間の計算を行います。 <p>[単位時間計算]</p> <ul style="list-style-type: none">・プロパティ右の時間に対する計算を行います。(任意編集可)

[操作手順]

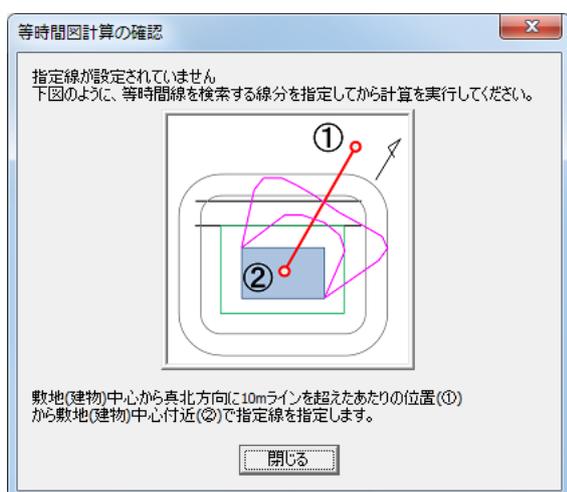
■自動検索計算(追跡法)の場合

- 1) 計算ピッチを設定(確認)します。
- 2) “計算”を選択します。
- 3) 計算終了後、“置換・追加・破棄”の何れかを選択します。

■指定検索計算(追跡法)の場合

- 1) 平面図上で、指定検索計算用のラインを2点指定します。
 - ・目安として敷地(建物)中心から真北方向に向かって10mラインを超えた付近の位置から敷地(建物)中心付近までの2点を指定してください。(下図参照)
- 2) 計算ピッチを設定します。
- 3) “計算”を選択します。
- 4) 計算終了後、“置換・追加・破棄”の何れかを選択します。

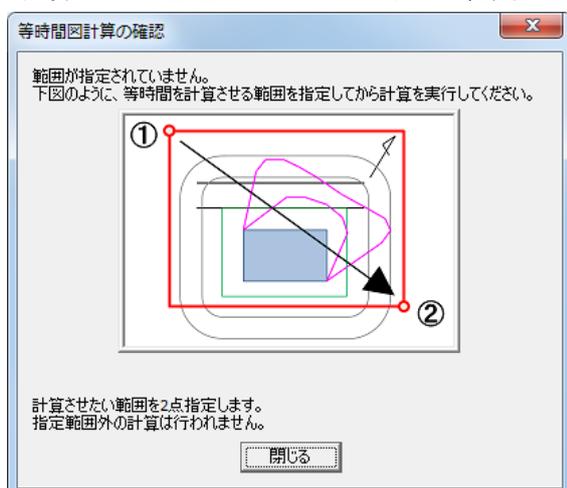
“計算”ボタンを選択した時点で指定線が選択されていない場合は、メッセージ DLG が表示されます。



■規制時間計算(メッシュ法)の場合

- 1) 平面図上で、メッシュ計算用の範囲を2点指定します。
 - ・ここで指定された範囲内にもみ計算結果が表示されます。
- 2) 計算ピッチを設定します。
- 3) “計算”を選択します。
- 4) 計算終了後、“置換・追加・破棄”の何れかを選択します。

“計算”ボタンを選択した時点でメッシュ範囲が選択されていない場合は、メッセージ DLG が表示されます。



※指定した範囲以外の計算は行われません。

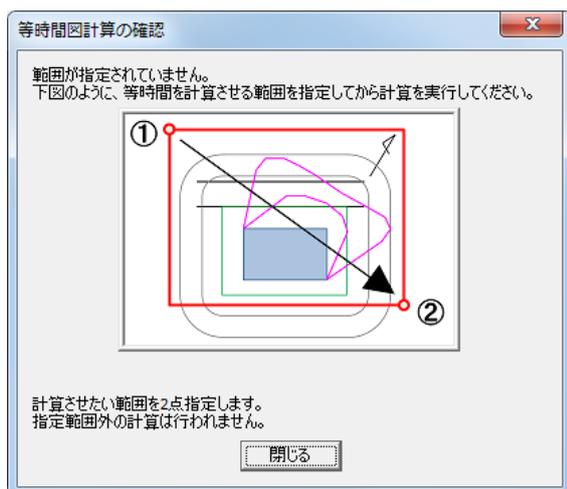
■単位時間計算(メッシュ法)の場合

- 1) 平面図上で、メッシュ計算用の範囲を2点指定します。
 - ・ここで指定された範囲内にもみ計算結果が表示されます。
- 2) 計算ピッチを設定します。
- 3) プロパティ内右側にある計算時刻を編集します。

No	時刻	
1	1:00	
2	2:00	
3	3:00	
4	4:00	
5	5:00	
6	6:00	
7	7:00	
8	8:00	

- 4) “計算”を選択します。
- 5) 計算終了後、“置換・追加・破棄”の何れかを選択します。

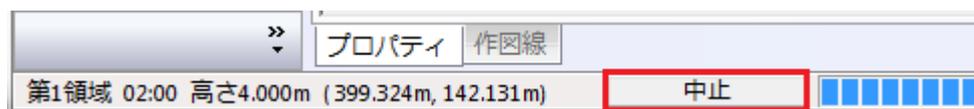
“計算”ボタンを選択した時点でメッシュ範囲が選択されていない場合は、メッセージ DLG が表示されます。



※指定した範囲以外の計算は行われません。

★計算を途中で止めたい場合

計算中に計算を止めたい場合は、WINDOW 下段にある“中止”を選択します。



[日影計算/規制ラインチェック]

- 日影規制ラインに対して、日影規制(時間)のチェックを行います。
- 計算結果は、設定された日影規制時間に対しての合否判定を色別で表示します。
- 平面図及びアイソメ図に表示された計算結果とポイントに対して日差し曲線図を表示させることができます。
- “計算”で結果が表示されます。
- “対象”を“特定点”にしておくと、登録済み特定点に対するチェックが可能です。

■計算対象

計算対象を切り替えます。

- 規制ライン
 - ・日影規制ライン上に対してチェックを行います。(デフォルト)
 - ・事前にピッチを設定しておきます。
 - ・規制ライン選択時は、“分割線”のチェックが可能です。
(日影規制分割線)
- 特定点
 - ・特定点で登録されたポイントに対してチェックを行います。
 - ・予め特定点を登録しておく必要があります。

■高さ曲線表示種別

高さ曲線の表示内容を切り替えます。

- 任意高 → 任意の高さを表示します。
高さは、切り替え時に表示される表に登録しておきます。
- 全階表示 → 断面計画で設定された階数を表示します。
- 影響建物 → 日影の影響を及ぼしている建物の高さを自動的に表示します。

[日影計算/特定点]

- 平面上の任意の位置に、日影の影響を把握するための特定点を設定します。
- 登録された特定点に対して、“日影時間/日照定規/天空図(全・半)”等を表示/計算することができます。

[操作手順]

■新規で特定点を設定する場合。

	ピッチ指定(2点)	予め“ピッチ”欄でピッチを決めておき、壁面上で2点指定を行うことで指定ピッチの特定点が壁面上に設定されます。
	ポイント数指定(2点)	予め“個数”欄で個数を決めておき、壁面上で2点指定を行うことで指定個数の特定点が壁面上に設定されます。
	個別指定	平面図上(壁面特定点の場合は壁面図上)でマウスの左クリックにより特定点が設定できます。
	規制ライン上(時計回り)	規制ライン上を時計回りで2点指定します。その2点間を“ピッチ”欄の値で配置します。
	規制ライン上(反時計回り)	規制ライン上を時計回りで2点指定します。その2点間を“ピッチ”欄の値で配置します。

[登録済みポイント]

	特定点選択	登録済みポイント(特定点)を平面図若しくはプロパティ内リストより選択します。
	建物選択	平面図又はアイソメ図上で建物ブロックを選択するモードです。天空図表示の際に可視化可能となります。
	特定点移動	選択された特定点を移動します。再度、選択済み特定点を選択し移動先を指定してください。 移動方法は、建物ブロックの“ブロック移動”と同じです。
	ブロック削除	選択された特定点を削除します。
最長点	最長点	「日影規制ライン」上にあり、かつ測定面高さが日影規制条件と同じ高さの「特定点」と「壁面」上に作成された「特定点」の中で一番日影時間が長い特定点を表示します
再計算	再計算	登録済みポイントを再計算します

[特定点リスト]

No	節季	月	日	度	分	秒	X	Y	Z	日影時間	8	10	12	14	16
1	冬至	12	22	-23	27	0	51.972	90.220	4.000	3:09:41.48					
2	冬至	12	22	-23	27	0	52.068	80.076	4.000	3:26:34.56					
3	冬至	12	22	-23	27	0	52.163	69.931	4.000	4:17:48.58					

○日影時間が確認できます。

○新規作成時は、与条件編集の日影規制(Z)及び日照条件(節季及び太陽赤緯)で設定されている値で登録されます

○登録済みポイントを選択すると日差し曲線図を表示させることができます。(表示されない場合は、表示項目設定で設定してください)

○登録済みポイント(特定点)は、“節季”～“Z”欄が任意に編集可能です。

- ・節季欄を“ユーザー”にすると“月日”～“秒”の任意編集が可能です。
- ・節季欄を“ユーザー”にした場合は、月日は無視され度分秒(太陽赤緯)が有効となりますので、節季を“ユーザー”にした場合は、必ず太陽赤緯(度分秒)を確認してください。

種類

日影時間

日照時間(日出-日入)

日照時間(開始-終了)

※“種類”で切替により日照時間の表示に切り替わります。

[日影計算/基準倍率表]

- 日影計算に伴う基準倍率表を表示します。
- 値の任意変更はできません。

[操作手順]

- 表示のための切り替えが可能です。

- ・時刻刻み → 1時間/30分/10分の何れかが選択可能
 - ・方位角単位 → 高度/倍率、10進法/60進法 の何れかが選択可能
- ※設定値は、印刷画面でも変更可能です。

時刻刻み:	1時間	時刻	方位角[度]	倍率	X	Y
方位角単位:	度分(60進法)	8:00	-53:20	7.2201	-5.7911	4.3120
	倍率	9:00	-42:41	3.2888	-2.2299	2.4174
緯度:	35度39分16秒	10:00	-30:10	2.2320	-1.1219	1.9296
経度:	139度44分41秒	11:00	-15:44	1.8128	-0.4916	1.7449
太陽赤緯:	冬至[12月22日頃]	12:00	0:00	1.6942	-0.0000	1.6942
	-23度27分00秒	13:00	15:44	1.8128	0.4916	1.7449
		14:00	30:10	2.2320	1.1219	1.9296
		15:00	42:41	3.2888	2.2299	2.4174
		16:00	53:20	7.2201	5.7911	4.3120

[日影計算/建物高倍率表]

- 日影計算に伴う建物の高さに基づいた倍率表を表示します。
- 値の任意変更はできません。

[操作手順]

○表示のための切り替えが可能です。

- ・時刻刻み → 1時間/30分/10分の何れかが選択可能
 - ・方位角単位 → 10進法/60進法 の何れかが選択可能
- ※設定値は、印刷画面でも変更可能です。

時刻刻み:	1時間	時刻	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00
方位角単位:	度分(60進法)	方位角	-53°20'	-42°41'	-30°10'	-15°44'	0°00'	15°44'	30°10'	42°41'	53°20'
緯度:	35度39分16秒	倍率	7.2201	3.2888	2.2320	1.8128	1.6942	1.8128	2.2320	3.2888	7.2201
経度:	139度44分41秒	測定面高	4.000								
太陽赤緯:	冬至[12月22日頃]	21.0000	151.6241	69.0665	46.8739	38.0704	35.5799	38.0704	46.8739	69.0665	151.6241
	-23度27分00秒										

[日影計算/壁面編集]

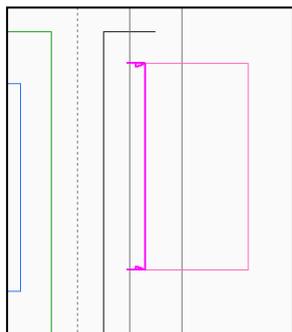
- 壁面(垂直面)日影計算を行うための壁面の設定を行います。
- 設定できる壁面は、建物ブロックの“日影”属性が“対象外”になっているブロックのみです。

プロパティ										
No	種類	上面	下面	Z	ZD	断面	斜線	日影	P	面積
1	建物	平面		25.000		無	✓	✓	6	299.00
2	建物	平面		20.000		無			4	193.47

[操作手順]

■新規に壁面を登録する場合

- 1) プロパティ内の“壁面作成”を選択します。 
- 2) 平面図内で対象となる壁面を選択します。
 - ・壁面が指定されると、選択した辺の色が変更されリストに登録されます。



・連続指定が可能です。

※建物編集にて対象壁面となるブロックの“日影”属性が対象外になっていない場合は、選択できません。

■登録済み壁面を削除する場合

- 1) プロパティ内のリスト又は平面図内で削除したい壁面を選択します。
- 2) プロパティ内の“ブロック削除”を選択します。
 - ・DEL キーでも削除できます。

[日影計算/壁面形状図]

- 壁面(垂直面)に投影される時刻日影を計算します。
- 壁面編集にて登録された壁面に対して計算が可能です。
- 登録壁面毎の日照時間帯が確認できます。
- 計算終了後は、“置換/追加/破棄”の何れかの処理で確定させます。
 - ・置換 → 既存結果と今回の計算結果を置き換えます。
 - ・追加 → 既存結果に今回の計算結果を追加します。
 - ・削除 → 今回の計算結果を破棄します。

○計算結果は、建物が編集されても残っていますので、建物及び条件を変更した場合は、必ず再計算を行ってください。

[操作手順]

- 1) 計算間隔等を確認(又は編集)します。
 - ・任意の時間に対する計算を行う場合は、プロパティ内の一覧を編集してから計算を行います。
 - ・その他、緯度経度等、現在の計算条件も確認してください。
 - ・計算間隔以外の情報は、“与条件設定/日照条件”で変更します。

計算	削除
計算間隔:	0 時間 30 分
緯度:	36度00分00秒
経度:	139度45分00秒
太陽赤緯:	冬至[12月22日頃] -23度27分00秒
計算範囲:	8時00分~16時00分

- 2) “計算”を選択し、ダイアログボックスより“はい”を選択します
- 3) 計算終了後は、ダイアログボックスより“置換/追加/破棄”の何れかで計算結果の処理を行います。
 - ・置換 → 既存結果と今回の計算結果を置き換えます。
 - ・追加 → 既存結果に今回の計算結果を追加します。
 - ・削除 → 今回の計算結果を破棄します。

※計算結果は、建物が編集されても残っていますので、建物及び条件を変更した場合は、必ず再計算を行ってください。

■計算結果の表示内容

	<p>[全面日影]</p> <p>・□で囲まれた時刻は、壁面全面がその時刻の影の影響を受けます。</p>
	<p>[日影無し]</p> <p>・取り消し線のある時刻は、その時刻は壁面に影の影響を受けません。</p>

■日照時間帯

○壁面編集で指定された壁面に対して、日差しを受ける時間帯が表示されます。
(表示時間外は自己日影となります)

No	日照時間帯	計算	
1	9:08:35.37-16:47:28.76	✓	
2	7:12:31.23-15:33:33.18	✓	

[日影計算/壁面等時間図]

- 壁面(垂直面)等時間日影図を計算します。
- 壁面編集にて登録された壁面に対して計算が可能です。
- 壁面等時間図は、メッシュ法で計算します。
- 計算方法/ピッチを設定(確認)し、“計算”で計算させます。
- 計算終了後は、“置換/追加/破棄”の何れかの処理で確定させます。
 - ・置換 → 既存結果と今回の計算結果を置き換えます。
 - ・追加 → 既存結果に今回の計算結果を追加します。
 - ・削除 → 今回の計算結果を破棄します。

○計算結果は、建物が編集されても残っていますので、建物及び条件を変更した場合は、必ず再計算を行ってください。

計算ピッチ:	1.000 m
計算間隔:	1 時間 0 分
緯度:	35度39分16秒
経度:	139度44分41秒
太陽赤緯:	冬至[12月22日頃]
	-23度27分00秒
計算範囲:	8時00分～16時00分
<input type="checkbox"/> 計算対象ブロックを表示	

[操作手順]

- 1) 計算ピッチ及び計算間隔を確認(又は設定)します。
- 2) “計算”を選択します。
- 3) 計算終了後、“置換・追加・破棄”の何れかを選択します。

■計算対象ブロックの表示

○“計算対象ブロックを表示”を選択すると、アイソメ図上で壁面

計算対象ブロックを表示

[日影計算/壁面特定点]

○壁面上に特定点を設定し、日影時間等の確認ができます。

[操作手順]

■新規で壁面特定点を設定する場合

1) 対象となる壁面を選択します。

No	日照時間帯	計算
1	9:08:35.37-16:47:28.76	✓
2	7:12:31.23-15:33:33.18	✓

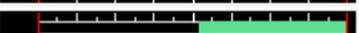
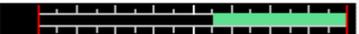
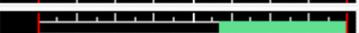
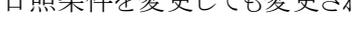
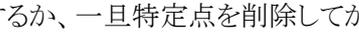
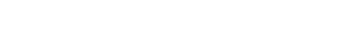
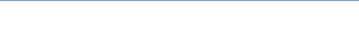
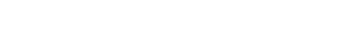
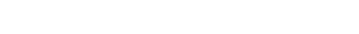
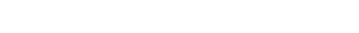
2) 特定点設定用コマンドで特定点を指定します。

	ピッチ指定(2点)	予め“ピッチ”欄でピッチを決めておき、壁面上で2点指定を行うことで指定ピッチの特定点が壁面上に設定されます。
	ポイント数指定(2点)	予め“個数”欄で個数を決めておき、壁面上で2点指定を行うことで指定個数の特定点が壁面上に設定されます。
	個別指定	壁面上でマウスの左クリックにより特定点が設定できます。

■計算結果の見方

○特定点が設定されるとプロパティ内に特定点の情報が表示されます。

○アイソメ図の表示項目設定内で、“日照定規”にチェックを入れると選択された特定点からの日照定規を表示させることができます。

種類														
<input checked="" type="radio"/> 日影時間 <input type="radio"/> 日照時間(日出-日入) <input type="radio"/> 日照時間(開始-終了)														
No	節季	月	日	度	分	秒	X	Y	日影時間	8	10	12	14	16
1	冬至	12	22	-23	27	0	5.259	5.811	4:19:10.32					
2	冬至	12	22	-23	27	0	6.045	6.428	4:14:02.78					
3	冬至	12	22	-23	27	0	6.832	7.045	4:08:35.41					
4	冬至	12	22	-23	27	0	7.619	7.662	4:02:46.41					
5	冬至	12	22	-23	27	0	8.406	8.279	3:58:33.77					
6	冬至	12	22	-23	27	0	9.193	8.896	3:49:55.28					
7	冬至	12	22	-23	27	0	9.980	9.514	3:42:48.47					
8	冬至	12	22	-23	27	0	10.766	10.131	3:35:10.62					
9	冬至	12	22	-23	27	0	11.553	10.748	3:26:58.69					
10	冬至	12	22	-23	27	0	12.340	11.365	3:18:09.35					
11	冬至	12	22	-23	27	0	13.127	11.982	3:08:38.94					

- ・節季～Yの欄は任意に変更が可能です。(変更と同時に再計算されます)
- ・一度登録された特定点は、個々に変更は可能ですが、与条件設定/日照条件を変更しても変更されません。
- ・与条件設定/日照条件の情報を反映させたい場合は、個別に変更するか、一旦特定点を削除してから再度設定してください。

■特定点設定後に建物の編集を行った場合

○特定点設定後に建物の編集を行った場合は、必ず“再計算”を選択してください。

（建物を編集しても特定点の日影時間は自動計算されません）

[天空率解析/簡易設定]

○天空率計算を行うための各種設定を行います。

※Ver9.2 までは“計算条件”のメニューとなっていました。

○ADS の天空率解析で生成された領域及び領域内条件の一覧を確認することができます。

○各敷地境界線に対する情報と、その敷地境界線に属する領域の情報を一覧表示しています。

○現在、天空率の取扱いとして大別される「東京方式/JCBA」方式を専用パラメータを利用して自動生成します。

○ここで生成された領域と実際の取扱いが異なる場合は、“計算条件(旧)/領域条件/グループ”で領域単位に設定しなおします。

○ここで自動処理された適合建築物及び測定ラインの端部の処理等は、領域によっては異なるケースがありますので、各領域の生成結果を必ず確認してください。

※Ver8 までのユーザー様へ

・Ver8 までの「計算条件/領域条件/領域リスト/グループ」を一覧にまとめたリストとなっていて、各項目の設定が可能です。(一部不可)

・ここでの自動処理は、Ver8 までの「計算条件/領域条件/領域リスト/グループ」の設定を自動的に行うものですが、完全に取扱いに適合する処理にならないケースもありますので、その際は「計算条件(旧)/領域条件/領域リスト/グループ」でそれぞれ編集してください。

道路		<input checked="" type="checkbox"/> 境界線条件	<input checked="" type="checkbox"/> 領域条件	初期化	更新	2A処理	条件編集	北側斜線							
境界線	領域	基本処理			適合始点処理			適合終点処理			測定点始点処理		測定点終点処理		
No	No	入隅始点	入隅終点	基本	始点	距離	カット法	終点	距離	カット法	始点	距離	終点	距離	総延
1		延長	延長	基本	境界線	0.000	カットしない	境界線	0.000	カットしない	適合	0.000	適合	0.000	✓
	1			基本	境界線	0.000	カットしない	境界線	0.000	カットしない	適合	0.000	適合	0.000	✓
	2			基本	境界線	0.000	カットしない	境界線	0.000	カットしない	適合	0.000	適合	0.000	✓
4		延長	延長	基本	境界線	0.000	カットしない	境界線	0.000	カットしない	適合	0.000	適合	0.000	✓
	3			基本	境界線	0.000	カットしない	境界線	0.000	カットしない	適合	0.000	適合	0.000	✓

■境界線条件/領域条件

■横軸の色表示に関して

■初期化

■更新

■2A 処理

■2A 処理

■令 132 条・134 条 2 項処理(道路斜線の場合)

[\[敷地単位区域分け優先\]](#)

[\[境界線単位区域分け優先\]](#)

[\[同一幅員で区域分けをする\]](#)

○設定(チェック)が必要なケース

■東京方式/JCBA 方式

■条件編集

■北側斜線

■境界線条件/領域条件

○表示させたい項目をチェックします。

- ・境界線条件 → 各敷地境界線に対する情報で、青色の背景色の欄となります。
- ・領域条件 → ADS で認識している領域の情報で、白色の背景色の欄となります。

※各敷地境界線に対する情報と、その敷地境界線に属する領域の情報を一覧表示しています。

■横軸の色表示に関して

○青色の背景色の欄

- ・敷地境界線に対する情報欄です。

○白色の背景色の欄

- ・各領域の情報欄です。
- ・上部の敷地境界線に対して属している領域となります。

■初期化

○領域情報を初期化します。(全斜線制限の情報を初期化します)

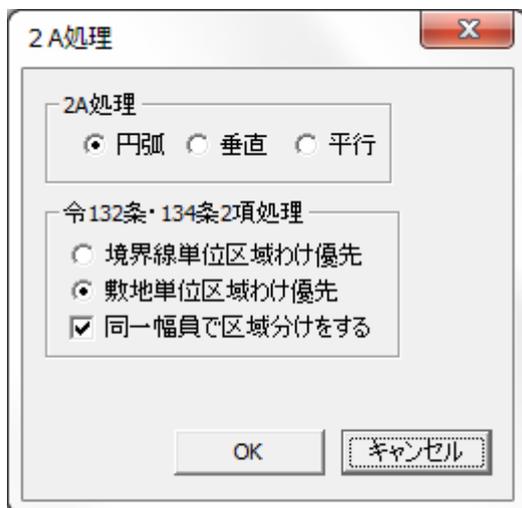
■更新

○“条件編集”で設定された内容で自動生成します。

○予め、リストから“東京方式又は JCBA 方式”の何れかを選択しておきます。

■2A 処理

○各処理方法を設定します。



■2A 処理



2A の回り込み処理の設定を行います。

“与条件設定/道路・交差点”設定画面において設定された交差点状況に応じて設定可能となります。

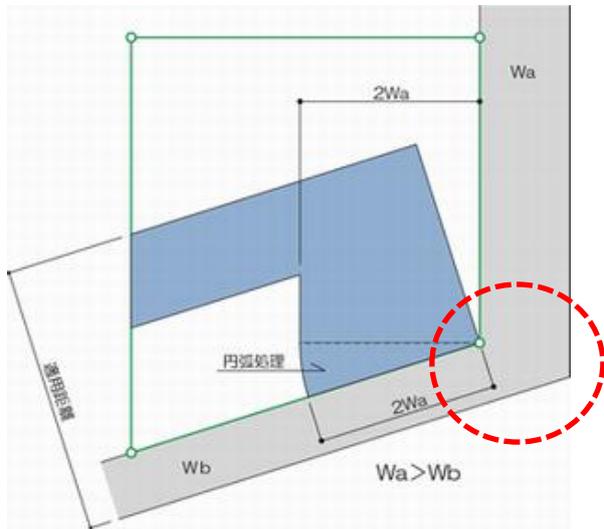
(ADS-win では、敷地点を中心とした円弧処理がデフォルトとなっています)

A

デフォルト

2A処理

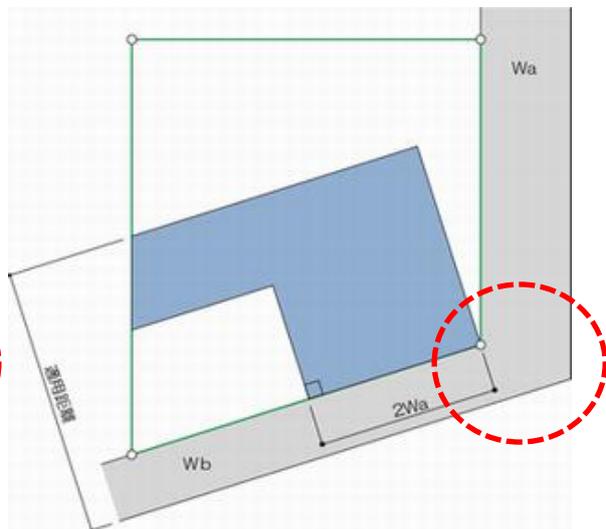
円弧 垂直 平行



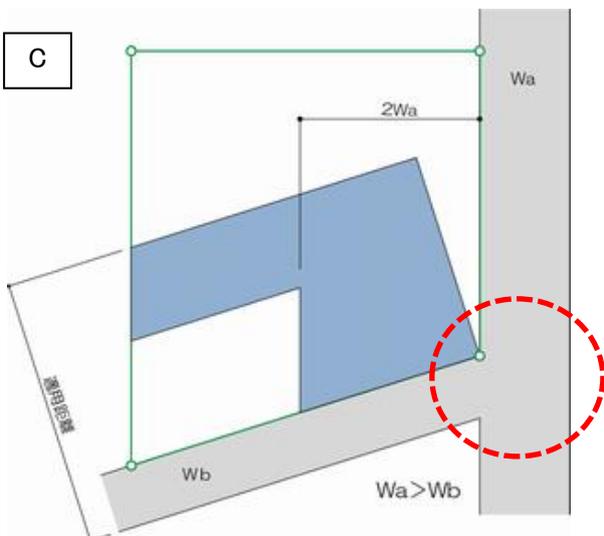
B

2A処理

円弧 垂直 平行



C



2A処理

円弧 垂直 平行

交差点設定が左下の状態になっている場合に、“平行”が有効となります。

※「A」及び「C」のケースが多いようです。当該領域で計算結果が厳しい場合は、設定如何で合否に関係してくることもありますので、審査機関等へ事前に確認することをお勧めします。

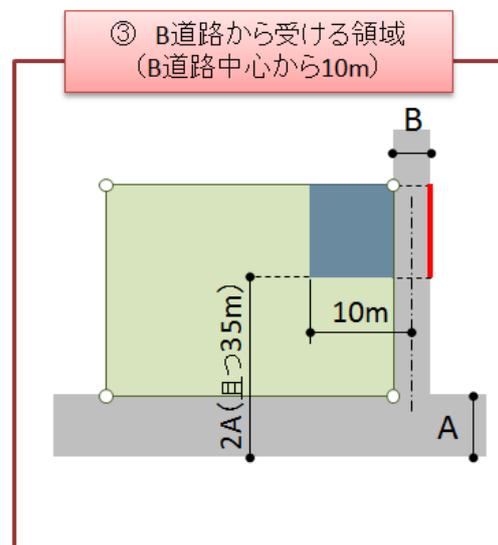
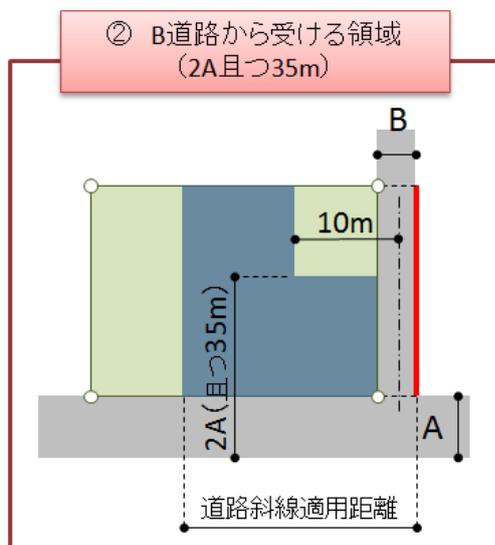
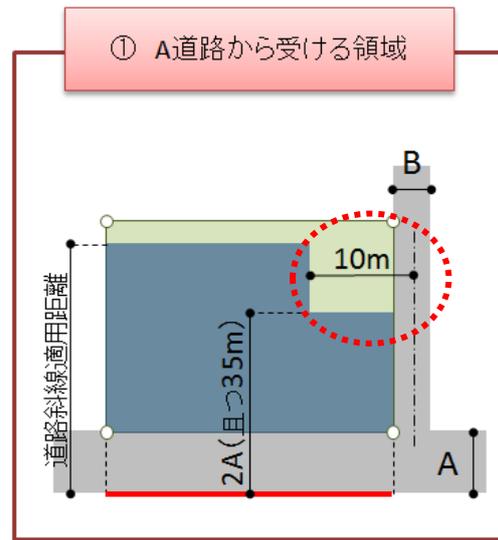
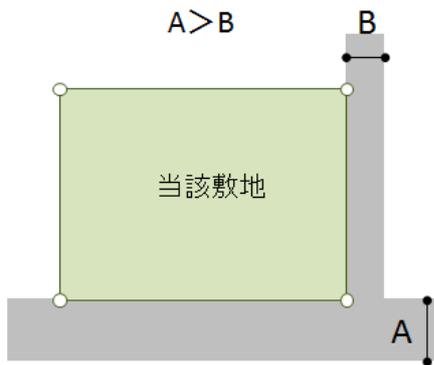
■ 令 132 条・134 条 2 項処理 (道路斜線の場合) [<戻る>](#)

令132条・134条2項処理

境界線単位区域わけ優先 敷地単位区域わけ優先 同一幅員で区域分けをする

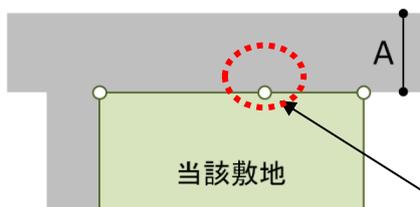
[敷地単位区域分け優先] (斜線制限範囲区分毎) [<戻る>](#)

・当該敷地全体に対して、各道路境界線のから区分を判断し、各道路境界線単位に領域として作成します。
(デフォルトはこの設定となります)



■ 適合建築物 — 天空率算定基準ライン

※上図(デフォルト)の“敷地単位区域分け優先”の設定で判断(審査)されることが多いようです。次ページの“境界線単位区域分け優先”とは、A 道路から受ける領域の B 道路側の区域の取り方(上図①の破線の円弧部分)が異なります。



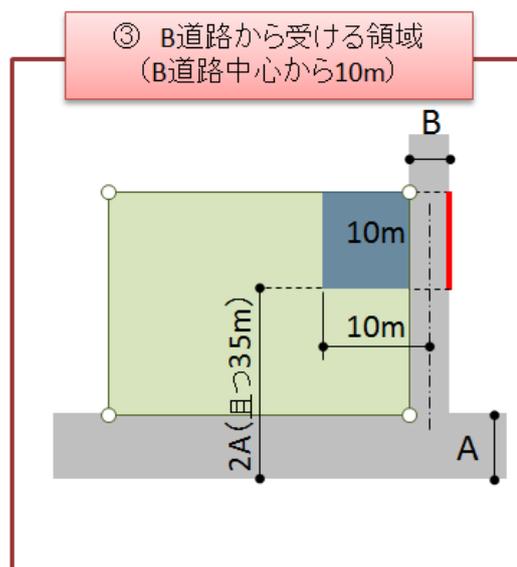
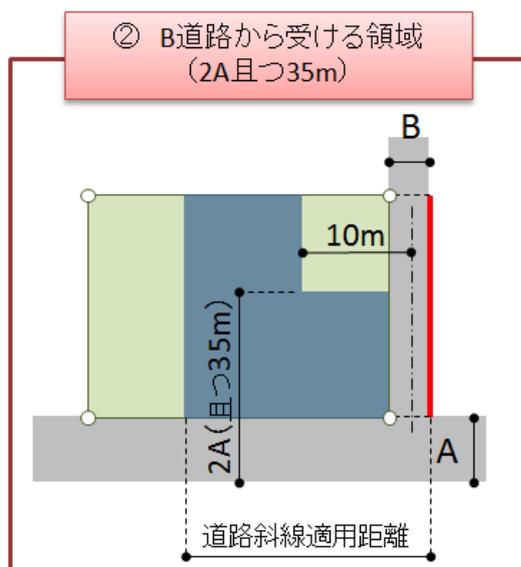
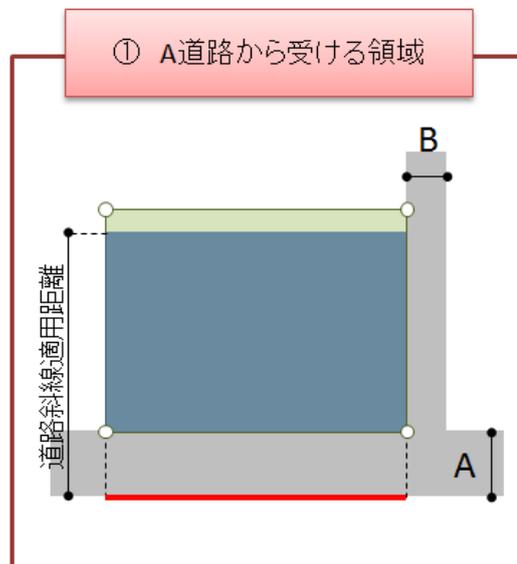
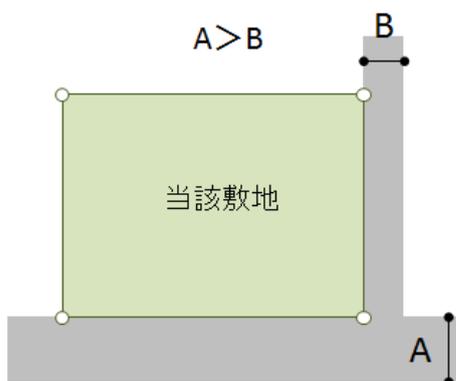
道路境界線内に道路境界のポイントが存在する場合は“同一幅員で区域分けをする”もチェックを入れてください。(適宜“グループ”設定を行う必要があります)

[境界線単位区域分け優先]

・各道路境界線単位で区分を判断し、領域として自動作成します。

令132条・134条2項処理

- 境界線単位区域わけ優先 敷地単位区域わけ優先 同一幅員で区域分けをする



適合建築物 天空率算定基準ライン

[同一幅員で区域分けをする]

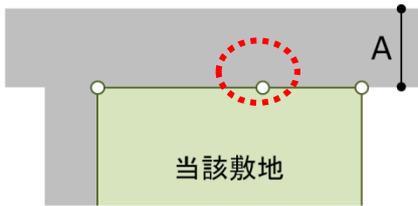
この項目は、“敷地単位区域分け優先”の選択時のみチェックが可能となります。

令132条・134条2項処理

- 境界線単位区域わけ優先 敷地単位区域わけ優先 同一幅員で区域分けをする

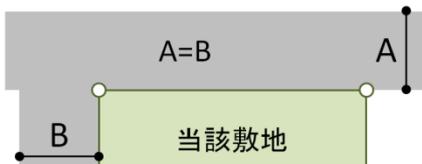
○設定(チェック)が必要なケース

- ・一方の道路境界線上に敷地境界点が存在する場合



道路境界線内に道路境界のポイントが存在する場合は“**同一幅員で区域分けをする**”もチェックを入れてください。(適宜“グループ”設定を行う必要があります)

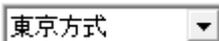
- ・接道している幅員が同じ場合



接道している道路幅員が同じ場合は“**同一幅員で区域分けをする**”もチェックを入れてください。

■東京方式/JCBA方式

- 自動処理を行うタイプを選択します。



※必ずどちらかを選択してから“更新”を選択してください。

■条件編集

- 自動生成する際の条件を設定します。
- リストボックス(左隣)で項目が選択されている場合に選択可能です。
- 予め選択されている“～方式”に対する設定となります。
- “OK”を選択すると、その情報が予め選択されている“～方式”の設定値として保存されます。
- 設定変更した場合は、必ず“更新”を選択してください。

○入隅判定角度

- ・自動で入隅判定する際の敷地内角の角度を指定します。

○グループ判定角度

- ・自動でグループ化する際の、敷地内角の角度を指定します。

○入隅でグループ分けをする

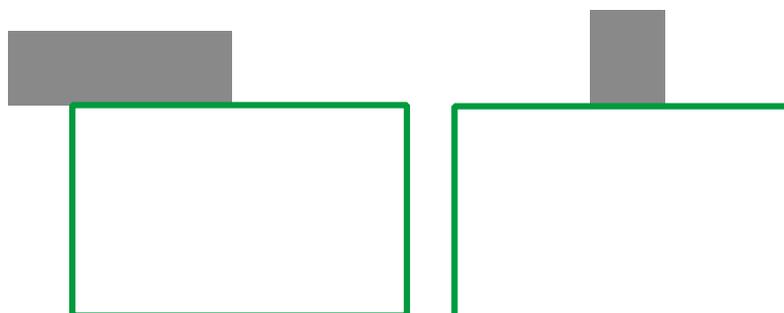
- ・入隅部分でグループ分けを行う場合はチェックします。

○端部処理

- ・道路の接道状況に対する適合建築物及び測定ラインの端部処理方法を設定します。

[接道道路:行き止り]

道路の接道タイプが以下のケースの場合



[接道道路:延長]

道路の接道タイプが以下のケースの場合



○適合端部処理

垂直	境界線に対して垂直な位置までとします
延長平行	敷地が鈍角の場合、同一勾配で平行に延長します
延長播鉢	敷地が鈍角の場合、敷地境界ポイントから播鉢状に延長します
放射	放射タイプの設定をします

1/2 カット	延長及び放射設定がされている際、最大を敷地内角の 1/2 でカットします
カット無	特にカットはしません

○測定ライン端部処理

適合	適合建築物に合わせます
敷地境界線	敷地境界線に合わせます
適合と敷地境界線の外	適合建築物と敷地境界線の何れかで外側に合わせます。

【条件編集の考え方について】

従来(Ver8)までは、基本的な区分(領域)を自動処理した上で、取扱い等に伴う調整を、“領域条件/グループ”等で行っていました。今回、新たに搭載された“計算条件”では、これらの個別のパラメータ設定を一括で行うことを目的としています。

入隅判定・グループ判定及び各斜線制限において敷地境界線の状態毎にどのように処理をさせるかを定義させ一括処理を行います。

しかし、様々な取扱い等が存在するために、この“条件編集”内では、処理しきれないケースもありますので、条件編集設定後は必ず“更新”を選択し、各領域の適合建築物及び測定ラインの確認を行ってください。

取扱いと異なる処理がされた場合は、

- 簡易設定の一覧表内で個別変更 → “更新”
- 境界条件、領域条件、グループ による個別設定の何れかで編集を行ってください。

■北側斜線

- 北側斜線の領域を生成する場合に選択します。
- ボタンを選択しただけでは変化はありません。

[手順]

- 1) “北側斜線”を選択
- 2) “更新”を選択

上記の作業が終了したら、“領域リスト”で状況を確認してください。

[天空率解析/境界条件]

○敷地境界線毎の天空率解析に関する条件を設定します。

※Ver9.2 まででは“計算条件(旧)”のメニューとなっていました。

※Ver8 の“計算条件”と同等の設定内容となります。

■初期化

■更新

■2A 処理

■令 132 条・134 条 2 項処理(道路斜線の場合)

[敷地単位区域分け優先]

[境界線単位区域分け優先]

[同一幅員で区域分けをする]

○設定(チェック)が必要なケース

■隅切処理

■挿鉢(始点/終点)

■建物後退

■前面計画建築物

初期化	更新	2A処理		令132条・134条2項処理				
道路境界線		<input type="radio"/> 円弧 <input checked="" type="radio"/> 垂直 <input type="radio"/> 平行		<input type="radio"/> 境界線単位区域分け優先 <input checked="" type="radio"/> 敷地単位区域分け優先 <input checked="" type="checkbox"/> 同一幅員で区域分けをする				
番号	道路計算	北側計算	挿鉢(始点)	挿鉢(終点)	建物後退	建物後退距離	前面計画建築物	
4	✓	✓			考慮する。距離自動設定	2.606	✓	
5	✓	✓			考慮する。距離自動設定	1.706	✓	

■初期化

○情報を初期化します。

■更新

○プロパティ内の変更内容に対して更新します。

※各項目を変更しても、“更新”を選択しないと反映されません。

■2A 処理

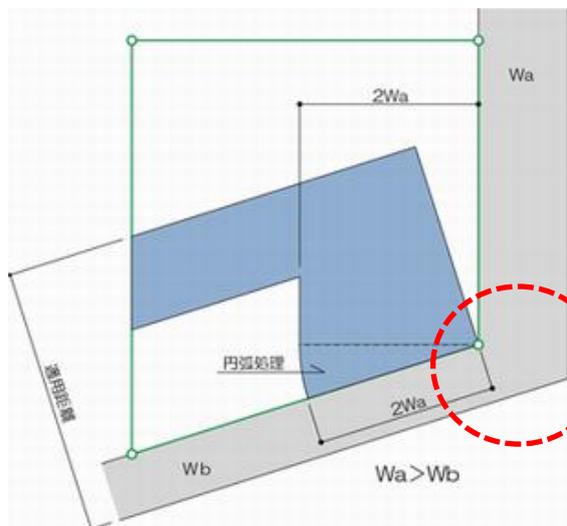
2A処理
 円弧 垂直 平行

2A の回り込み処理の設定を行います。

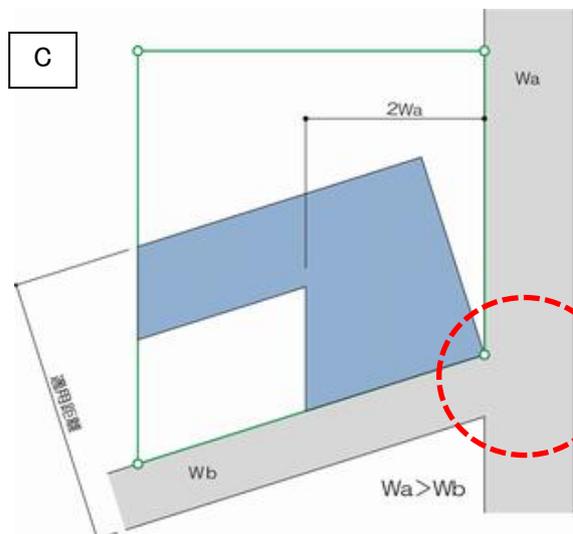
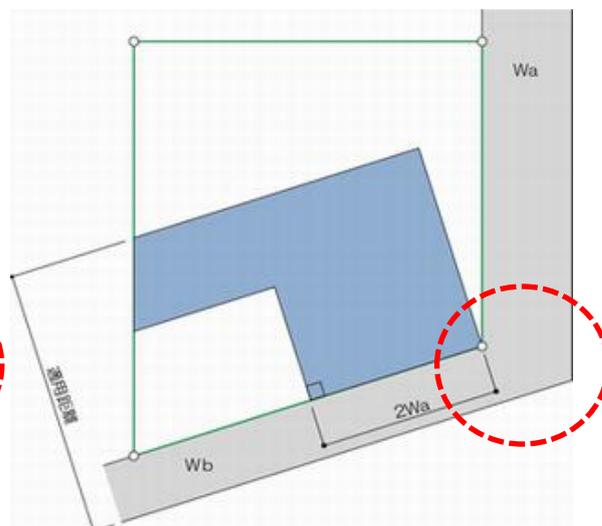
“与条件設定/道路・交差点”設定画面において設定された交差点状況に応じて設定可能となります。

(ADS-win では、敷地点を中心とした円弧処理がデフォルトとなっています)

A
 デフォルト
 2A処理
 円弧 垂直 平行



B
 2A処理
 円弧 垂直 平行



2A処理
 円弧 垂直 平行

交差点設定が左下の状態になっている場合に、“平行”が有効となります。

※「A」及び「C」のケースが多いようです。当該領域で計算結果が厳しい場合は、設定如何で合否に関係してくることもありますので、審査機関等へ事前に確認することをお勧めします。

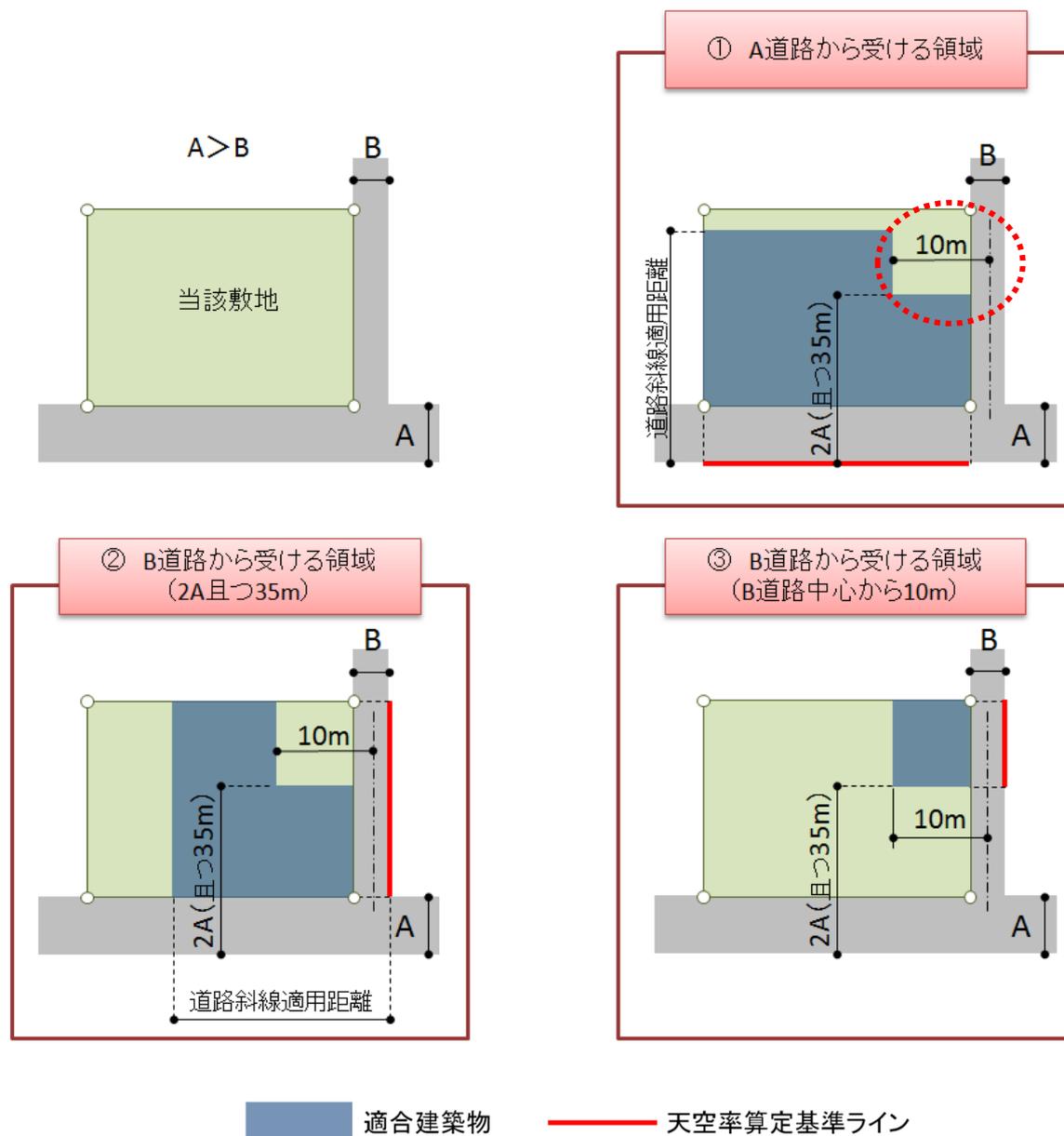
■ 令 132 条・134 条 2 項処理 (道路斜線の場合)

令132条・134条2項処理

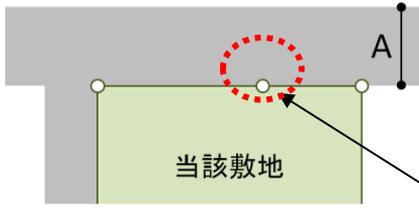
- 境界線単位区域分け優先
 敷地単位区域分け優先
 同一幅員で区域分けをする

[敷地単位区域分け優先] (斜線制限範囲区分毎)

・当該敷地全体に対して、各道路境界線のから区分を判断し、各道路境界線単位に領域として作成します。
(デフォルトはこの設定となります)



※上図(デフォルト)の“敷地単位区域分け優先”の設定で判断(審査)されることが多いようです。
次ページの“境界線単位区域分け優先”とは、A 道路から受ける領域の B 道路側の区域の取り方
(上図①の破線の円弧部分)が異なってきます。



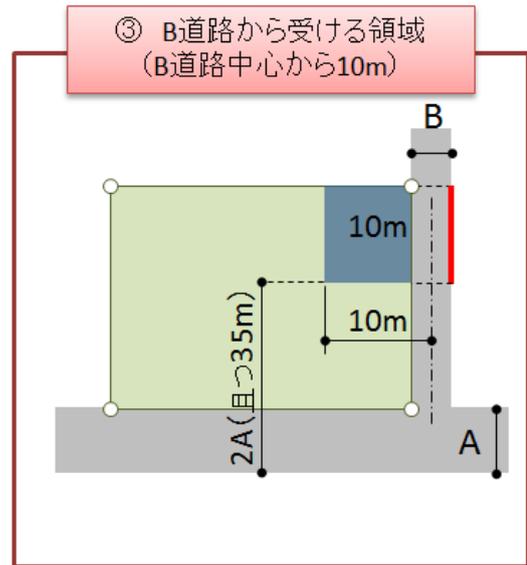
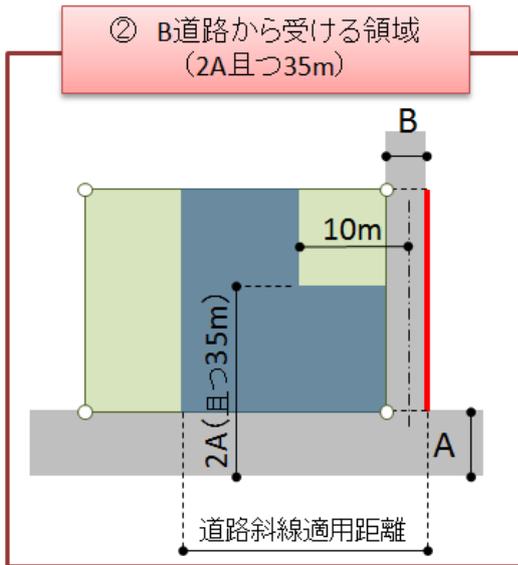
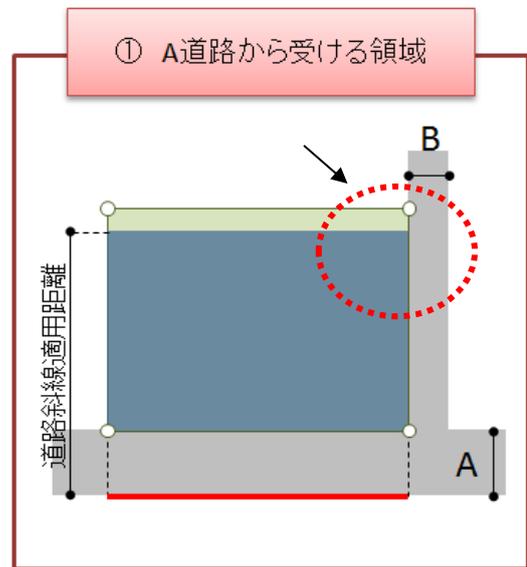
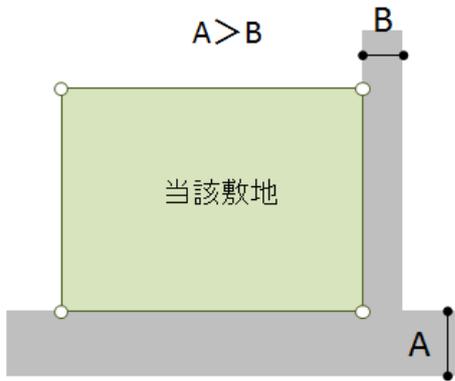
道路境界線内に道路境界のポイントが存在する場合は
 “同一幅員で区域分けをする”もチェックを入れてください。
 (適宜“グループ”設定を行う必要があります)

[境界線単位区域分け優先]

・各道路境界線単位で区分を判断し、領域として自動作成します。

令132条・134条2項処理

境界線単位区域分け優先
 敷地単位区域分け優先
 同一幅員で区域分けをする



適合建築物
 天空率算定基準ライン

[同一幅員で区域分けをする]

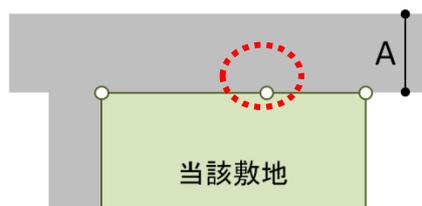
この項目は、“敷地単位区域分け優先”の選択時のみチェックが可能となります。

令132条・134条2項処理

境界線単位区域わけ優先 敷地単位区域わけ優先 同一幅員で区域分けをする

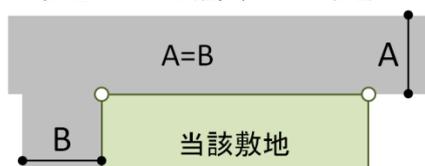
○設定(チェック)が必要なケース

- ・一方方向の道路境界線上に敷地境界点が存在する場合



道路境界線内に道路境界のポイントが存在する場合は“同一幅員で区域分けをする”もチェックを入れてください。
(適宜“グループ”設定を行う必要があります)

- ・接道している幅員が同じ場合



接道している道路幅員が同じ場合は“同一幅員で区域分けをする”もチェックを入れてください。

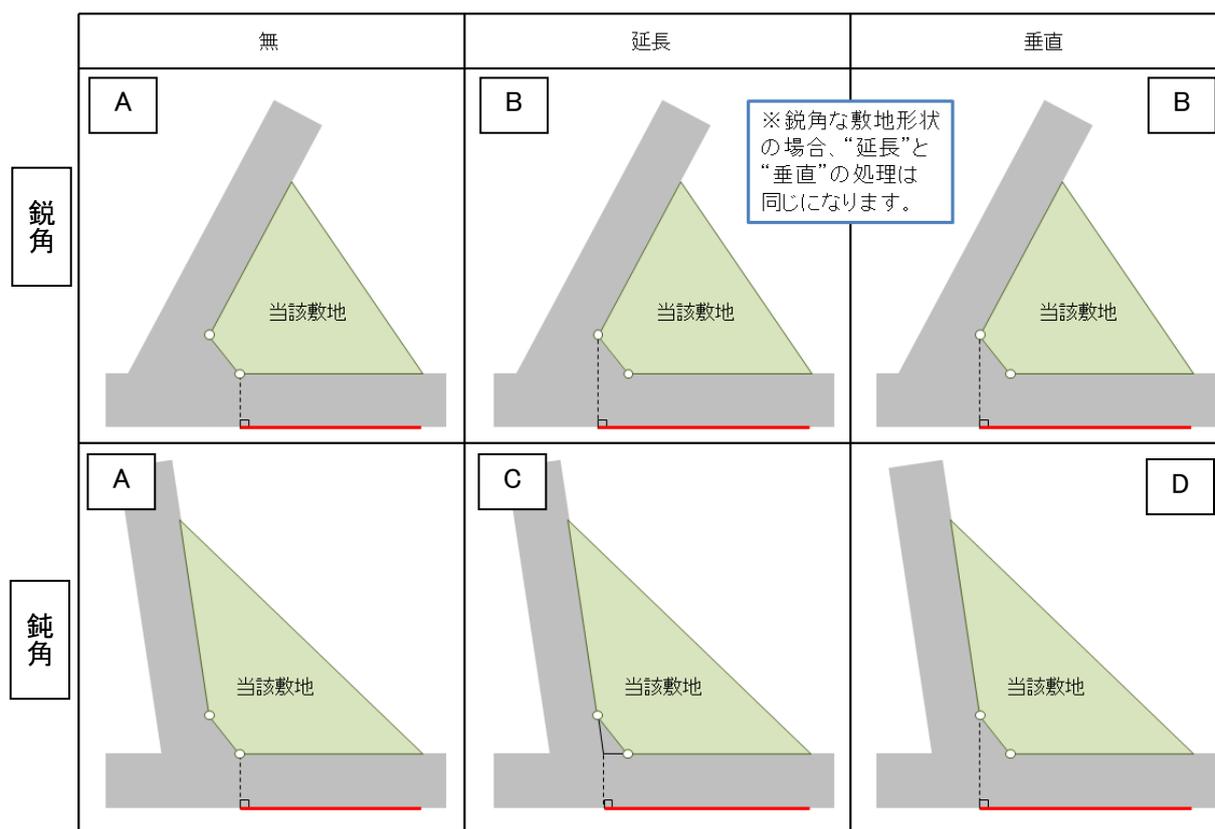
■ 隅切処理

・“与条件設定/境界線条件”設定画面にて、“隅切辺”の設定がある場合、隅切り部分の測定点の処理方法を設定します。

・プロパティ内で“隅切”に切り替えておく必要があります。



無	隅切り辺は一切考慮されません
延長	挟み込むそれぞれの道路境界線を延長した点を基点として適合建築物を生成 (デフォルトは、この設定)
垂直	計算対象とは別の道路境界の隅切り端点から、計算対象となる道路境界線に垂直に降ろした点を基点として適合建築物を生成



※適合建築物の範囲が、JCBA 等のように上図のような天空率算定基準ラインと異なる場合は、この限りではありません。

※東京方式の場合は、通常「B」又は「C」での審査となります。

■ 挿鉢(始点/終点)

- ・当該境界線に対して両側(始点及び終点)を延長させる際に、挿鉢状に生成する場合はチェックします。
- ・始点及び終点それぞれ指定が可能です。(始点→敷地境界線を反時計回りで見た際の手前の点)

挿鉢(始点)	挿鉢(終点)
✓	
	✓

■ 建物後退

- ・後退距離の判定方法を設定します。

建物後退	建物後退距離	前面計画建築物
考慮する。距離自動設定	7.191	✓
考慮する。距離自動設定	2.606	✓
考慮する。距離自動設定	1.706	✓

考慮しない	後退距離を考慮しません。※“後退無”で処理を行います。
考慮する/距離自動判定	・システムが自動判定した後退距離で適合建築物を生成します。
考慮する/距離手動設定	・後退距離の任意設定が可能です。

■ 前面計画建築物

- ・後退距離を任意設定する際に、その手前にある建築物も計画建築物として生成する場合はチェックします。

※ADS では、後退距離を自動判定する際、建物の高さに依存することなく、全建物ブロック(斜線属性対象)の中で、各境界線が一番近いブロックに対しての距離を判定します。
従来の後退距離に参入しなくても良い建物ブロック等が入っている場合は、後退距離を任意設定の上、この項目をチェックしておきます。

[天空率解析/領域リスト]

- 各斜線制限単位の領域をリストで表示します。
- 任意の領域を作成することができます。
- 任意に作成された領域は、自動生成された領域番号の後ろの番号として追加されます。
- 領域情報を初期化します。
- 天空率解析に入った場合は、ここで領域数等も含めて確認してください。

No	境界	種別	基本	グループ	適合処理	測定点処理	道路幅員	ピッチ	用途/容積率	後退距離	適用距離	地盤高
1	1	自動	基本		境界線-境界線	適合-適合		5.409m	商業/80/400	0.742m		0.000m
2	2	自動	基本		境界線-境界線	適合-適合		3.799m	商業/80/400	0.774m		0.000m
3	3	自動	基本		境界線-境界線	適合-適合		5.205m	商業/80/400	0.857m		0.000m
4	4	自動	基本		境界線-境界線	適合-適合		3.855m	商業/80/400	1.007m		0.000m

[注意事項について]

- ・ADS-win は、基本的に各種コマンド及びパラメータの切替えを行いながら適合及び計画建築物を自動生成しますが、行政指導等により ADS-win の自動生成では処理しきれない場合に、このコマンドを利用します
- ・“領域作成”は、あくまでの領域番号として認識するだけで、各建築物および測定ポイントは、任意に作成する必要があります。

■領域作成

- ・領域を任意に作成します。
- ・作成された領域は、“種類”欄が“任意”になります。
- ・作成後は、適合建築物を任意に作成等行ってください。

■領域複写

- ・現在選択されている領域を複写します。
- ・複写された領域は、“種類”欄が“任意”になります。

■領域削除

- ・“種類”欄が“任意”になっている領域を削除します。

■削除

- ・領域全体を削除します。
- ・“再計算”をチェックしておくと、斜線制限内の全領域を再作成します。
(新規に建物編集から入ってきた状態に同じ)



[天空率解析/領域条件]

- 各領域における適合建築物及び測定点の生成方法を設定します。
- 自動生成された領域に対して、個別のパラメータによる編集となります。
- 審査機関毎(場合によっては物件毎)に取扱が異なるケースがありますので審査機関の指導内容に合わせて設定して下さい。

■基本画面

■基本処理

○基本

○放射

■[適合]端点処理

■[測定点]端点処理

■測定点番号表示

■領域条件のパターン

■端点処理任意設定

■路地上敷地の場合

■入隅部分 1/2 判定

■入隅措置 2

■基本画面

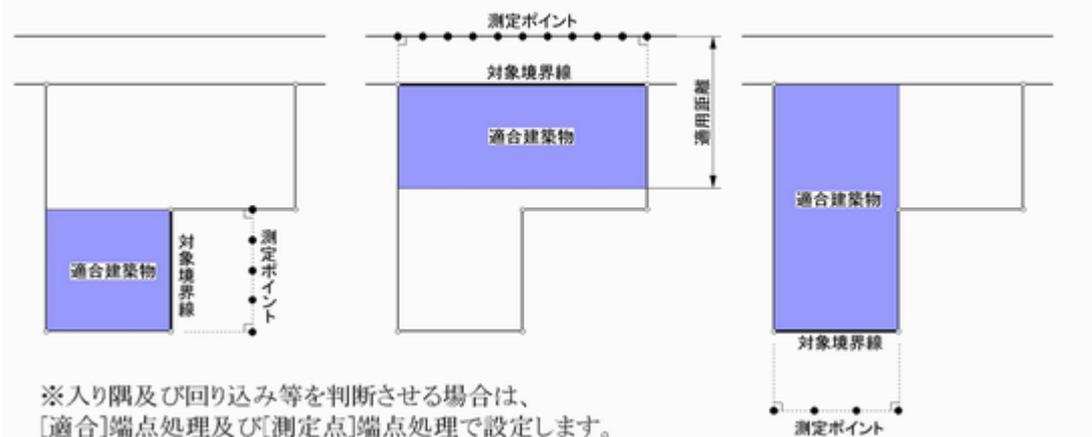
The screenshot displays a software interface with three main panels. The left panel, titled '[基本処理]', contains radio buttons for '基本' (selected) and '放射', a checked checkbox for '測定点番号表示', and a note '※始点終点は反時計回り'. The middle panel, titled '[適合]端点処理', has two columns for '始点' and '終点'. Each column includes a dropdown menu set to '境界線', a text input field with '0.000 m', and another dropdown menu set to 'カットしない'. The right panel, titled '[測定点]端点処理', also has two columns for '始点' and '終点'. Each column includes a dropdown menu set to '適合', a text input field with '0.000 m', and a checked checkbox for '総延長'.

■基本処理

○基本

- ・領域毎の対象測定点(対象境界線)全てに対して、固定範囲の適合建築物を生成します
- ・“基本”に設定した場合、[適合]端点処理、[測定点]端点処理の全ての変更が可能です

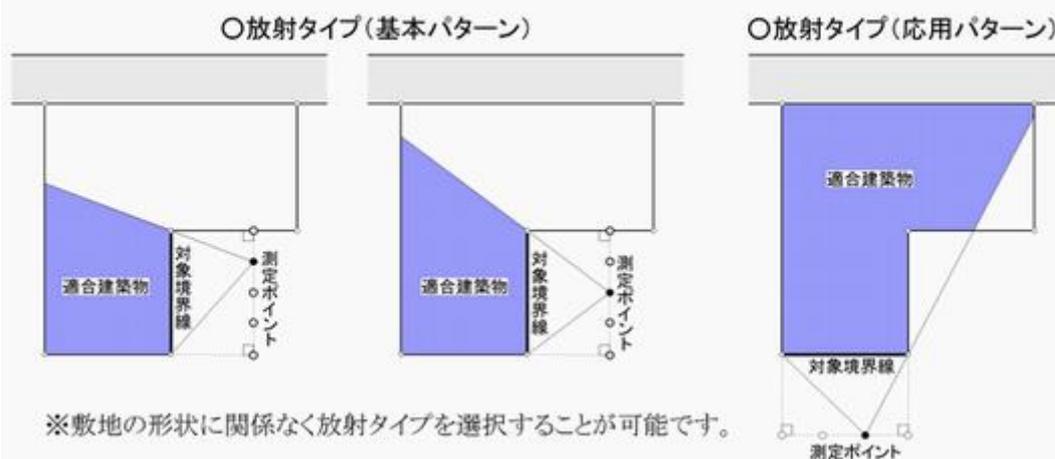
■基本タイプ 各測定点毎の領域が固定となります。境界線端点毎に適合及び測定点の設定が可能



○放射

- ・各測定ポイントから境界線端点を結んだ延長線上の範囲内を適合建築物範囲として生成します。
- ・東京方式の入隅の場合は、原則としてこちらを選択します。

■放射タイプ 測定点毎に適合建築物の形状が異なる (東京都審査基準の“入り隅”に準拠)



■[適合]端点処理

- ・適合建築物を境界線端点毎に、境界線を基準として生成方法を設定します。

境界線	境界線端点から境界線に対して垂直に適合建築物を生成
延長	敷地内角が鈍角(90 度を超える)の場合に、適合建築物を外側に延長
任意	境界線端点を基準として、適合建築物生成位置を指定

カットしない	隣の境界線まで回りこませます
1/2 カット	延長等回り込ませた際に、内角の 1/2 の範囲を最大とします
垂直カット	延長等回りこませた際に、当該境界線を延長した範囲までとします

※回り込み時の処理

■ [測定点] 端点処理

・測定点の開始・終了位置を、境界線を基準として作成位置を設定します。

適合	適合建築物を基準として測定点を発生
境界線	境界線端点から測定点を発生
任意	境界線端点を基点として任意に測定点を発生
円弧	指定側を中心として指定側の境界線内角に合わせた円弧上に測定点を発生
半円弧	指定側を中心として指定側の境界線内角の半分に合わせて半円弧上に測定点を発生

■ 測定点番号表示

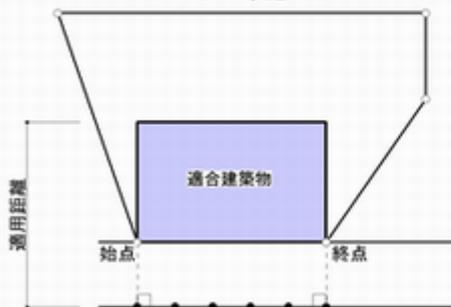
- ・このチェックを外すと、領域としての認識はしますが、測定点リストのナンバリングがされません。ナンバリングされない測定点は、印刷に反映されません。
- ・自動生成した領域でも検討(申請)しなくて良い領域等の場合は、チェックを外します。

※ADS では、後退距離を自動判定する際、建物の高さに依存することなく、全建物ブロック(斜線属性対象)の中で、各境界線に一番近いブロックに対しての距離を判定します。
従来の後退距離に参入しなくても良い建物ブロック等が入っている場合は、後退距離を任意設定の上、この項目をチェックしておきます。

■領域条件のパターン

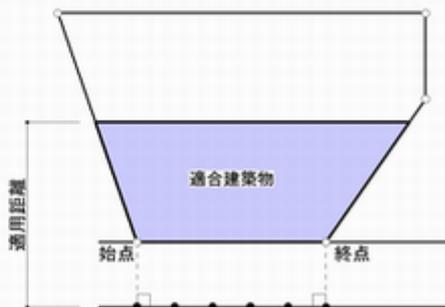
は、ADS-winでの設定方法

[A] 境界線に対して垂直に見る場合
※デフォルト状態です



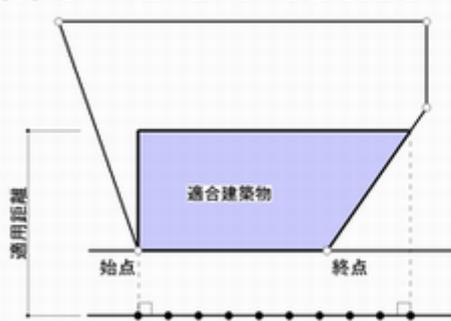
適合端点処理) 始点→境界線、終点→境界線
測定点端点処理) 始点→適合、終点→適合

[B] 適合建築物を回り込み処理+測定点は境界線



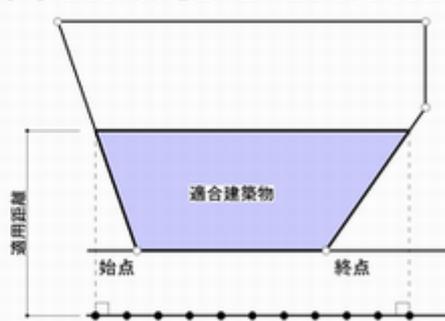
適合端点処理) 始点→延長、終点→延長
測定点端点処理) 始点→境界線、終点→境界線

[C] 終点のみ回り込み処理+測定点は適合



適合端点処理) 始点→境界線、終点→延長
測定点端点処理) 始点→適合、終点→適合

[D] 適合建築物を回り込み処理+測定点は適合



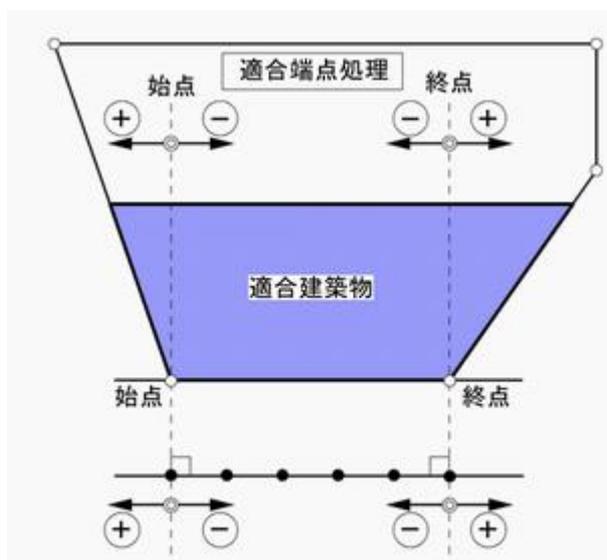
適合端点処理) 始点→延長、終点→延長
測定点端点処理) 始点→適合、終点→適合

■端点処理任意設定

境界線端点から見て

外側に広げる場合は、“+ (プラス)”

内側に狭める場合は、“- (マイナス)” で設定します。



■路地上敷地の場合

は、ADS-winでの設定方法

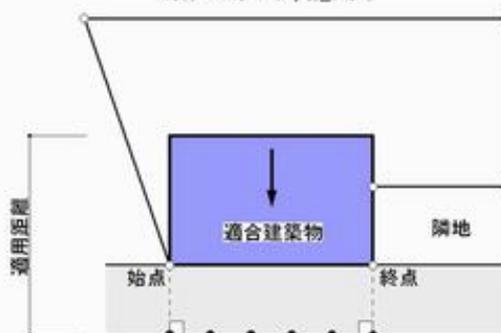
路地状敷地の場合、従来の斜線制限(東京都)の回り込み処理で見ると、[C]のパターンとなりますが、[A]パターンで指導されるケースもあります。([B]は応用パターン)

始点側の境界線内角が鈍角(90度)を越えています。この場合、90度を越えた部分についての回り込みを見るケースと見ないケースがあります。

ADS-winでは、始点側の[適合端点処理]及び[測定点端点処理]をそれぞれ延長or境界線、適合or境界線への切り替えにて設定が可能となります。[D][E]を参照

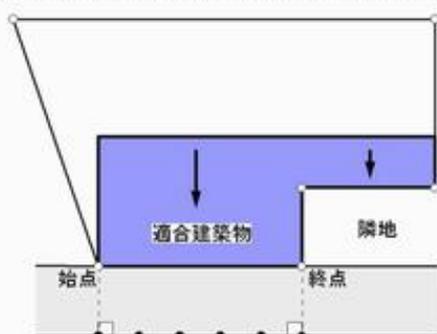
隣地斜線の場合は、敷地の反対側まで適合建築物を延長させます。

[A] 境界線に対して垂直に見る場合
※デフォルト状態です



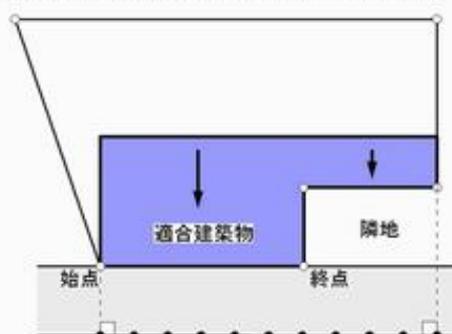
適合端点処理) 始点→境界線、終点→境界線
測定点端点処理) 始点→適合、終点→適合

[B] 隣地側も道路として判断する場合_測定点は境界線



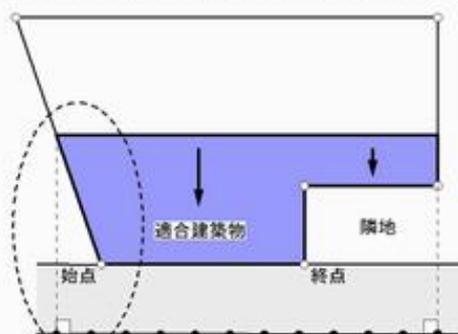
適合端点処理) 始点→境界線、終点→延長
測定点端点処理) 始点→適合、終点→境界線

[C] 隣地側も道路として判断する場合_測定点は適合



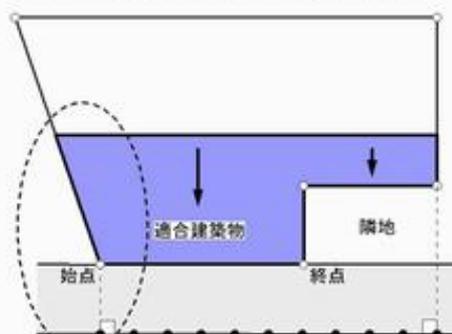
適合端点処理) 始点→境界線、終点→延長
測定点端点処理) 始点→適合、終点→適合

[D] [C]+始点鈍角を適用_測定点は適合



適合端点処理) 始点→延長、終点→延長
測定点端点処理) 始点→適合、終点→適合

[E] [C]+始点鈍角を適用_測定点は境界線



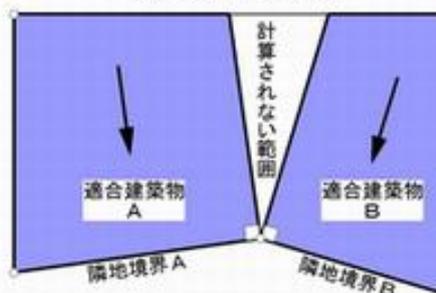
適合端点処理) 始点→延長、終点→延長
測定点端点処理) 始点→境界線、終点→適合

■入隅部分 1/2 判定

 は、ADS-winでの設定方法

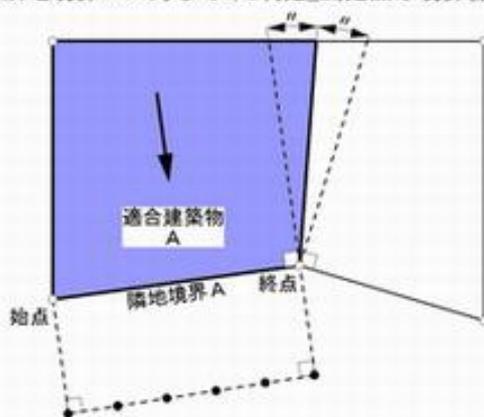
入り隅敷地(敷地内角が180度を超える場合)の取扱に関して、現在の東京都の審査基準としては、各測定点毎に境界線端部を通した範囲を適合建築物として解説していますが、何度から適用されるかが明確になっていません。
微妙な入り隅の場合は、ケースによっては簡略化措置が適用されるケースもありますが、簡略化できないケースにおいて、全て東京都の審査基準を適用すると、重複して判断する範囲が増えてきます。
ADS-winでは、境界線毎に1/2の範囲まで適合建築物を延長させて判断することが可能です。(実例はありません)

[A] 境界線に対して垂直に見る場合
※デフォルト状態です



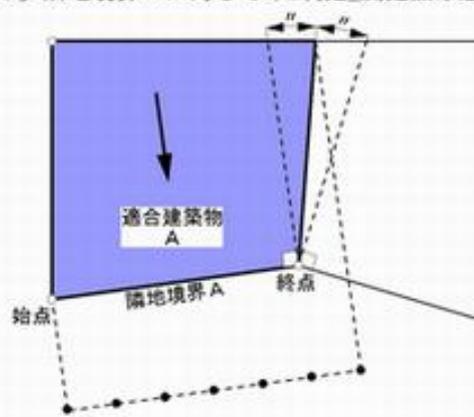
適合端点処理) 始点→境界線、終点→境界線
測定点端点処理) 始点→適合、終点→適合
※境界A及びB共同し設定

[B] 隣地境界Aに対して1/2判定_測定点は境界線



適合端点処理) 始点→境界線、終点→延長
1/2カット(L)
測定点端点処理) 始点→適合、終点→境界線
※始点側の"1/2カット"はオフ

[C] 隣地境界Aに対して1/2判定_測定点は適合



適合端点処理) 始点→境界線、終点→延長
1/2カット(L)
測定点端点処理) 始点→適合、終点→適合
※始点側の"1/2カット"はオフ

■入隅措置 2

 は、ADS-winでの設定方法

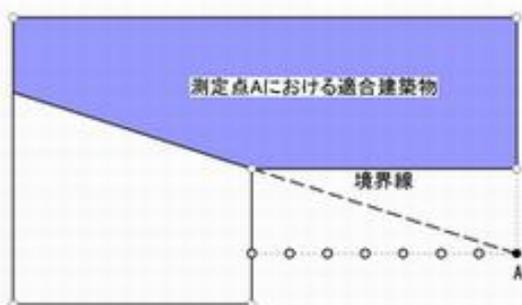
当初、東京都の審査基準における入り隅措置は、各測定ポイントから、境界線端点と通した範囲内で適合建築物とする〔A〕考えで指導されていますが、この場合入り隅となる別境界線も同様に考えると重複される範囲があります。

この重複部分のチェックを無くすために、適合建築物の最大範囲を内角の1/2までとした考え方が提唱されています。

ADS-winでは、従来への入り隅処理のケースは、“基本処理”を“放射”にすることで対応が可能ですが、新たに考案された適合建築物最大範囲を1/2までとする場合は、“適合端点処理”の“1/2カット”をチェックすることにより、対応可能です。

〔A〕東京都審査基準入り隅（原案）

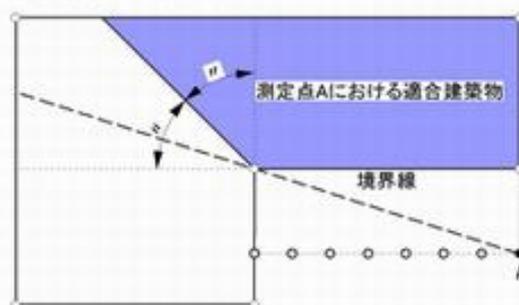
※敷地の角度に関わらず、各測定点から境界線端点を結んだ延長線上の範囲内で適合建築物を生成します。



基本処理) 放射

〔B〕最大範囲を1/2で固定

※測定点からの境界線端点を結んだ延長線が敷地内角の1/2より外側にある場合は、適合建築物は1/2までの範囲限度として生成します



基本処理) 放射
適合端点処理) 始点1/2カット(L)

★注意事項★

○どちらのタイプが適用されるかは、審査機関にお問い合わせ下さい。

[天空率解析/グループ]

- 適合建築物(及び計画建築物)をグループ化し、一塊の建築物として処理します。
- 複数の領域を一つにまとめる場合は、ここでまとめます。
- 斜線制限毎に10グループまで登録可能です。
- 適合建築物の後退距離を合わせる場合は、グループ化する前に“計算条件”にて予め合わせておきます。

② 予めグループ No を決める

① グループを作成する

道路斜線
グループ1
グループ作成
グループ削除

端領域の端点処理を[延長]にセット
 入隅を円弧
 総延長
 測定点番号を表示
 測定ライン作成方法
 適合建築物が対象とした境界線
 適合建築物が接している境界線
 測定ライン両端の処理
 境界線上適合建築物の端で止める
 適合建築物の端で止める
 外側の境界点まで伸ばす
 [基本処理]
 基本 放射

No	境界線	用途地域	地盤高	道路幅員	No	境界線	用途地域	地盤高	道路幅員
1	10	1種住居	-0.235	8.180/18.000	9	11	1種住居	-0.235	6.360/6.360
2	10	1種住居	-0.235	8.180/18.000	10	11	1種住居	-0.235	6.360/6.360
3	10	1種住居	-0.235	8.180/8.180					
4	10	1種住居	-0.235	8.180/6.360					
5	10	商業	-0.235	8.180/18.000					
6	11	1種住居	-0.235	6.360/18.000					
7	11	1種住居	-0.235	6.360/18.000					
8	11	1種住居	-0.235	6.360/8.180					
11	11	商業	-0.235	6.360/18.000					
12	12	1種住居	-0.235	6.360/18.000					
13	12	1種住居	-0.235	6.360/8.180					
14	12	1種住居	-0.235	6.360/6.360					
15	12	1種住居	-0.235	6.360/6.360					

③まとめた領域を“→”ボタンでこちら側に移す

④グループ化に際しての条件を設定する

端領域の端点処理を「延長」にセット	グループ化する領域同士の敷地内角が 180 度を超える場合お互いに 1/2 ずつ延長させ結合
入隅を円弧	グループ化する領域同士の敷地内角が 180 度を超える場合測定ラインの入隅部分を円弧処理
総延長	グループ化により結合された測定ラインにおいて測定ポイントを総延長による等間隔に配置
測定点番号を表示	チェックを外すと、領域としての認識はしますが、測定点リストのナンバリングがされず測定点は印刷に反映されません

測定ライン作成方法

東西(南北)に接道することにより2Aかつ35m及びそれ以外の処理が境界線に対して前後に領域が作成される場合に、奥の領域をグループ化する際に“適合建築物が対象とした境界線”のチェックにより測定ポイントが生成されます

測定ライン両端の処理

対象となる境界線の幅とは異なる適合建築物をグループ化する場合に、測定ポイントの端点を適合建築物に合わせる際に、“適合建築物の端で止める”を選択します

[天空率解析/天空率計算]

- 天空率計算又は計算結果(天空率)の確認を行います。
- 計算を行う場合は、事前に表示される各領域の“**適合建築物・測定点**”が問題無いことを確認した上で行ってください。
- プロパティ内の“計算”を選択し、計算させる内容を設定すると天空率計算が開始されます。
- 通常は、ダイアログボックス内の“全計算にチェック”を選択し計算させます。(位置確認線の自動探索は任意)

■天空率計算(ダイアログボックス)

●計算1(積分計算)

- 計算対象とする領域
- 計算方法

●計算2(求積計算)

- 計算対象とする領域
- 計算対象とする測定点
- 位置確認の自動探索
- 計算方法
- 全計算にチェック
- 高精度

■天空率計算結果の見方

■天空率計算(ダイアログボックス)

●計算1(積分計算)

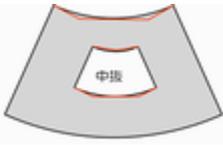
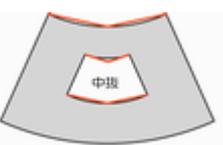
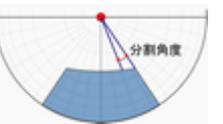
- ・“天空率計算1”に対して“編集”で指定された方式で、計算を実行します。
- ・通常の作業で行われる自動生成による計算では、まず「計算1」にて各斜線制限または各区域単位の測定ポイントに対しての計算を行います。
- ・計算終了後は、差と判定結果で確認します。

○計算対象とする領域

計算しない	「計算 1」は計算されません (デフォルトはこの状態)
全領域	表示されている斜線制限内全領域 (ポイント)に対して一括計算実行
表示領域	現在表示されている領域の全ポイントを一括計算実行
選択測定点	現在選択されている測定ポイントの計算実行

○計算方法

・適合建築物及び計画建築物の天空図上建築物頂部の直線補間方法を設定します

内接		<ul style="list-style-type: none"> ・建物投影範囲からみた内接判定を実行 (天空率が大きく出ます) ・バルコニー、庇等の下部や中抜け形状も含めて内接判定します
外接		<ul style="list-style-type: none"> ・建物投影範囲からみた外接判定を実行 (天空率が小さく出ます) ・バルコニー、庇等の下部や中抜け形状も含めて外接判定します
多角形		<ul style="list-style-type: none"> ・原理としては外接と同様ですが常に天空の中心側に接するように判定 ※デフォルトはこの設定
分割角度		<ul style="list-style-type: none"> ・天空図中心(測定ポイント)からの刻みを指定 (1・2・3・4・5・10・15・20) ・通常はデフォルトの 10 度

●計算 2(求積計算)

- ・“天空率計算2”に対して、“編集”で指定された方式(求積ベース)で計算を実行します。
- ・ここで計算された結果が、印刷時の求積図及び求積表に反映されます。
- ・計算終了後は、差と判定結果で確認します。

○計算対象とする領域

計算しない	「計算 2」は計算されません (デフォルトはこの状態)
-------	--------------------------------

全領域	表示されている斜線制限の領域全てを対象
表示領域	表示されている領域を対象

○計算対象とする測定点

チェックした測定点	<ul style="list-style-type: none"> ・計算 2 の“計算”欄に、“レ(チェック)”表示させたいポイントを計算します。 ・任意に計算したいポイントがあれば、予め“空白”表示を「編集／空欄」で“レ(チェック)”表示にします。
計算 1 の最小差点から*ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・領域内の計算結果の差が一番小さいポイントから最大 5 ポイント目までを自動計算します。 ・デフォルトは“3”
全測定点	領域内全ポイントの計算を実行

○位置確認の自動探索

- ・求積計算を行うポイントに対して、各建築物の位置確認表用のポイントを自動計算します
- ・天空率解析/位置確認線でも自動探索(及び任意)による位置確認線作成が可能です。

○計算方法

- ・適合建築物及び計画建築物の天空図上建築物頂部の直線補間方法及び求積計算を行う側を設定します。

三斜求積	三斜求積を行う側を選択
------	-------------

※他は、“計算 1”の考え方と同様(計算 1 参照)

○全計算にチェック

- ・通常の計算時に選択します
- ・選択をすると下記項目が自動設定されます
 - 計算 1/計算対象とする領域 → 全領域
 - 計算 2/計算対象とする領域 → 全領域
 - 計算 2/計算対象とする測定点 → 計算 1 の最小差点から 3 ポイント
- ・初回の計算時や、全体を一括で処理させたい場合は、選択してください。

○高精度

- ・“レ(チェック)” を付けると、天空率計算 2(求積計算)を高精度で行います
- ・この項目は、建築物の天空図投影により計算結果が適合と計画で逆転現象が起きる際の処理方法として設けたものです。

※高精度計算により、三斜の数が増えますので、通常はチェックを外して計算して下さい。

[注意事項について]

- ADS における天空率計算は三斜求積以外の計算として天空図上に投影された建築物図形に対しての面積計算(積分計算)方式を採用しています。
- 本来、天空図に投影される建築物は曲線となりますが ADS では面積計算させるために、各建築部頂点以外の部分に関しては天空図中心(=測定ポイント)からの角度(ユーザー指定)で割り出された高さ(投影長さ)毎に直線補完させています。
- ADS における求積計算は、天頂側又は投影側の何れかに対しての求積処理を行っています。

■天空率計算結果の見方 (適合・計画・差の単位=%)

ADS-win の天空率計算結果(最終)は、“計算 2(求積計算)”の“計-適”欄で判断します。この際、

適合建築物は 計算 1 < 計算 2
 計画建築物は 計算 1 > 計算 2 } ③グループ化に際しての条件

の状態になっている必要がありますが、上記の安全処理の結果が反映されていない場合、“計算 2 の数値が赤色”になる場合があります。これは、何らかの影響で求積計算がしきれていないことで安全処理された数値にならない為、システム上で警告の意味で赤色にしています。

この現象が出た場合は、**天空率計算時に“高精度”にチェックして**計算し直してください。それでも赤色に表示される場合は、**お手数ですがサポートセンターまでデータをお送りください。**

(ADS-win では、建物や数値の赤色は、警告色となっています)

No	X	Y	Z	計算1(システム計算)					計算2(求積計算)				
				適合	計画	計-適	判定	順位	計算	適合	計画	計-適	判定
1	46.392	19.269	-0.030	91.953	93.631	1.678	○	2	91.984	93.567	1.583	○	0.095
2	46.393	21.182	-0.030	88.996	92.790	3.794	◎	4					
3	46.395	23.094	-0.030	88.996	92.052	3.056	◎	3	89.036	92.018	2.982	◎	0.074
4	46.396	25.007	-0.030	91.953	93.503	1.550	◎	1	91.985	93.476	1.491	○	0.059

計画: 計算 1 > 計算 2
↑ 最終判断

適合: 計算 1 < 計算 2

○判定について

差が 0.02%未満	×(赤)
差が 0.02%~2%	○(黄)
差が 2%を超える	◎(黒)

•判定基準値は“環境設定”で変更可能です。

○差1-差2

- [計算 1 の“計-適”]から[計算 2 の“計-適”]の値を引いた差です。
- 安全側の計算が要求される求積計算結果と、システム計算(計算 1)結果の差を予め把握することを目的として表示しています。
- 適合建築物又は計画建築物の間口によって差があります。
- 表示されている数値分を上乗せした値を計算 1 で見ておけば、求積計算がクリアすることになります。

○天空率端数処理について

- 内部計算値は、小数点以下 7 桁で計算しています。

・表示は、小数点以下 3 桁表示で、4 桁目の処理が

適合建築物	切り上げ
計画建築物	切り捨て

とそれぞれ安全側に処理しています。

[計算結果(数値)が赤色になる場合]

・適合建築物及び計画建築物とも、計算 1 に対して計算 2 は安全側に処理されますが

適合建築物は、計算 1 よりも計算 2 の方が値が**大きく**

計画建築物は、計算 1 よりも計算 2 の方が値が**小さく**

計算 2(求積計算)が不完全な場合(逆転現象)は、計算 2 の値が赤く表示されます

計算 2(求積計算)の値が赤くなった場合は、サポートまで御連絡ください。

[天空率解析/求積表]

- 天空率計算の“計算2”で求められた天空率の根拠となる求積表を表示します。
- ADSの天空図の求積計算において、投影側で計算された場合は、外周(弧)部分も処理しています。
- 求積表には、斜面積と弧部分の面積をそれぞれ分けて表示しています。
- 三斜面積に関しては、左側に半径を1(単位無し)とした数値で底辺・高さ・面積を表示し、右側に指定半径における数値を表示しています。

[操作手順]

- ・表示させたい領域及び測定ポイントを指定(平面図にて指定)すると、プロパティ内に求積表が表示されます。
- ・プロパティ内のリストの三角形(S1～)各欄を選択すると、天空図に選択された三角形が色別で表示します。

[天空率解析/位置確認]

- 建築基準法施行規則の“水平投影位置確認表”の為の位置指定を行います。
- 天空図上に、位置確認表のためのポイントを指定し表を作成できます。
- 作図のための位置確認表は勿論、シミュレーション中に各種数値を確認することが可能です。
- 指定されたポイントは、「平面図/アイソメ」ウィンドウ上においても確認が可能です。
- 確認申請用で利用する場合は、「自動探索」を利用します。
- 天空率計算で同時に「自動探索」を行っている場合は、そのまま確認ができます。

項目	値	指定点No	建物高さ	水平距離	仰角	方位角	cos(h)	
用途地域	1種中高層/60/200							
適用距離	20m							
後退距離	0.000m							

道路斜線 No:1 境界線:1 測定点: 1 自動探索 削除

建築物 適合 計画

[操作手順]

- 1) 編集する領域を表示しておきます。
- 2) プロパティ内の“測定点選択”を選択し、平面図内で位置確認編集を行う測定点を選択します。
- 3) プロパティ内の“適合”又は“計画”の何れかを選択します。
※作成したい位置確認の種類を選びます。
- 4) “天空図”又は“アイソメ図”内で、位置確認線を作成したいポイント(建築物頂点)を選択します。
○自動探索 →システムが自動的に天空図に投影されている建築物頂点に位置確認線を作成します。

本コマンドは、基本的には確認申請時の利用となりますので、“自動探索”(適合及び計画)が最適ですが、計画時の天空率の影響の判断等を行う場合は、任意のポイント指定をお勧めします。

[天空率解析/放射範囲]

○領域条件等で、領域の基本処理が“放射”になっている場合、放射範囲を任意に編集します。

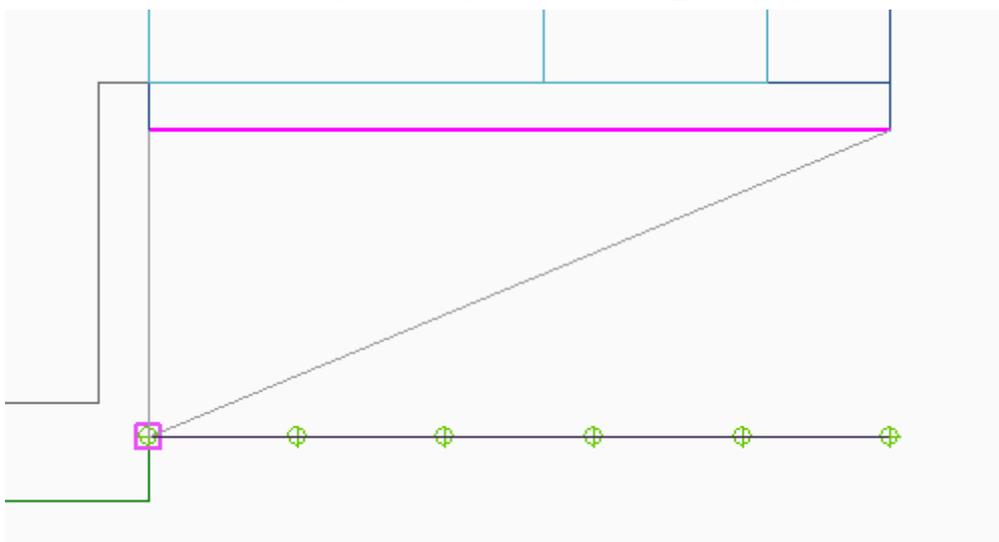
○東京方式において、測定ポイント毎に対象となる境界線を範囲(窓)として、適合建築物の判断をする際、領域条件等で設定された自動生成の放射では処理しきれない場合に、ここで編集します。

[操作手順]

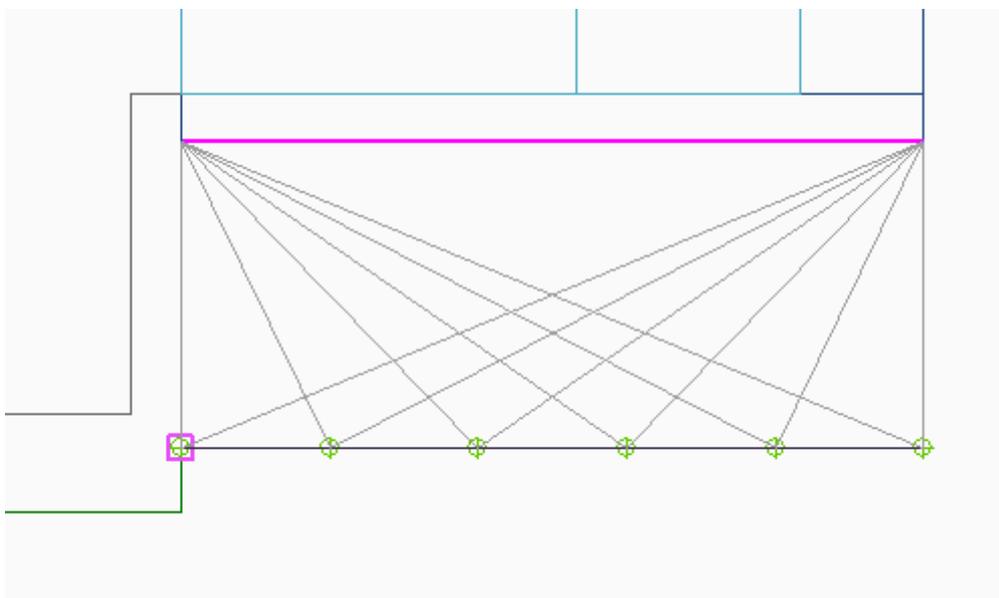
1) 編集する領域を表示しておきます。

※基本処理が“放射”に設定されている領域を表示させてください。

2) 平面図内で、対象となる測定点を範囲指定(2点)で選択します。



※メニュー選択時は、通常任意の1点からの放射ライン表示(表示無の場合もあり)

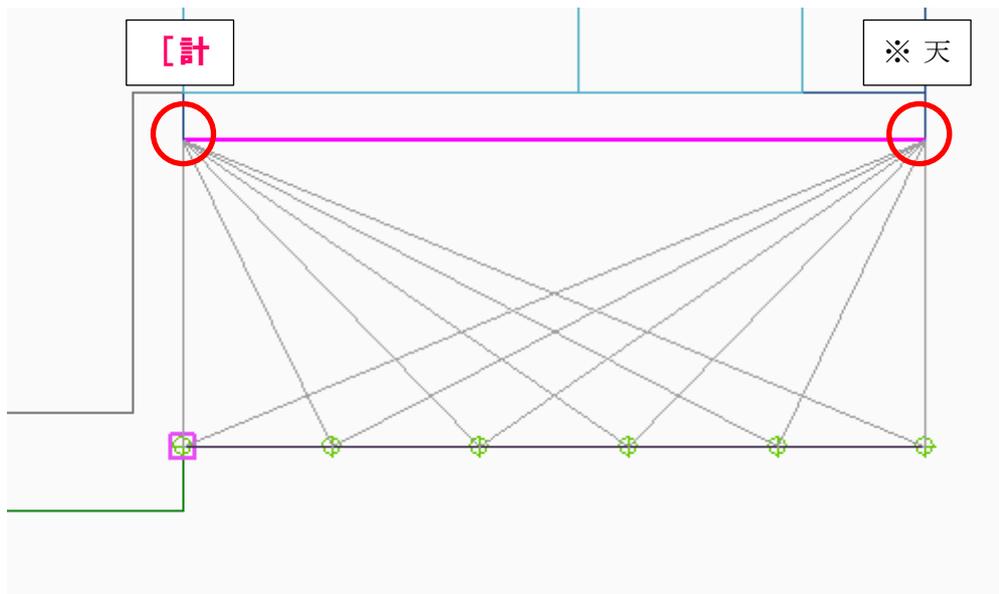


※選択された測定点から放射ラインが表示されます。

(このメニューでは、この放射ラインの“始点側”と“終点側”を編集します)

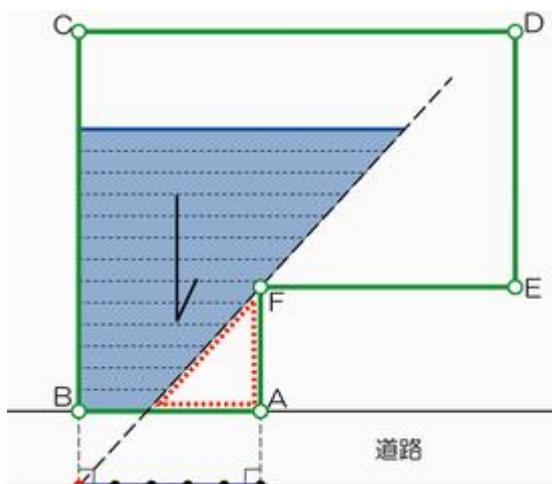
3) プロパティ内の“放射基点始点指定”を選択します。

4) 平面図内で始点を指定します。



- 5) プロパティ内の“放射基点終点指定”を選択します。
- 6) 平面図内で終点を指定します。

前面領域を含む	始点・終点それぞれの放射ラインより外側のエリアで指定ポイントより手前の領域を適合及び計画建築物として含む(通常含まれます)場合にチェックします
---------	---



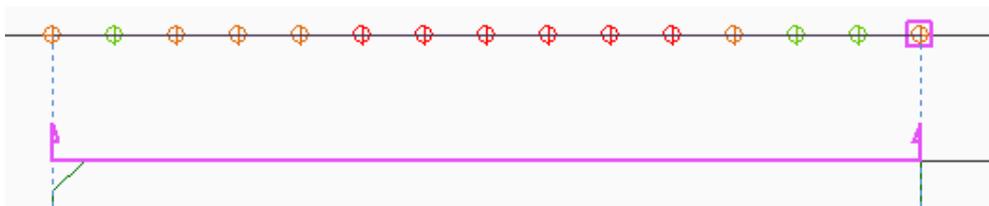
「前面領域を含む」のチェックを外すと上図のように入り隅等で利用される放射形式のままになります。
通常は、この放射基点より内側(測定ポイント側)に存在する領域を含みますのでチェックをしておきます

[天空率解析/立断面線]

- 建築基準法施行規則の“2面以上の立面図”の為の率断面図を作成します。
- 作成された適合建築物に対して、任意位置で立断面を作成します。

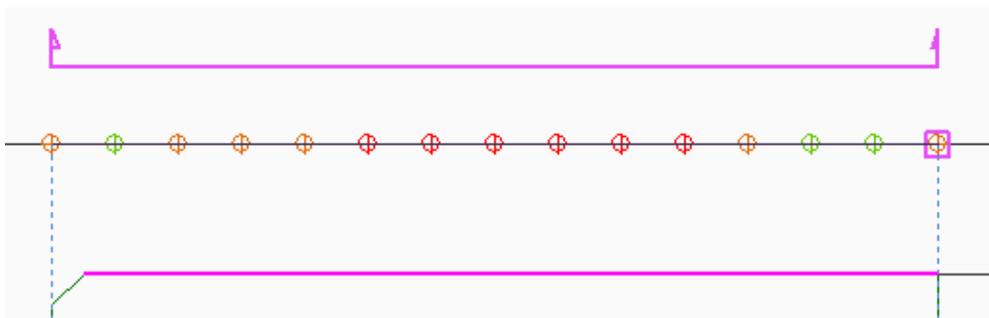
[操作手順]

- 1) 立断面を作成したい領域を表示しておきます。
- 2) “作成”を選択します。 
- 3) 平面図内で現在表示している領域の境界線を選択します。



※指定した境界線からデフォルトの断面線を作成します。

- 4) “辺移動”を選択します。 
- 5) 平面図で 3) で作成された断面線を選択し、任意の位置へ移動させます。

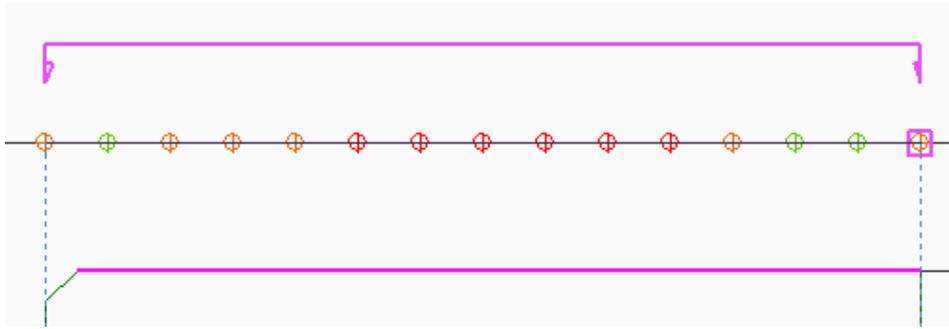


※デフォルトの断面線は敷地境界線上の為、離れた場所へ移動させます。

- 6) プロパティ内で、方向を調整します。

No	方向	反転	距離
1	平行	<input type="checkbox"/>	0.000

No	方向	反転	距離
1	平行	<input checked="" type="checkbox"/>	-14.302

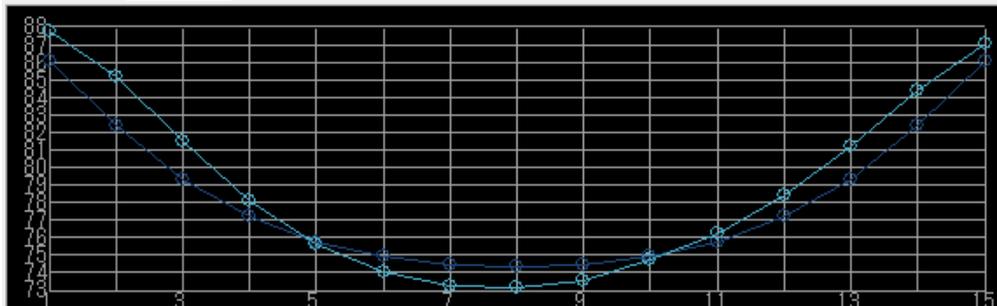


※プロパティ内の“方向”を“垂直”にすると断面線が、2)で指定した境界線に対して垂直となります。

方向	平行／垂直の切り替えが可能
反転	“レ”（チェック）を付けることで断面線の向きを反転可能
距離	数値直接入力に変更可能

[天空率解析/グラフ]

- 計算 1(システム計算)の計算結果を領域単位にグラフで表示します。
- 表示されている領域のどのあたりが厳しいかが確認できます。



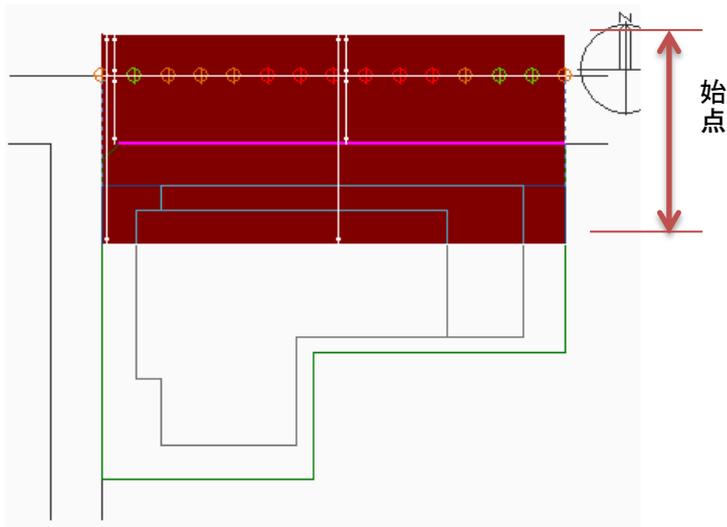
○表記内容

縦軸	天空率(%)
横軸	表示領域の測定ポイント
水色	計画建築物
青色	適合建築物

※計画建築物の色と適合建築物の色は、設定により異なります。

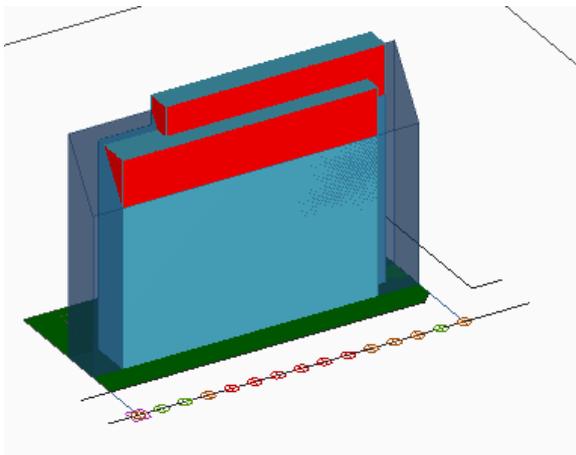
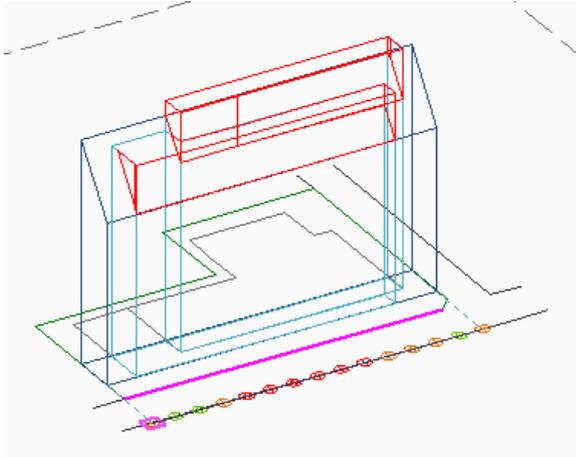
[天空率解析/適用距離]

- 道路斜線における各領域の適用距離を確認できます。
- 道路斜線シミュレーション時に、各領域の適用距離を確認します。
- 表示されている領域の適用距離範囲が、「平面図」ウィンドウ上で確認できます。



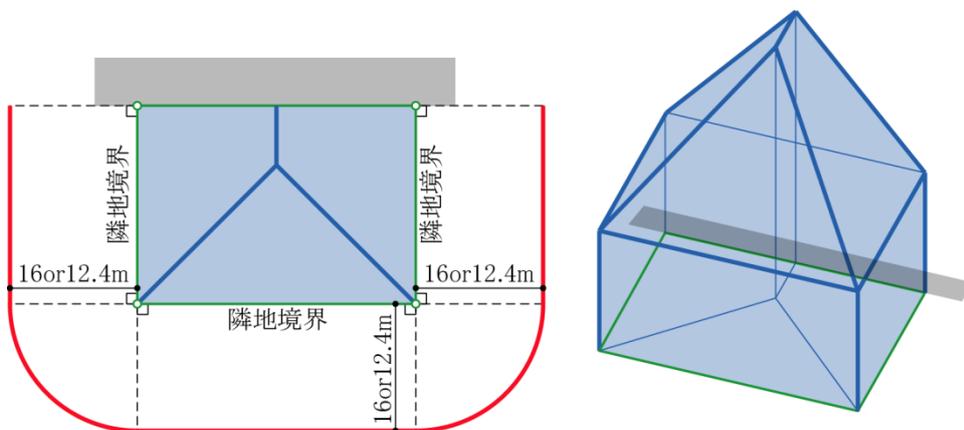
[天空率解析/影響建築物]

○適合建築物からハミ出ている計画建築物を色別表示します。



[天空率解析/複合隣地]

- 天空率算定において、隣地境界線を一つにまとめる方式を行う場合に使用します。
- 複合隣地で生成される領域は、領域リストの“任意領域”として新たに作成された領域に適合建築物と測定ポイントを作成します。
- 測定ポイントは、対象領域全体に対して作成されますので、「天空率用図形/測定ライン」にて必要に応じて編集を行います。



用途地域:	商業	後退距離:	0.000	計算
地盤高さ:	0.000m			
<input type="checkbox"/> すべての境界線を隣地境界線として処理する				
<input type="checkbox"/> 隣地斜線毎に測定ラインを作成する				

[操作手順]

- 1) プロパティ内の項目を設定して“計算”を選択します。
 - 用途地域
 - ・複数の用途地域に分かれている場合は、対象となる用途地域を選択します。
 - ※用途地域(斜線勾配種別)毎に算定する必要があります。
 - 地盤高さ
 - ・地盤高を複数設定している場合は、対象となる地盤高さを選択します。
 - 後退距離
 - ・後退距離を入力します。(通常は当該領域の最小値を入力します)
 - すべての境界線を隣地境界線として処理する
 - ・全ての敷地境界線を隣地境界線として適合建築物を作成します。
 - 隣地境界線毎に測定ラインを作成する
 - ・隣地境界線に対してのみ測定ラインを作成します。
- 2) “計算”を選択します。

※処理が終了すると、領域リストで生成された領域が確認できます。

[領域リスト]

隣地斜線		領域作成	領域複写	領域削除	削除							
No	境界	種別	基本	グループ	適合処理	測定点処理	道路幅員	ピッチ	用途/容積率	後退距離	適用距離	地盤高
11	13	自動	基本		境界線-境界線	適合-適合		6.052m	商業/80/400	2.830m		0.000m
12	14	自動	基本		境界線-境界線	適合-適合		4.073m	商業/80/400	1.963m		0.000m
13	15	自動	基本		境界線-境界線	適合-適合		4.773m	商業/80/400	1.568m		0.000m
14		複合隣地	基本		境界線-境界線	適合-適合		6.096m				0.000m

※複合隣地で作成された領域は、種別を“複合隣地”として一番最後に登録されます。

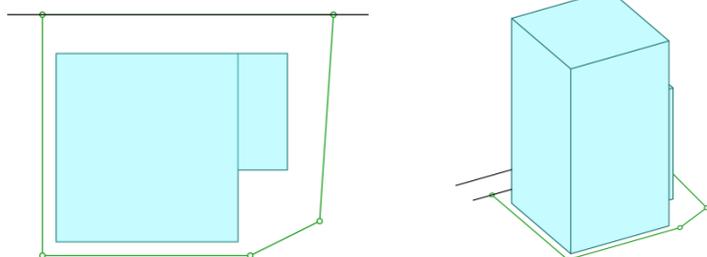
※複合隣地にて“計算”を実行する毎に作成(登録)されます。

[注意事項について]

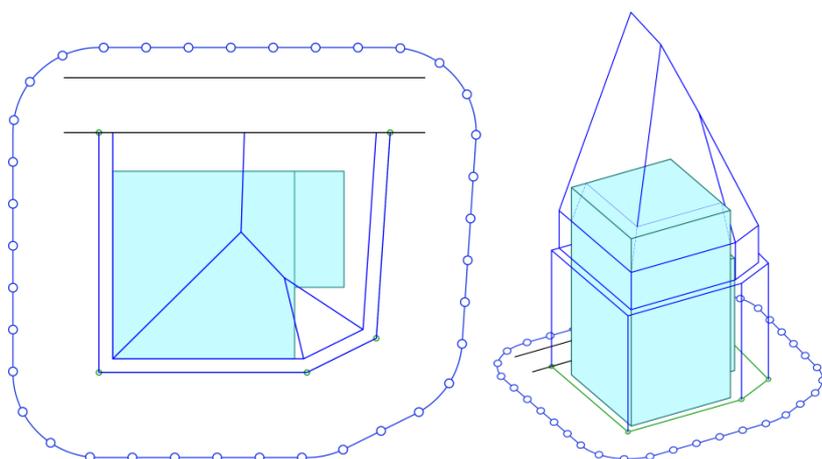
・「複合隣地」は、対象領域(用途地域単位)の隣地境界線を一つにまとめる処理を行います。敷地形状が複雑だった場合や、用途地域が分かれている場合等の測定ポイントの開始位置及び終了位置に関しては、未だ未確定部分が多いため、対象領域全体に対する測定ポイントを自動作成していますので、最終的には、算定すべき開始位置及び終了位置に関しては、「天空率用図形/測定ライン」にて編集を行う必要があります。

・「複合隣地」の作業を行う度に、任意領域として作成されますので、不要な領域は「天空率解析/領域リスト」で削除してください。

(作成前)



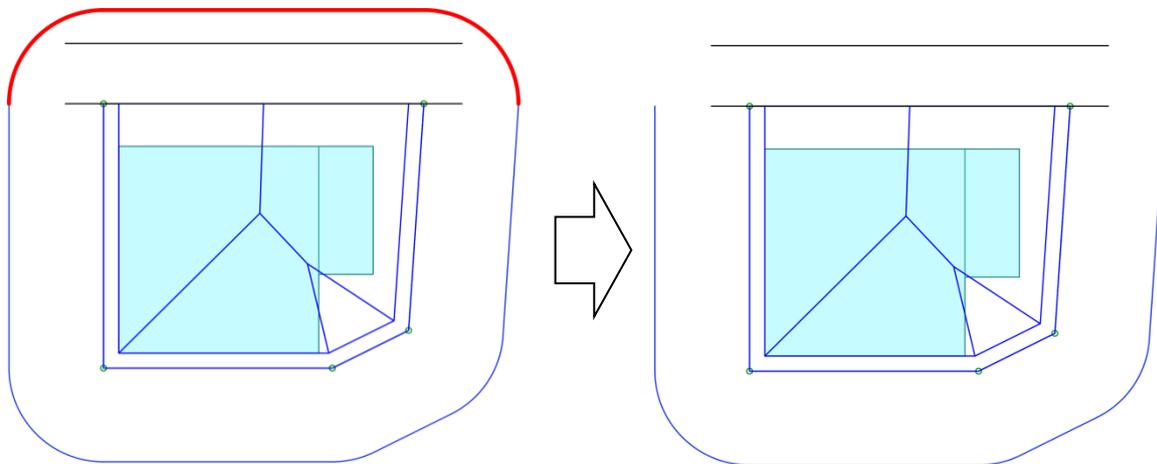
(作成後)



■測定ラインの編集に関して

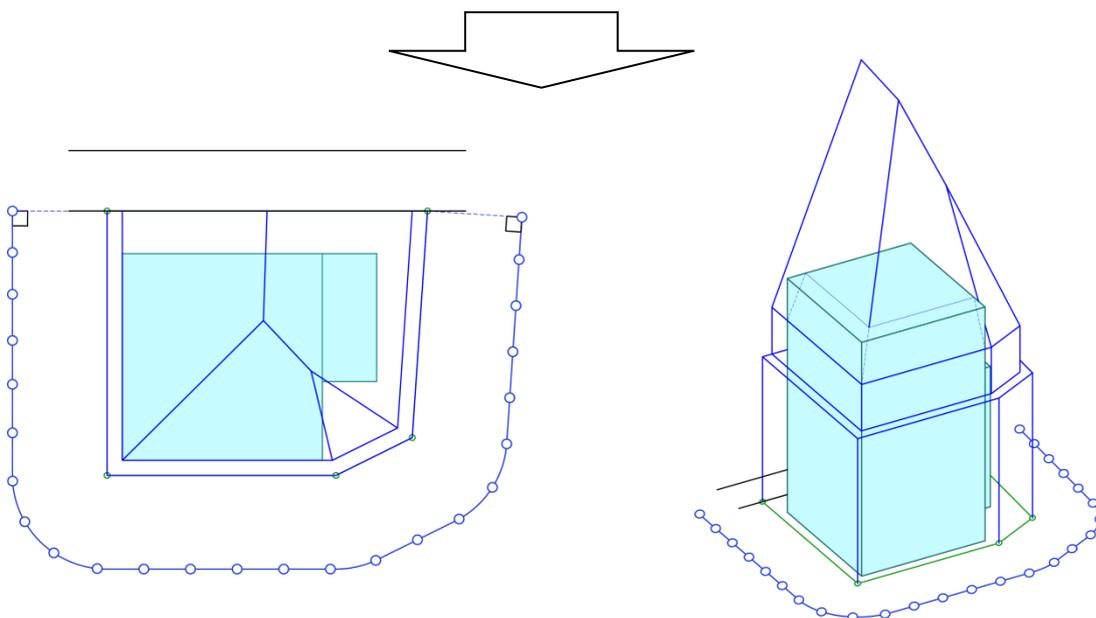
“複合隣地”によって作成された測定ラインを“天空率用図形/測定ライン”で最終的な編集を行います。

適用距離



※不要なラインを削除又は編集します。

隣地を一として算定する場合は、原則として隣地境界線に対する算定となります。



[天空率解析/自動カット]

○領域単位の全ポイントに対して、間口(方位角)又は高さ(仰角)の 2 方向の割合設定により、天空率にクリアする形状に自動カットします。

○ボリュームスタディとしての利用を想定しています。

○事前に入力しておく計画建築物は概略形状でも構いません。

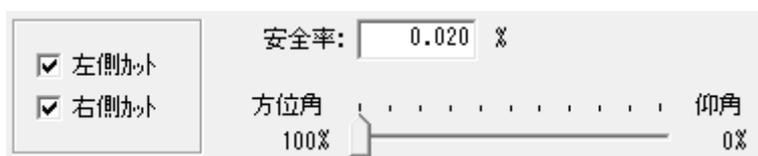
○天空率計算の結果が無くても実行可能です。

○事前に計算された天空率の結果が不適格な場合(計画建築物の天空率が下回っている場合)に有効となります。

※ADS-LA では利用できません。

[操作手順]

- 1) 対象領域を選択します。
- 2) プロパティ内で計算の為の設定を行います。



○安全率

計算で確保させる安全率を設定します。

○左側カット/右側カット

測定ライン側から建築物を見た際の左右どちらに対するカットを行うか設定します。

○方位角-仰角

カットさせる際の割合をスライダーをドラッグさせて設定します。

- ・方位角 → 間口のカット
- ・仰角 → 高さのカット

- 3) “計算”を選択します。

[注意事項について]

・スライダーは 一番左を方位角 100%、一番右側を仰角 100%としドラッグにより1%ずつ可変します

・仰角側が 100%以外の場合は方位角が有効となり測定ポイントから建築物を見た際の、右側/左側の何れをカットするかが選択可能です。両方チェックされた場合は、左右均等にカットされます

・グループ化された形状は自動カットできません

・カットされた計画建築物は、あくまでも天空率モードにおける建築物であり実際に入力した建物とは異なります

[天空率解析/ナビ]

○天空率が不適切になった任意のポイントに対して、間口(方位角)又は高さ(仰角)をそれぞれの適正角度(距離)の確認と数値指定による天空率逆計算(カットも可能)を行います。

○ある程度計画が進んだ状態での比較検討用としての利用を想定しています。

○ナビは、事前に計算 1(システム計算)が計算済みで、“計算 2”の“計-適”の数値がマイナスになっていなければ計算できません。

○間口(方位角)に関する計算は、天空率が不適切な場合(計画建築物の天空率が下回っている場合)にのみ有効(どの角度まで絞り込めばクリアするかが検討可)で

仰角(高さ)に関しては、既にクリアしている場合にどこまで高さを上げられるかの逆計算も可能です。

※ADS-LA では利用できません。

[操作手順]

- 1) 計算させたい、任意の領域の不適切となる測定ポイントを選択しておきます。
- 2) プロパティ内の計算方法を設定し、“計算”を選択します。

■方位角で調整

①“方位角で調整”を選択します。

※間口に対する計算を行います。

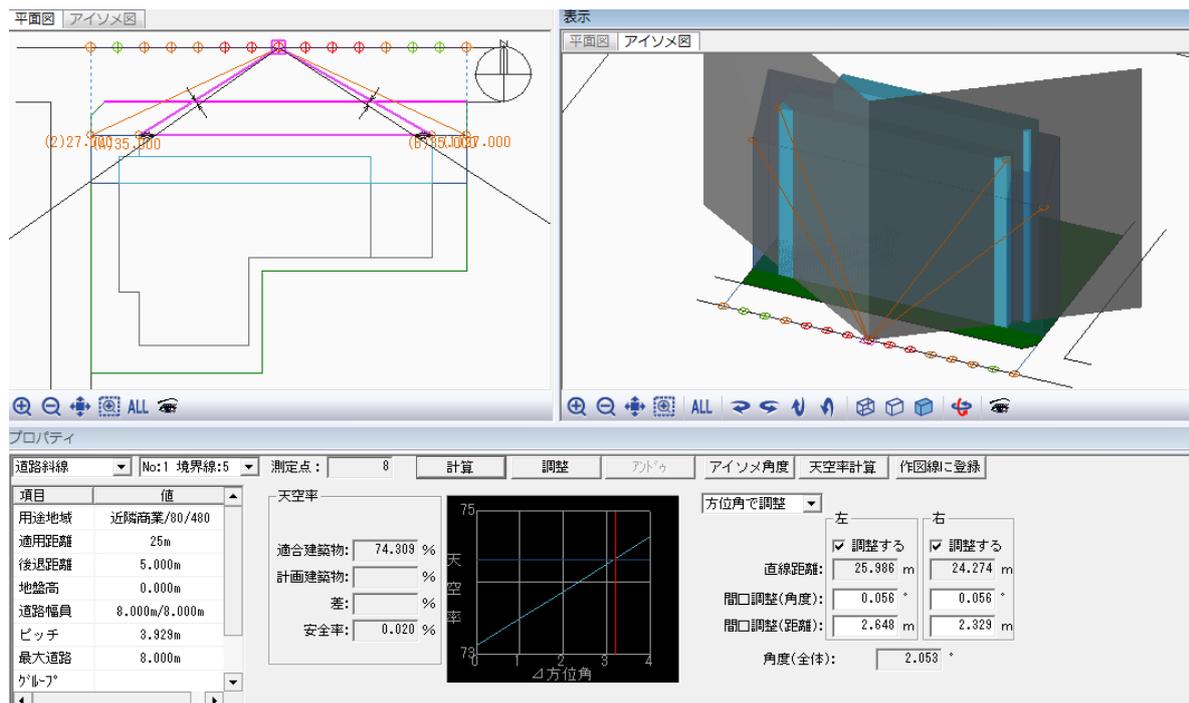
左	測定ポイントから建物を見た際の左側を計算対象
右	測定ポイントから建物を見た際の右側を計算対象

②安全率を設定します。

ここでの計算は、計算 1 に対して行います。従って計算 2 も考慮する場合を想定すると、安全率+“差 1-差 2”の値以上の数値を入力する必要があります。

③“計算”を実行します。

④結果を確認します。



※アイソメ図をシェーディング表示させた際のグレー(半透明)の角度以内に収めると天空率がクリア(安全率設定値)します。

⑤計算結果に対してプラス α の処理をします。(※必要に応じて)

④で計算結果を確認するだけでも構いませんが、下記の処理を行うことができます。

○計算結果を作図線に登録する **作図線に登録**

カットラインを作図線として登録できます。(建物編集で利用可能)

○計算結果を建物に反映させる **調整**

カットラインで計画建築物をカットします。(カットされた結果は、天空率解析/天空率用図形内のみで有効)

○任意の数値で計算してみる **天空率計算**

計算終了後は、ステータスウィンドウ内の“角度・距離”欄が入力可能となります。計算値以外の数値を入力してから、“天空率計算”を選択すると、設定値の計算結果を確認することができます。

[注意事項について]

- ・スライダーは 一番左を方位角 100%、一番右側を仰角 100%としドラッグにより1%ずつ可変します
- ・仰角側が 100%以外の場合は方位角が有効となり測定ポイントから建築物を見た際の、右側/左側の何れをカットするかが選択可能です。両方チェックされた場合は、左右均等にカットされます
- ・グループ化された形状は自動カットできません

■仰角で調整

①“仰角で調整”を選択します。

※高さ方向の計算を行います。

仰角で調整

直線距離: 0.000 m

角度(全体): 0.000 °

高さ調整(角度): 0.000 °

高さ調整(距離): 0.000 m

計算対象

全て

選択のみ

前面立上りでフラット処理

前面立ち上がりでフラット処理	元々クリアしている状態に対して+ α の計算を行う場合に前面立ち上がり高さでフラットに計画建築物を見るか勾配なりに計画建築物を見るかを切替えます
計算対象/選択のみ	選択された計画建築物に対してのみの逆計算を行います

②安全率を設定します。

天空率

適合建築物: 0.000 %

計画建築物: %

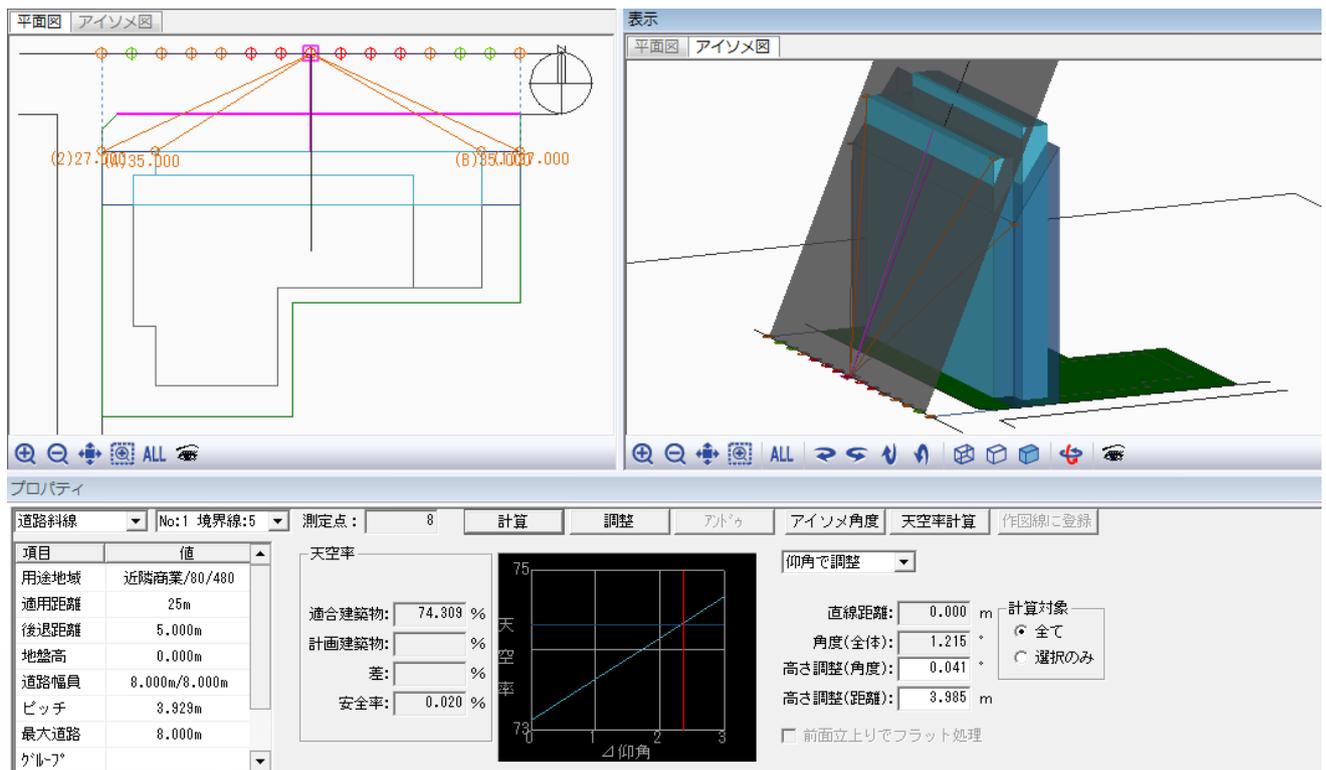
差: %

安全率: 0.020 %

ここでの計算は、計算 1 に対して行います。従って計算 2 も考慮する場合は想定すると、安全率+“差 1-差 2”の値以上の数値を入力する必要があります

③“計算”を実行します。

④結果を確認します。



※アイソメ図をシェーディング表示させた際のグレー(半透明)の角度以内に収めると天空率がクリア(安全率設定値)します。

⑤ 計算結果に対してプラス α の処理をします。(※必要に応じて)

④で計算結果を確認するだけでも構いませんが、下記の処理を行うことができます。

○ 計算結果を建物に反映させる

調整

カットラインで計画建築物をカットします。(カットされた結果は、天空率解析/天空率用図形内のみで有効)

○ 任意の数値で計算してみる

天空率計算

計算終了後は、ステータスウィンドウ内の“高さ調整”欄が入力可能となります。計算値以外の数値を入力してから、“天空率計算”を選択すると、設定値の計算結果を確認することができます。

○ 側面図に切り替える

アイソメ角度

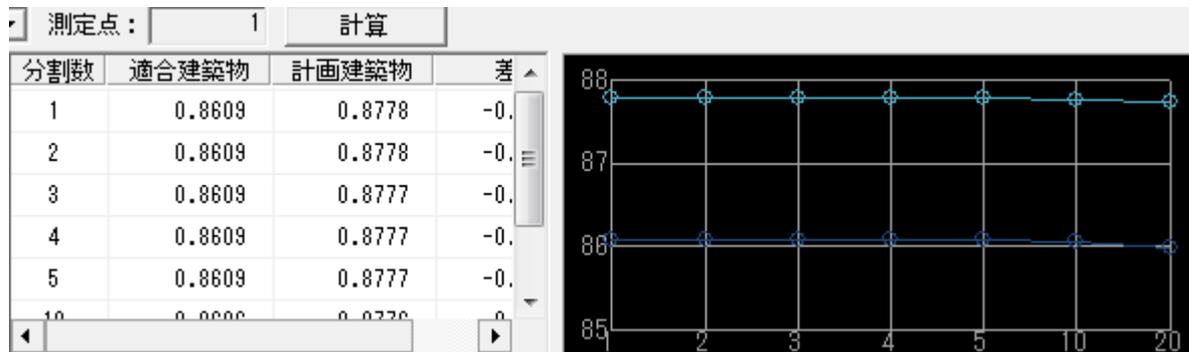
アイソメ図の表示を適合建築物の側面からのアングルにします。

[天空率解析/比較]

“計算1”に対し精度(角度)による天空率の差の比較が確認できます。

申請レベルにおける指導要綱等とは異なります。

※ADS-LA では利用できません



[操作手順]

- 1) “計算”を選択します。

[天空率解析/適合後退ナビ]

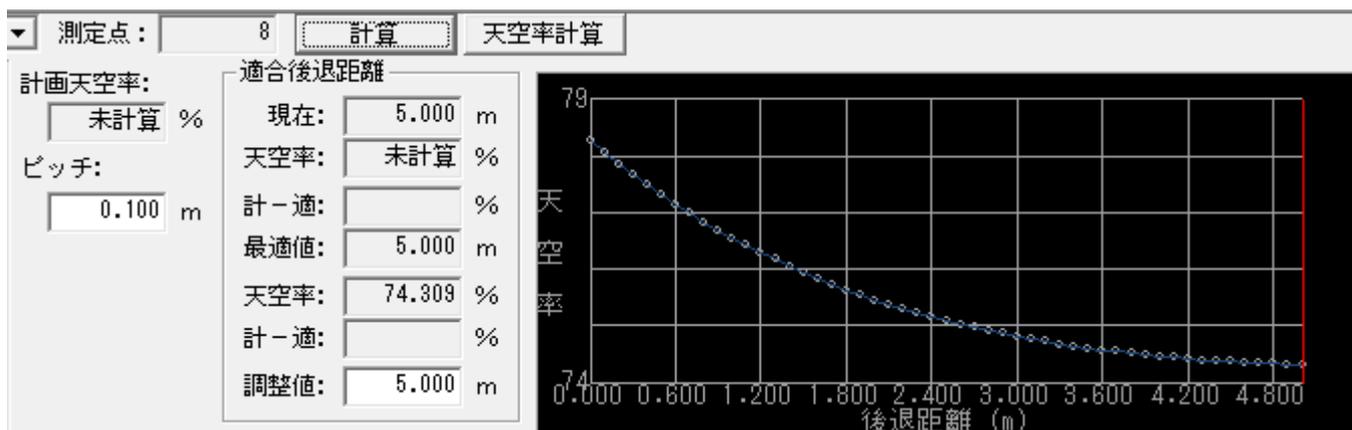
○適合建築物の後退距離(立上げ位置)を逆計算(シミュレーション)できます。

○測定ポイント単位の計算となります。

○領域全ポイントに対しての計算結果は得られませんが、基本的には“計算 1”の結果の天空率の差(計一適)の最小値ポイントに対して処理を行うことにより、他のポイントでも有効な値として得ることが可能です。

○ADS-win では、入力された建物形状より各境界線に一番近い建物形状で後退距離を判定しその位置より適合建築物を自動生成したものが初期形状として立ち上がります。

■基本画面



測定点	現在選択されている(シミュレーションを行う)測定ポイントナンバー
計画天空率	計算 1 の計画建築物における天空率
ピッチ	後退距離計算を行う際の計算ピッチを指定

現在	現在の後退距離
天空率	計算 1 の計画建築物における天空率
計一適	現在の計算 1 での天空率の差(計画一適合)
最適値	最も適合建築物の天空率が小さくなる後退距離
天空率	“最適値”又は“調整値”で任意入力における“天空率計算”実施後の適合建築物における天空率
計一適	上記天空率計算結果における計算 1 での天空率の差(計画一適合)
調整値	適合建築物の後退距離任意入力可能、計算後は最適値と同値が表示

[操作手順]

- 1) “ピッチ”を設定します。
 - ・適合建築物をセットバックさせる際のピッチとなります。
- 2) “計算”を選択します。

・計算が実行され計算結果が表示されます。

※計算により、“最適値”が“現在”よりも小さい値の時は、最適値の方が有利となります。
(ピッチが粗いことにより、現在値とほぼ同じ距離の場合を除く)

[注意事項について]

・天空率制度利用においては、一般的に境界線から壁面後退位置までの間であればどの位置から適合建築物を立上げてもいいことになっており立上げ位置によって天空率が変化します(事前に審査機関に確認願います) 設計者にとって天空率の比較元となる適合建築物の天空率が一番小さい値になる位置から立上げることによって有利に働くことになります

・ナビゲーションした後退距離を実データに与えるには、調整値を覚えておき、「計算条件／建物後退」で直接数値入力します。

「後退距離を自動計算する」のチェックを外すことで、後退距離が任意入力可能です

[天空率用図形/ブロック編集]

ADS の天空率解析における各種パラメータ等による適合建築物の自動生成は、審査機関からの指摘等により、処理がしきれない場合があります。

この天空率用図形では、“天空率解析”の各種設定で処理ができなかった場合に“適合建築物”を任意に編集することができます。

編集方法は、基本的に“建物編集/ブロック編集”と同じですが、取り扱うブロックが“適合建築物”か“計画建築物”のみとなります。

建物形状(ブロック)の選択について

■ 操作手順

- ・[新規入力\(任意形状\)](#)
- ・[新規入力\(矩形\)](#)
- ・[新規入力\(円-3点\)](#)
- ・[新規入力\(円-中心\)](#)
- ・[ブロック編集\(点挿入\)](#)
- ・[ブロック編集\(点挿入\)](#)
- ・[ブロック編集\(点移動\)](#)
- ・[ブロック編集\(辺移動\)](#)
- ・[ブロック編集\(上面移動\)](#)
- ・[ブロック編集\(下面移動\)](#)
- ・[ブロック編集\(点削除\)](#)
- ・[ブロック編集\(ブロック移動\)](#)
- ・[ブロック編集\(ブロックコピー\)](#)
- ・[ブロック編集\(ブロック回転\)](#)
- ・[ブロック編集\(垂直移動\)](#)
- ・[ブロック編集\(垂直複写\)](#)
- ・[ブロック編集\(合成\)](#)
- ・[ブロック編集\(水平面カット\)](#)
- ・[ブロック編集\(垂直面カット\)](#)
- ・[ブロック編集\(ブロック削除\)](#)
- ・[ブロック編集\(図形チェック\)](#)
- ・[座標入力](#)

項目	値	No	種類	上面	下面
用途地域	近隣商業/80/300	1	建物	傾斜	
適用距離	20m	2	建物	傾斜	
後退距離	4.880m	3	建物	傾斜	
地盤高	0.000m	4	建物	傾斜	
道路幅員	8.000m/8.000m	5	建物	傾斜	

No	X	Y	Z	ZD
1	-0.238	-23.277	30.000	0.000
2	-6.405	-23.277	30.000	0.000
3	-6.405	-25.924	26.030	0.000
4	2.163	-25.924	26.030	0.000

■建物形状(ブロック)の選択について

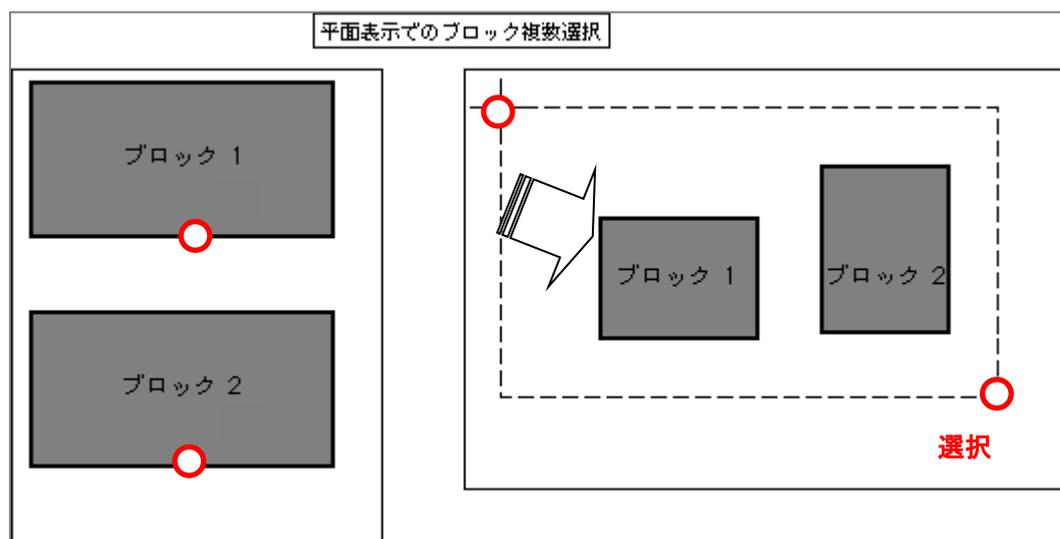
- 入力済み建物形状(ブロック)に対して編集を行う場合は、予め対象となるブロックを選択しておく必要があります。
- ブロックの選択は、単一でも複数でも選択できます。
- ブロックは、「平面図」/「アイソメ」/「リスト」各々のウィンドウ上で選択できます。

★単一ブロックの選択

- マウス単一選択
「平面図」ウィンドウ上、及び「アイソメ」ウィンドウ上で、建物形状の“任意の一辺”を選択します。
※「アイソメ」ウィンドウ上で選択する場合は、建物の屋根面を選択します。
- マウス対角指示
「平面図」ウィンドウ上、及び「アイソメ」ウィンドウ上で、単一の建物形状を 囲むようにマウスで対角指示
- リスト選択
「リスト」ウィンドウ上、No を選択 / 上下キーで選択

★複数ブロックの選択

- マウス単一選択
「平面図」ウィンドウ上、及び「アイソメ」ウィンドウ上で、建物形状を選択
「Ctrl」キーを押しながら、別の建物形状を選択
※「アイソメ」ウィンドウ上で選択する場合は、建物の屋根面を選択します
- マウス対角指示
「平面図」ウィンドウ上、及び「アイソメ」ウィンドウ上で、複数の建物形状を囲むようにマウスで対角指示
- リスト選択
「リスト」ウィンドウ上、No を選択 / 上下キーで選択
「Ctrl」キーを押しながら、別の No を選択 / 上下キーで選択



[操作手順]

■新規入力(任意形状)

1) “作成”コマンドを選択

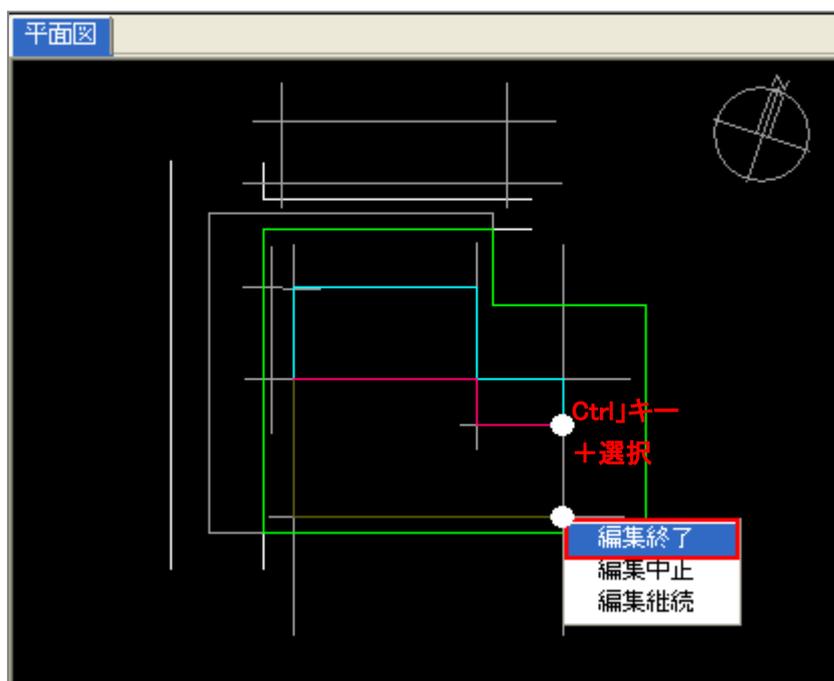


2) 平面図上で、建物の平面形状を一筆書きの要領で多角形のポイント数分だけ入力します。

3) 右クリックで“編集終了”を選択します。

以上で1つの形状が作成されます。

続けて新規ブロックの入力が可能です。

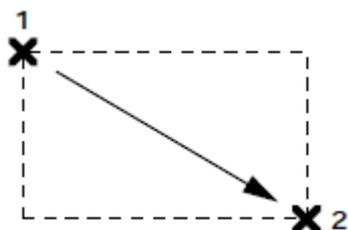


■新規入力(矩形)

1) “矩形作成”コマンドを選択します。



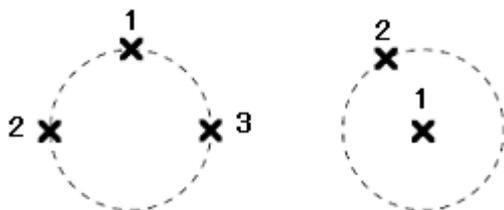
2) 平面図上で、2点(対角)指定します。



■新規入力(円作成-3点)

- 新規で3点入力による円を作成します。
- 作成されて図形は多角形分解されます

- 1) “円作成(3点)”を選択します。
- 2) 平面図内で3点指定します。

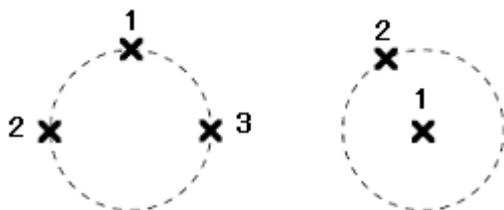


困む

■新規入力(円作成-中心)

- 新規で中心(及び半径)指定による円を作成します。
- 作成されて図形は多角形分解されます

- 1) “円作成(中心)”を選択します。
- 2) 平面図内で2点指定します。

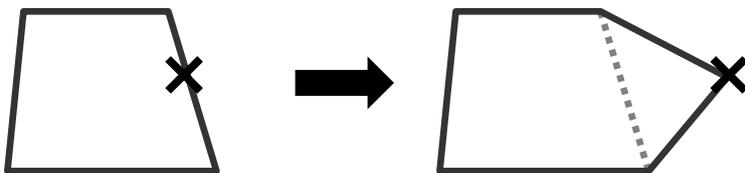


■ブロック編集(点挿入)

既に入力されている形状のポイント間に、新しいポイントを挿入します。

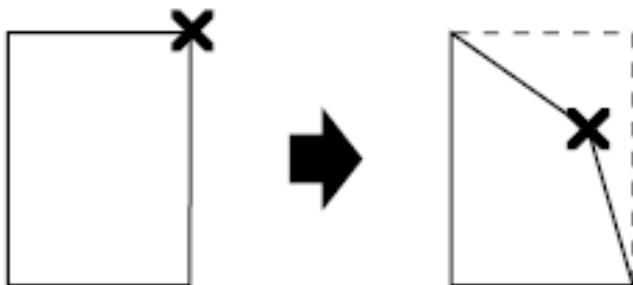
- 1) 編集対象となるブロックを選択します。
- 2) “点挿入”コマンドを選択します。
- 3) 平面図内で、点挿入したい“辺”を選択します。
- 4) 目的(挿入)位置を指定します。

※同一辺に続けて指定することが可能です



■ブロック編集(点移動)

- 1) 編集対象となるブロックを選択します。
- 2) “点移動”コマンドを選択します。
- 3) 平面図内で、移動させたい“ポイント”を選択します。
- 4) 目的(移動)位置を指定します。



■ブロック編集(辺移動)

- 1) 編集対象となるブロックを選択します。
- 2) “点移動”コマンドを選択します。
- 3) 平面図内で、移動させたい“ポイント”を選択します。
- 4) 目的(移動)位置を指定します。

※同一辺に続けて指定することが可能です

■ブロック編集(上面移動)

- 既存ブロックの上面を上下に移動します。
 - マウスによるオペレーションのみとなります。
- 3) 平面図又はプロパティ内リストで対象ブロックを選択します。
 - 4) “上面移動”を選択します。
 - 5) アイソメ図内で 1) で選択したブロックの上面を選択します。
 - 6) アイソメ図内で、移動位置を選択します。

■ブロック編集(下面移動)

- 既存ブロックの下面を上下に移動します。
 - マウスによるオペレーションのみとなります。
- 5) 平面図又はプロパティ内リストで対象ブロックを選択します。
 - 6) “下面移動”を選択します。
 - 7) アイソメ図内で 1) で選択したブロックの下面を選択します。
 - 8) アイソメ図内で、移動位置を選択します。

■ブロック編集(点削除)

- 1) 編集対象となるブロックを選択します。
- 2) “点削除”コマンドを選択します。
- 3) 平面図内で、削除したい“ポイント”を選択します。

■ブロック編集(ブロック移動)

○既存のブロックを移動(平面)します。

- 5) 平面図又はプロパティ内リストで対象ブロックを選択します。
- 6) “ブロック移動”を選択します。
- 7) 移動方法をリストボックスより選択(設定)します。



フリー	・任意位置に移動(図形を端点指定で移動可能)
X 軸	・X 軸に、平行に移動
Y 軸	・Y 軸に、平行に移動
辺平行	・任意の辺(敷地、建物)に、平行に移動
辺垂直	・任意の辺(敷地、建物)に、垂直に移動
東西	・東西に、平行に移動
南北	・南北に、平行に移動

- 8) 平面図内で基点(選択ブロック内の任意のポイント)を選択し、移動先を指定します。

■ブロック編集(ブロック複写)

○既存のブロックを複写(平面)します。

○元ブロックは残ります。

- 5) 平面図又はプロパティ内リストで対象ブロックを選択します。
- 6) “ブロック複写”を選択します。
- 7) 複写方法をリストボックスより選択(設定)します。



フリー	・任意位置に複写(図形を端点指定で移動可能)
X 軸	・X 軸に、平行に複写
Y 軸	・Y 軸に、平行に複写
辺平行	・任意の辺(敷地、建物)に、平行に複写

辺垂直	・任意の辺(敷地、建物)に、垂直に複写
東西	・東西に、平行に複写
南北	・南北に、平行に複写

8) 平面図内で基点(選択ブロック内の任意のポイント)を選択し、複写先を指定します。

■ブロック編集(ブロック回転)

○既存のブロックを回転させます。

- 5) 平面図又はプロパティ内リストで対象ブロックを選択します。
- 6) “ブロック回転”を選択します。
- 7) 平面図内で、回転させるための基点(1点目)を指定し、続けて基準軸となる2点目を指定します。
- 8) 回転させる場所を指定します。

※数値指定の場合

上記2)の後に、“数値指定”をチェックし角度を入力します。

数値指定 角度: °

続けて平面上で基点を指定すると上記数値で回転されます。

■ブロック編集(垂直移動)

○既存のブロックを上下(垂直)方向に移動をします。

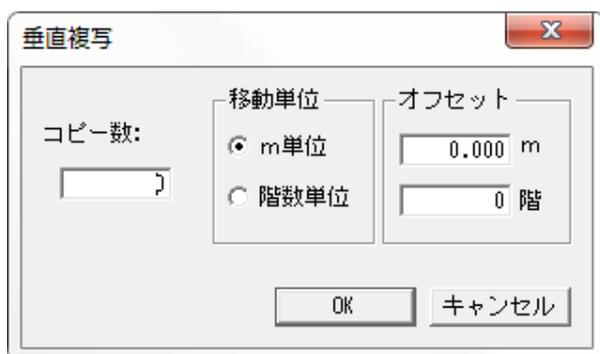
- 4) 平面図又はプロパティ内リストで対象ブロックを選択します。
- 5) “垂直移動”を選択します。
- 6) ダイアログボックスより、数値等を設定し“OK”を選択します

■ブロック編集(垂直複写)

- 既存のブロックを上下(垂直)方向に複写をします。
- 元ブロックは変更されずに、ブロックの高さ分、新たにブロックが作成されます。

- 4) 平面図又はプロパティ内リストで対象ブロックを選択します。

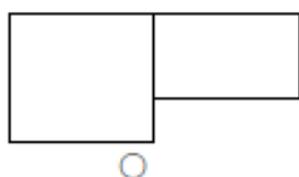
- 5) “垂直複写”を選択します。
- 6) ダイアログボックスより、数値等を設定し“OK”を選択します



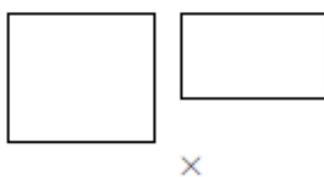
■ブロック編集(合成)

○同一高さで辺が接しているブロックを合成します。

- 3) 合成したいブロックを2つ以上選択します。
平面図内でCtrlキーを押しながら複数選択します。
- 4) “合成”を選択します。

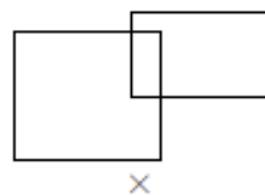


辺同士が重なっている場合は合成可能



離れている場合は合成不可

※何れも高さと同じ場合を想定

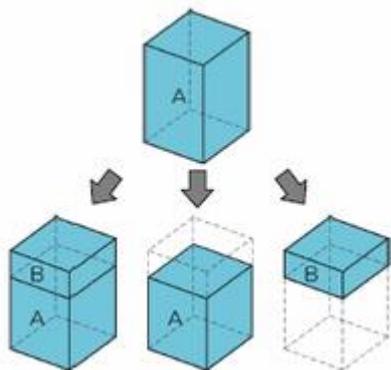


辺同士が重なっていない場合は合成不可

■ブロック編集(水平面カット)

○任意(複数同時可)のブロックを水平方向でカットします。

- 4) 平面図内で対象ブロックを選択します。
- 5) “水平面カット”を選択します。
- 6) ダイアログボックスで数値等を設定し“OK”を選択します。



上面をカット	分断後(A)のブロックを削除
下面をカット	分断後(B)のブロックを削除

※両方チェックを外すと、両方(A・B)のブロックが分断だけされて残ります。

■ブロック編集(垂直面カット)

○既存ブロックを垂直方向でカットします。

6) 平面図又はプロパティ内リストで対象ブロックを選択します。

※複数ブロックの選択が可能です。

7) “垂直面カット”を選択します。

8) カット方法を選択します。

2点指定 辺選択

9) 平面図内で 3) で選択した項目の設定をします。

○“2点指定”を選択した場合

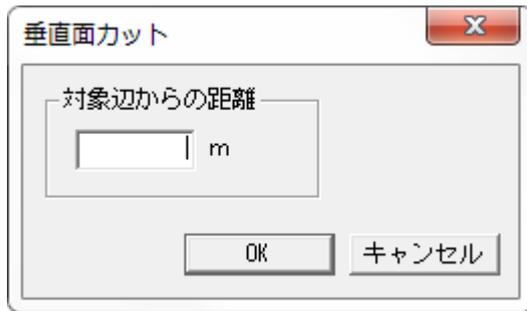
・平面図内で、2点指定によるラインを作成します。(カットする基準線)

○“辺選択”を選択した場合

・平面図内で、基準となる辺を選択します。

※平面図内に表示されている直線全てが選択対象となります。

10) ダイアログボックスで 4) で指定した線分からの距離を入力し、“OK”を選択します。



■ブロック編集(ブロック削除)

○既存ブロックを削除します。

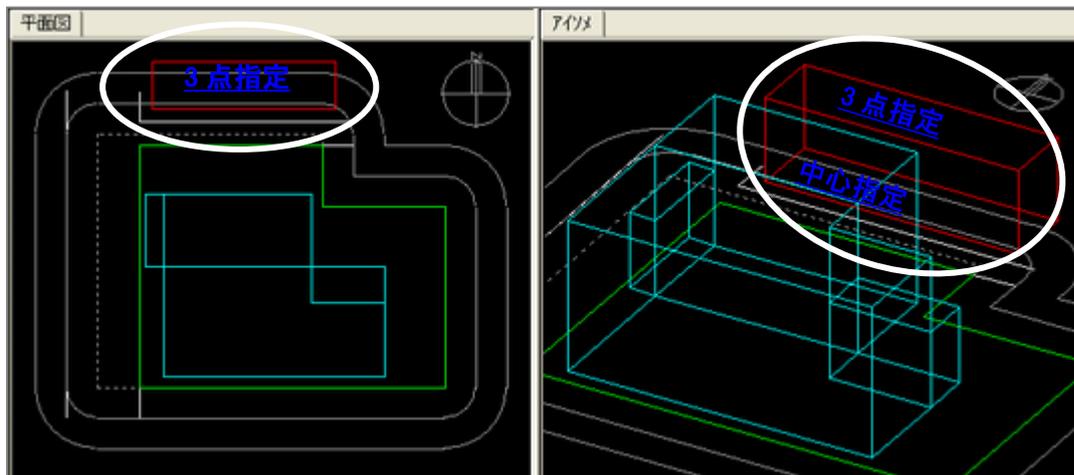
- 3) 平面図又はプロパティ内リストで対象ブロックを選択します。
- 4) “ブロック削除”を選択します。

■ブロック編集(図形チェック)

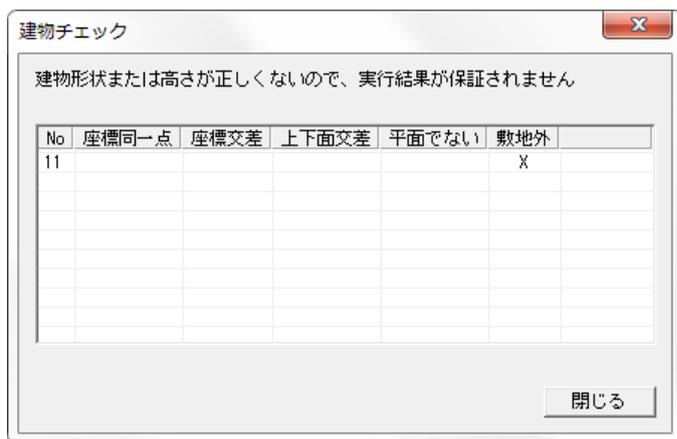


建物ブロックが赤色になった場合に、何が原因かを確認します。

ブロック色が赤くなった場合は必ず確認してください。



No	種類	上面	下面	Z	ZD	断面	斜線	日影	P	面積
1	建物	平面		18.000		1	✓	✓	6	576.00
2	建物	平面		10.000		1	✓	✓	4	240.00
3	建物	平面		9.000		1	✓	✓	4	72.00



- 座標同一点
 - ・座標が重なっています。
- 座標交差
 - ・座標が交差しています。(8の字図形)
- 上下面交差
 - ・上面と下面の高さが逆転しています。
- 平面でない
 - ・上面又は下面が片流れになっていません。
- 敷地外
 - ・斜線属性対象のブロック(ポイント)が敷地外にあります。

エラーになる場合は以上の原因となります。エラーが解除されるように予め建物ブロックを修正してください。

■座標入力

- 座標を直接数値入力し、建物形状を作成・編集を行います。



- 座標欄が空欄の際にプロパティ内の“数値入力”を選択することで新規座標入力が可能となります。
- 既存ブロックが選択された状態で“数値入力”を選択すると、既存ブロックの座標編集が可能となります。

絶対座標 相対座標 のべ座標

平面編集 高さ編集

挿入

No	X	Y	Z	ZD
1	72.794	93.717	25.000	0.000
2	72.794	81.468	25.000	0.000
3	102.801	81.468	25.000	0.000
4	102.794	93.717	25.000	0.000

絶対座標

原点(0,0)を基準とし
各頂点の位置を原点からの絶対座標値によって入力

相対座標	第1ポイントを原点(0,0)からの絶対座標値によって設定し この点を基準に各頂点の位置を相対値によって入力
のべ座標	第1ポイントを原点(0,0)からの絶対座標値によって設定し 以降のポイントを直前のポイントからの移動数値によって入力

ポイントの追加 <input checked="" type="checkbox"/> 挿入	追加したいポイントNo.を選択 「挿入」チェックボックスを選択 新規と同様に直接数値入力
座標値を修正 <input type="checkbox"/> 挿入	「挿入」チェックボックスのチェックを外す 修正したい箇所を選択 数値を直接入力
ポイントの削除 <input type="button" value="点削除"/>	「挿入」チェックボックスのチェックを外す 削除したいポイントNo.を選択後 「点削除」を選択

[天空率用図形/リスト編集]

○適合建築物及び計画建築物の高さ及び属性の編集を行います。

○編集方法は、建物編集/リスト編集と同等です。

※表示されている適合建築物を建物編集用のブロックとして登録することができます。

※計画建築物の編集結果は、建物編集内へのブロックには反映されません。

道路斜線		No:1 境界線:5		建物登録							
項目	値	No	種類	上面	下面	Z	ZD	適合	計画	P	面積
用途地域	近隣商業/80/480	1	建物	傾斜				✓		4	385.00
適用距離	25m	2	建物	平面		40.000			✓	4	148.00
後退距離	5.000m	3	建物	平面		35.000			✓	6	165.00
地盤高	0.000m										

■上面

- ・“傾斜/平面”の何れかが選択可能です。
- ・“傾斜”が選択されている場合は、“ブロック編集”で高さの確認及び編集を行います。
- ・“平面”が選択されている場合は、Z(又は ZD)欄の編集が可能です。

■下面

- ・計画建築物が最初から種類欄が“中空”になっている場合のみ、“傾斜/平面”の切り替えが可能です。

■Z、ZD

- ・高さの編集が可能です。
- ・“ZD”は、種類欄が“中空”になっている場合のみ編集可能です。

■適合・計画

- ・各ブロックに対してどちらかのチェックが可能です。

[天空率用図形/測定ライン]

- 天空率計算における測定点を構成する“測定ライン”の編集又はピッチの編集を行います。
- ADSの天空率計算における測定点は、ライン単位で管理しています。
- 道路が両端で幅員が異なっている場合やその他測定ポイントを自動生成では補えない場合に予め作成した補助線や作図線の交点・端点等を利用して測定ラインを任意に編集します。

[操作手順]

- 1) 対象となる領域を表示させます。
- 2) 編集する測定ラインを選択します。
 - ・通常は1領域に対して1つの測定ライン(連続線)で管理していますが、複数存在する場合は、“選択”コマンドを選択し平面図上で編集対象となる測定ラインを選択します。
- 3) 各種編集を行います。

○図形編集



既存ラインの編集及び新規作成等を行います。

○測定点処理



現在表示されている測定ラインのピッチを設定します。

- ・総延長 → チェックすると連続線の総延長に対して測定点を配置します。
- ・最大ピッチ → 測定点の最大ピッチを設定します。(実際は入力値以下の値になります)

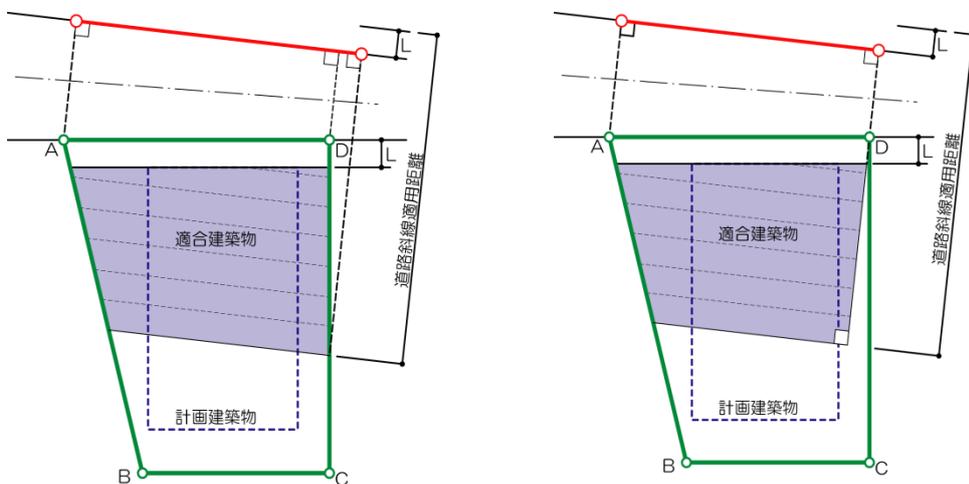
○座標編集

プロパティ内の座標欄で数値設定します。

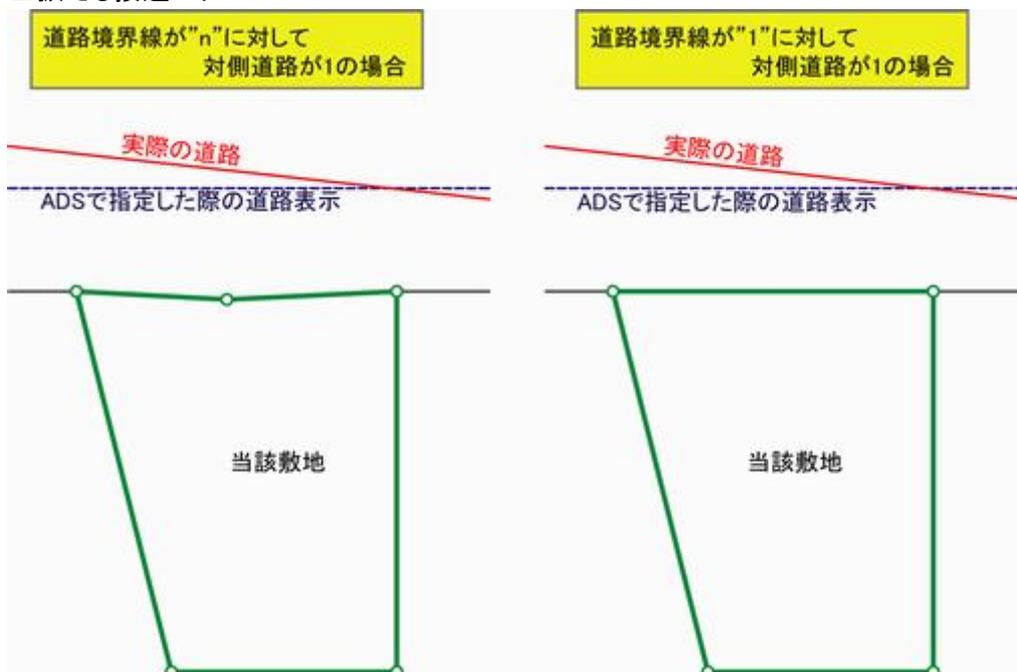
測定点の高さはここで設定します。

[天空率用図形/異幅道路(1面)]

- 道路境界線の両端で幅員が異なる場合に、道路斜線を2面道路として扱う場合の領域設定を行います。
- 実際の道路線は、予め補助線等で編集しておく便利です。
- ここで設定された領域は任意領域として保存されます。
- 生成される測定ポイントは、「与条件設定/境界線条件/道路高さ」に依存します。



■扱える接道パターン



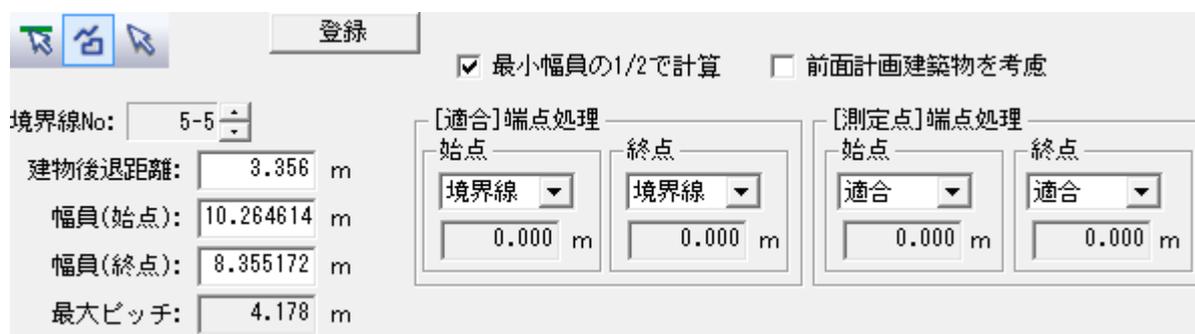
[操作手順]

- 1) “敷地境界線選択”を選択します。 
- 2) 平面図内で対象となる道路境界線を選択します。
 - ・次のステップに進むまでは選択をし直すことができます。
- 3) 道路の情報を設定します。
 - ・3種類の方法があります。

- ① 直接道路幅員を入力する。
 - ・プロパティ内の“幅員(始点 or 終点)”で数値入力します。
- ② 道路の線をトレースする(2点指定) 
 - ・“道路線をトレース”を選択し、平面図上で道路の線を2点指定します。
- ③ 道路の線をトレースする(背景図選択) 
 - ・“道路線を選択”を選択し、平面図内で補助線/DXF等の背景表示されている線分を選択します。

※②又は③の作業を行うと、プロパティ内の“幅員”欄に数値が取得されます。

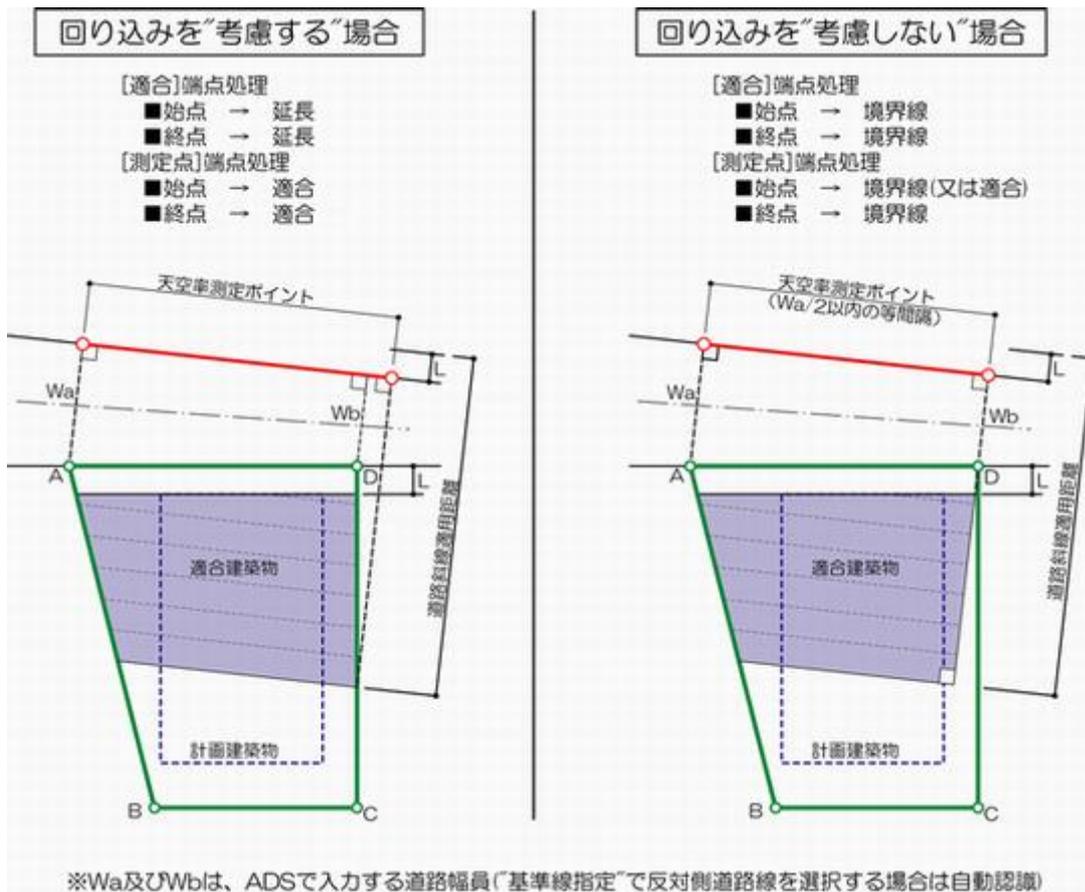
4) プロパティ内で、その他の設定及び確認を行います。



建物後退距離	適合建築物の後退距離を設定 複数の道路境界線が指定されている場合は、数値指定した後退距離で適合建築物が一括生成されます 予め自動認識されている数値以外の場合は、ここで数値入力します
幅員(始点) 幅員(終点)	反対側道路境界から垂直に見た距離を入力(前頁の Wa、Wb を参照) 「基準線指定」を指定した場合は、自動的に数値が表示されます
最大ピッチ	測定ポイントの最大ピッチを指定 「最小幅員の 1/2 で計算」にチェックが付いている場合は、選択不可
最小幅員の 1/2 で計算	測定ポイントのピッチを幅員(始点又は終点)の狭い方の 1/2 で配置する場合にチェックします(デフォルトで、チェックされています)
前面計画建築物を考慮	建物後退距離よりも前面に計画建築物が存在する場合はチェックします
[適合]端点処理	適合建築物の端部の処理を実行
[測定点]端点処理	測定ポイントの端部の処理を実行

- 5) “登録”を選択します。
 - ・“登録”を選択すると作成されます。
 - ・“登録”を選択するまでの間は、上記の作業は自由に行えます。

■ 端点処理(例)



[天空率用図形/異幅道路(2面)]

- 道路境界線の両端で幅員が異なる場合に、道路斜線を2面道路として扱う場合の領域設定を行います。
- 実際の道路線は、予め補助線等で編集しておく便利です。
- ここで設定された領域は任意領域として保存されます。
- 生成される測定ポイントは、「与条件設定/境界線条件/道路高さ」に依存します。



[操作手順]

1) “敷地境界線選択”を選択します。



2) 平面図内で対象となる道路境界線を選択します。

- ・次のステップに進むまでは選択をし直すことができます。

3) 道路の情報を設定します。

- ・3種類の方法があります。

① 直接道路幅員を入力する。

- ・プロパティ内の“幅員(始点 or 終点)”で数値入力します。

② 道路の線をトレースする(2点指定)



- ・“道路線をトレース”を選択し、平面図上で道路の線を2点指定します。

③ 道路の線をトレースする(背景図選択)

- ・“道路線を選択”を選択し、平面図内で補助線/DXF等の背景表示されている線分を選択します。

※②又は③の作業を行うと、プロパティ内の“幅員”欄に数値が取得されます。

4) プロパティ内で、その他の設定及び確認を行います。

		登録	
<input type="checkbox"/> 前面計画建築物を考慮			
境界線No:	5		
建物後退距離:	3.356	m	
幅員(始点):	6.000	m	
幅員(終点):	6.000	m	
[適合]端点処理		[測定点]端点処理	
始点	境界線	終点	境界線
0.000	m	0.000	m
始点	適合	終点	適合
0.000	m	0.000	m

建物後退距離	適合建築物の後退距離を設定 複数の道路境界線が指定されている場合は、数値指定した後退距離で適合建築物が一括生成されます 予め自動認識されている数値以外の場合は、ここで数値入力します
幅員(始点) 幅員(終点)	反対側道路境界から垂直に見た距離を入力(前頁の Wa、Wb を参照) 「基準線指定」を指定した場合は、自動的に数値が表示されます
最大ピッチ	測定ポイントの最大ピッチを指定 「最小幅員の 1/2 で計算」にチェックが付いている場合は、選択不可
前面計画建築物を考慮	建物後退距離よりも前面に計画建築物が存在する場合はチェックします

[適合]端点処理	適合建築物の端部の処理を実行
[測定点]端点処理	測定ポイントの端部の処理を実行

※(“天空率解析/領域条件”に同じ)

5) “登録”を選択します。

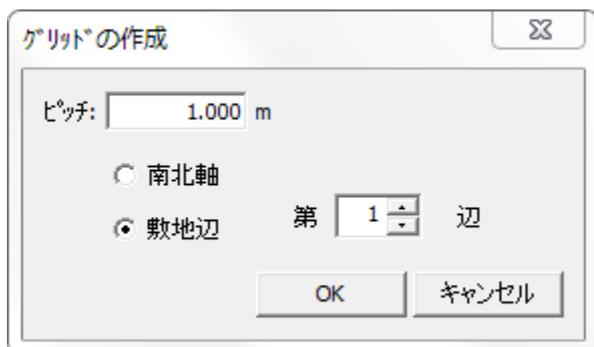
- “登録”を選択すると作成されます。
- “登録”を選択するまでの間は、上記の作業は自由に行えます。

[マスプラン/グリッド編集]

- マスプラン内でブロックを作成するために必要なグリッドを設定します。
 - マスプランで作成できるブロックは、全てここで設定されたグリッド上のみです。
 - 最初は必ず“自動作成”でグリッドを作成しておく必要があります。
- ※マスプランは ADS のオプション製品です。

■自動作成

- グリッドを新規で作成します。
- ダイアログボックスで、“ピッチ”及び“基準軸”を設定し、“OK”を選択します。



○ピッチ

- ・グリッドのピッチを入力します。

・

○基準軸

- ・“南北軸”若しくは“敷地辺”（辺番号指定家納）の何れかを選択します。

■グリッド線選択

- ・編集対象となるグリッドを選択します。
- ・平面図上で編集対象となるグリッドを選択します。
- ・選択後は、“グリッド線移動 1～3”又は“グリッド線削除”を行います。

■グリッド線挿入

- ・任意の場所にグリッドを挿入します。
- ・平面図上で挿入したい既存グリッドの中間点付近を左クリック後、方向を指定するグリッドが表示されますので、どちらかの方向で左クリックします。

■グリッド線移動 1

- ・選択されたグリッド 1 本のみを移動します。

■グリッド線移動 2

- ・選択したグリッドを含む右又は上方向のグリッド全体を移動します。

■グリッド線移動 3

・選択したグリッドを含む左又は下方向のグリッド全体を移動します。

■グリッド削除

・選択されたグリッドを削除します。

■数値編集

・プロパティ内の数値を直接編集します。

No	ピッチ	位置		▲	No	ピッチ	位置		▲
X1		0.000			Y1		0.000		
X2	3.000	3.000			Y2	3.000	3.000		
X3	3.000	6.000			Y3	3.000	6.000		
X4	3.000	9.000			Y4	3.000	9.000		

[マスプランブロック編集]

○“グリッド編集”で作成されたグリッドに対してブロックを編集します。

■ [編集前の断面計画の確認](#)

■ [編集前の壁厚の設定](#)

■ [自動作成\(ブロックの新規作成\)](#)

■ [ブロック作成\(個別、新規\)](#)

■ [ブロック選択\(1点\)](#)

■ [ブロック選択\(矩形\)](#)

■ [ブロック移動](#)

■ [ブロック複写](#)

■ [ブロック増減](#)

■ [ブロック削除](#)

■ [ブロックのグループ化](#)

■ [グループの解除](#)

■ [属性設定](#)

■ [フロアブロックの削除](#)

■ [建物登録](#)

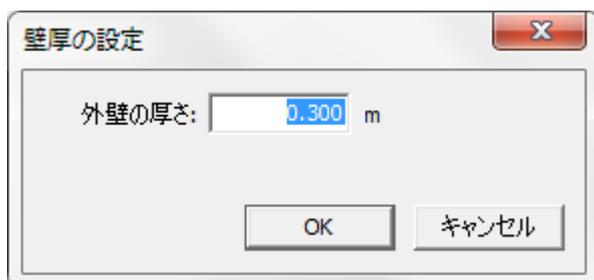
■ [編集前の断面計画の確認](#)

○断面計画(与条件設定)が複数登録されている場合は、編集を行う断面計画番号を選択しておきます。

断面計画:

■ [編集前の壁厚の設定](#)

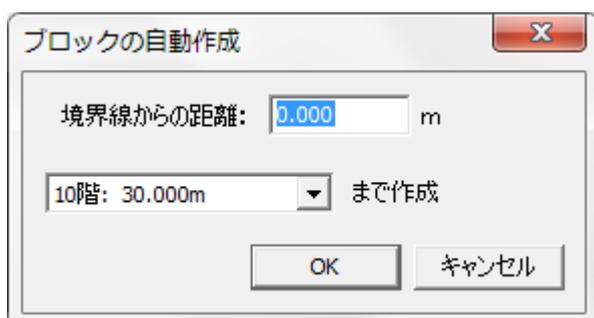
○ブロックそのものは、グリッド上に作成されますが、各種チェック及びカットを行う場合は、ここで設定された壁厚分だけふかして処理を行います。



■ [自動作成\(新規作成\)](#)

○ブロックを自動的に作成します。

○最初は、まずこのコマンドによる処理をお勧めします。



○境界線からの距離

- ・ブロック自動作成時の境界線からの逃げの数値を入力します。
- ・ブロックはあくまでもグリッド上に作成されますので、ここで設定された数値以上の位置に配置される場合もあります。

○～まで作成

- ・断面計画上の何階まで自動作成するかを設定します。

■ブロック作成(個別、新規)

- フロア単位で任意にブロックを作成することができます。
- 予め作成するフロアを選択しておく必要があります。

編集階: 1階: 3.000m

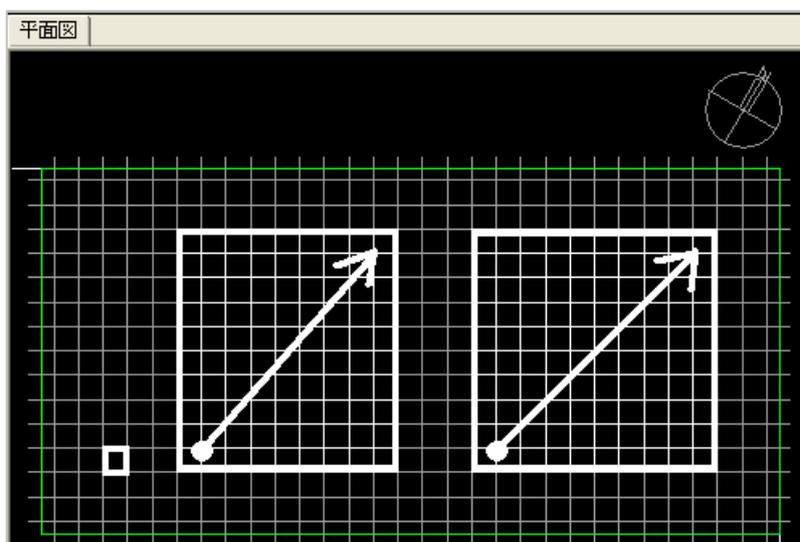
[操作手順]

- ① ブロック作成を選択します。 
- ② 属性を選択します。



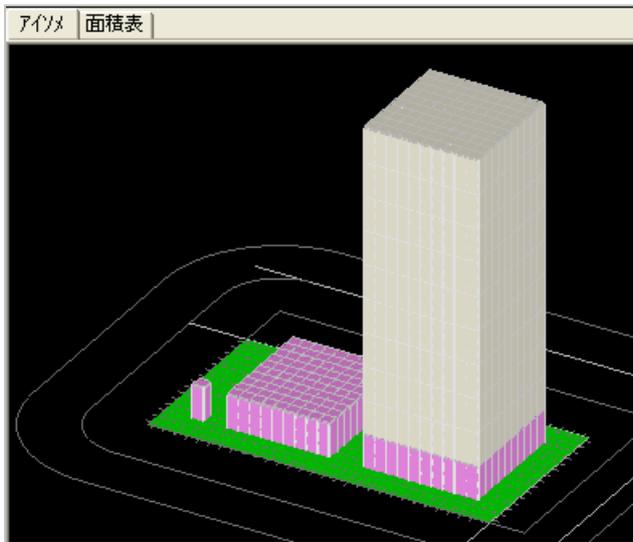
- ・面積集計する際に有効となります。

- ③ 平面図上(グリッド内)で、ブロック作成を作成します。
作成方法は、以下の3通りあります。



A	1ブロック作成(1ブロックのみ_平面)	1ブロック内をダブルクリック
B	指定範囲作成(指定階のみ_平面)	1点目を選択→2点目を選択
C	指定範囲作成(最下階から最上階)	1点目を選択→「Ctrl」キー+2点目を選択

④ ブロックが作成されます。



■ブロック選択(1点)

- 作成済みブロックに対して編集を行う場合に事前にブロックを選択します。
- 平面図内に表示されているブロックを1ブロックのみ選択できます。
- 複数のブロックを選択する場合は、“Ctrl”キーを押しながら選択します。

■ブロック選択(矩形)

- 作成済みブロックに対して編集を行う場合に事前にブロックを選択します。
- 平面図内に表示されているブロックを2点指定(矩形)で選択できます。
- 2点指定した際のエリアを含むブロックが選択可能です。
- 複数のブロックを選択する場合は、“Ctrl”キーを押しながら選択します。

■ブロック移動

- 選択されたブロックを移動します。
- 同一フロア内での移動となります。

[操作手順]

- ① 予めブロックを選択しておきます。 ※ブロック選択(1点)又はブロック選択(矩形)
- ② “ブロック移動”を選択します。
- ③ 平面図内で、移動の基点を選択します。
- ④ 平面図内で、移動先を選択します。

※移動先にブロックが存在する場合は、移動できません。

■ブロック複写

- 選択されたブロックを複写します。
- 同一フロア内での複写となります。

[操作手順]

-
- ① 予めブロックを選択しておきます。 ※ブロック選択(1点)又はブロック選択(矩形)
 - ② “ブロック複写”を選択します。
 - ③ 平面図内で、複写の基点を選択します。
 - ④ 平面図内で、複写先を選択します。

※複写先にブロックが存在する場合は、移動できません。

■ブロックの増減

- 選択されたブロックを上下階に増減します。
- アイソメ図内で作業を行います。
- 上階の同じ位置にブロックが存在する場合は、追加できません。

[操作手順]

- ① 予めブロックを選択しておきます。 ※ブロック選択(1点)又はブロック選択(矩形)
- ② “ブロック増減”を選択します。
- ③ アイソメ図上で、ブロックの上面を選択して増減させます。
 - ・左クリック → 1フロア上にブロックを追加(増)します。
 - ・右クリック → ブロックを削除します。

■ブロック削除

- 選択されたブロックを削除します。

[操作手順]

- ① 予めブロックを選択しておきます。 ※ブロック選択(1点)又はブロック選択(矩形)
- ② “ブロック削除”を選択します。

■ブロックのグループ化

- 複数のブロックを一つにまとめます。
- グループ化された塊単位で編集が可能です。

[操作手順]

- ① 予めブロックを選択しておきます。 ※ブロック選択(1点)又はブロック選択(矩形)
- ② “グループ化”を選択します。

■グループ化の解除

- グループ化されたブロックを解除します。

[操作手順]

- ① グループ化されたブロック群を選択します。
- ② “グループ解除”を選択します。

■属性設定

○ブロックの属性を変更します。

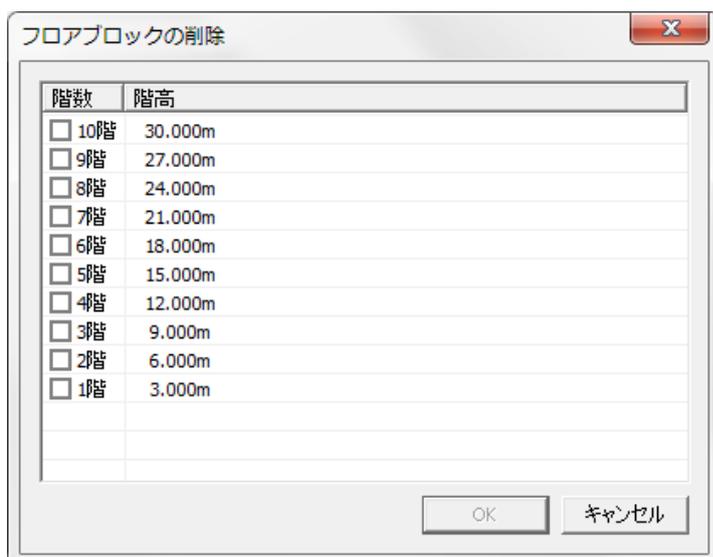
[操作手順]

- ① 予めブロックを選択しておきます。 ※ブロック選択(1点)又はブロック選択(矩形)
- ② 属性を選択します。(対象 or 対象外)
- ③ “属性設定”を選択します。

■フロアブロック削除

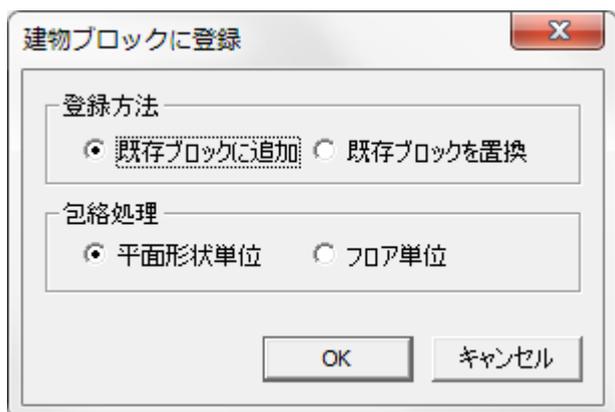
○任意のフロアのブロックを全て削除します。

○ダイアログボックスより削除したフロアを選択して“OK”を選択します。



■建物登録

○マスプランで編集されたブロックを建物編集用のブロックに変換します。



登録方法	既存ブロックに追加	既存ブロックを消さず、新規ブロックを追加する
	既存ブロックを置換	既存ブロックを削除し、新規ブロックに置き換える
包絡処理	平面形状単位	同じ形状の平面をひと固まりにまとめて形成
	フロア単位	各階毎に形成

[マスプラン/カット]

○ブロック編集されたブロックに対して、“斜線制限・日影規制・天空率”のチェック又はカットを行います。

■通常のチェック又はカット

○チェック項目

- ・各種チェックを行います。
- ・チェック結果がアイソメ図に表示されます。
- ・何れかのチェックを行わないと“カット”又は“連続カット”ができません。

○カット

- ・チェック結果に対して“カット”を行います。
- ・チェック結果でアウトになっている部分がカットされます。
- ・現在のチェック結果に対してのみのカットとなります。

○連続カット

- ・表示されているチェック結果に追加して連続カットを行います。
- ・連続カットで残ったブロックが各規制をクリアするブロックとなります。

チェック項目	カット	連続カット
<input type="radio"/> 斜線チェック	<input type="button" value="斜線カット"/>	<input type="button" value="斜線連続カット"/>
<input checked="" type="radio"/> 日影チェック	<input type="button" value="日影カット"/>	<input type="button" value="日影連続カット"/>
<input type="radio"/> 天空率チェック	<input type="button" value="天空率カット"/>	<input type="button" value="天空率連続カット"/>

■カット方法の設定

○カット又は連続カットを行う場合のカット方法を設定します。

カット方法の設定

斜線カット

高度地区のみチェックする

日影カット

低層型 高層型

カット順

規制時間オーバーの大きい順にカットする

北側の点から順にカットする

日照定規を表示する

天空率カット

JCBA(境界線延長・グループ化・入り隅延長)

方位角で調整 仰角で調整

左カット 右カット

道路斜線 隣地斜線

OK キャンセル

○斜線カット

- ・高度地区のみチェックする
- ・高度地区以外(道路/隣地)のチェックは行いません。
(道路/隣地は天空率を利用する場合に選択します)

○日影カット

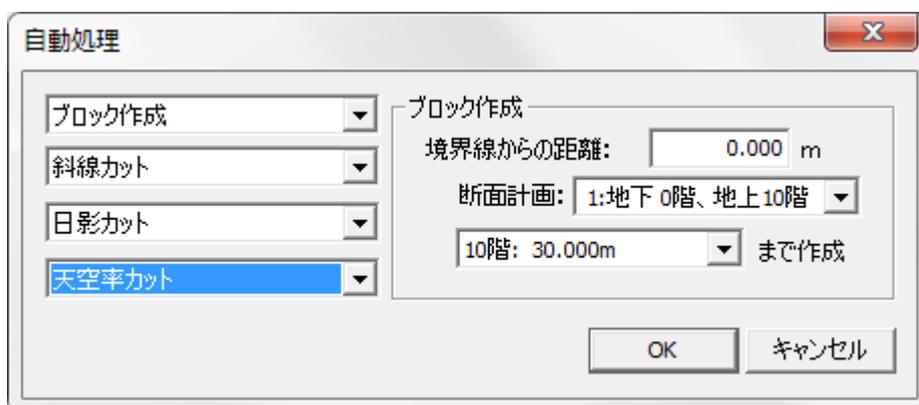
- ・低層型は、敷地全面に対して平均的にボリュームを持たせるタイプ
- ・層型は、敷地の一部にボリュームを集中させるタイプ
- ・日照定規の表示/非表示を選択します。

○天空率カット

- ・リストボックスより取扱いを選択し、アウトになった場合のカット方法を選択します。
リストの設定内容は敷地形状や道路の接道状況により、取扱いとは異なる判定をすることがありますので、編集後は“建物登録”を行ってから天空率解析をしてください。
- ・方位角で調整
間口に対するカット(チェック)を行います。
測定ポイント側から見た際の“左/右”の選択ができます。
- ・仰角で調整
高さ方向でのみのカット(チェック)を行います。
- ・道路斜線/隣地斜線
カット(チェック)をしたい斜線制限を選択します。

■全自動

- ブロック作成から各種カットまでを自動で行います。
- 予めグリッドが編集されている必要があります。



○自動処理順序(リストボックス縦列)

- ・自動処理を行う内容及び順番を設定します。
- ・ブロックが作成されていない場合は、最上段は必ず“ブロック作成”にしてください。

○ブロック作成

- ・ブロック作成の方法を設定します。
- ・設定内容は、ブロック編集/自動作成と同じです。